

学生による授業評価 と大学教育

大東文化大学授業評価報告書Ⅰ（全学データ）

2017年度

大東文化大学

目 次

はじめに	1
------	---

全学FD委員会委員長 中村 年春

ファカルティ・ディベロップメント委員会報告

第1章 授業評価アンケートの目的と実施方法	2
-----------------------	---

第1節 アンケートの目的と実施の経緯

第2節 アンケート実施方法と集計の概要

第2章 授業評価アンケートの集計内容と公表について	6
---------------------------	---

第1節 集計に際しての基本姿勢と留意点

第2節 結果の分析について

第3節 公表について

第4節 今後の「学生による授業評価アンケート」の展望について

第3章 昨年度（2016年度）の各学部・学科による分析報告	9
-------------------------------	---

スポーツ・健康科学部

環境創造学部

経営学部

国際関係学部

法学部

外国語学部

経済学部

文学部

＜参考資料1＞

大東文化大学ファカルティ・ディベロップメント委員会規程	29
-----------------------------	----

＜参考資料2＞

2017(平成29)年度 大東文化大学「授業評価」実施要項	30
-------------------------------	----

＜参考資料3＞

学生による授業評価アンケート質問・回答一覧	31
-----------------------	----

アンケート集計結果資料編

A. 履修登録者数・回答者数レベル別集計（全学・学年・学部別集計）	32
-----------------------------------	----

B. 項目別集計（全学・学年別集計）	46
--------------------	----

C. 項目別集計（学部別集計）	52
-----------------	----

D. 学年別集計（学部・学科別集計）	73
--------------------	----

E. 学科別集計	82
----------	----

は じ め に

全学FD委員会
委員長 中村 年春

全学FD委員会は、2017年度「学生による授業評価アンケート」からWeb方式を導入しました。ITに慣れ親しんでいる学生が時間、場所の制約を受けずに回答できること、学生の回答がリアルタイムで見られること、教員のコメントもリアルタイムで学生が見ることができること、授業を短縮する必要が無くなること、さらに教員および職員の負担と経費を軽減できることなど、さまざまな点を考慮した結果、導入に踏み切りました。原則として専任教員は2科目、非常勤講師は1科目を、2017年12月4日から12月23日までの期間で実施しました。また2017年度は、前年度と同様、後期に実施しました。

全学FD委員会では、授業評価アンケート結果のフィードバックを組織的に行うことが全学FD活動における重要な意義と捉えており、それぞれの学部・学科が独自の視点に立って授業評価アンケートの結果を分析し、FD活動を活性化していくことには大きな意味があると考えています。そこで、2017年度も前年度に引き続き、学生による授業評価アンケートの結果の分析を各学部・学科へ依頼しました。授業評価アンケート報告書の記載項目は、次の2点を必須としております。

1. 「各設問の数値に関する検証」：分析にあたっては、20の設問の中から注目すべき数値に加えて、2015年度と比較して特筆すべき事項がある場合にその指摘をお願いしました。
2. 「今後、実行すべき具体的な課題や行動計画について」：前年度との比較を通して、進捗状況と更なる改善点・展望を明らかにするようお願いしました。

ここ数年、学部・学科の記述において、前年度との比較や全学の平均値との比較に関する分析の内容が増え、さらに独自のFD活動への取組みや教育活動の質的充実に向けた施設・設備の拡充に関する提案なども見られ、記載内容が豊富になってきており、注目したいと思います。授業評価アンケートは、これまではややもすると個々の先生の授業改善にのみ言及されがちな傾向が見られました。それが、ここに来て組織的なフィードバックを視野に入れた活動へと転化しつつあると思われます。本学の授業評価アンケートは、新たなステージに入ったと言えるかもしれません。

しかし、解決しなければならない課題もあります。授業評価アンケートの内容の充実と効果をさらに高めることと、いかに回答率を上げるかです。全学FD委員会では、ワーキング・グループを設けて設問項目の見直しや実施方法の改善について検討を重ねてきましたが、未だ抜本的な課題解決に至っていません。本学は、学生による授業評価アンケートを他大学に先駆けて実施に踏み切り、それは授業の内容や方法の改善を図るうえで大きな役割を果たしてきました。その意味で、授業評価アンケートの回答率アップは至上命題と言えます。魅力的な授業や教育改善の成果をより一層高めるため、全学FD委員会でさらに議論を深め、本学の教育の質向上を図っていくことが期待されます。

最後に、本年度、学生による授業評価アンケートの実施にあたってご理解とご協力くださった多くの学生および教職員の皆様に衷心よりお礼申し上げます。

以 上

第1章 授業評価アンケートの目的と実施方法

第1節 アンケートの目的と実施の経緯

（概要）

2017年11月27日から12月23日に実施された「学生による授業評価アンケート」について報告する。今回のアンケートは、Web方式を導入し行われた。実施目的は、授業に対する学生の率直な意見を聴取して本学の授業内容及び教育方法の改善に資することにある。併せて、自己点検・評価活動の一環として行っており、本年度で16回目を数えた。

アンケート結果に関する集計方針は、学生の授業への評価を統計的に、学年・学部・学科・授業別に提示することである。加えて、個々の教員・授業に関して学生がどのような感想・意見を持つかを個別に収集することにも工夫し、各教員に授業改善の取組みに着手するための判断材料を提供することを目指してきた。

また、（公財）大学基準協会（本学が2010年度に受審した認証評価機関）の方針を踏まえ、2011年度に本委員会が掲げた以下の姿勢を維持している。

（公財）大学基準協会による大学評価（認証評価）は2010年度で第一期が終了し、2011年度からの第二期大学評価（認証評価）では評価の基準が見直された。「全ての授業について統一した項目で授業評価が実施されていること」が、評価の際に留意すべき事項から外れ、その代わりに、達成度評価として「教育内容・方法等の改善を図ることを目的とした研修・研究が、定期的に実施されるものであり、また、これを踏まえた改善プロセスを明らかにしているなど、教育の質の維持・向上に恒常的かつ適切に取り組んでいる。」（『「大学評価」ハンドブック』（公財）大学基準協会）という留意すべき事項が設けられている。これに準拠した形で、大学は授業評価アンケートの継続又はそれに替わる制度を導入し、社会に対して教育の品質保証をしなければならない。これについては本委員会において、中・長期的な課題として検討していく必要がある。

（2011年度版大東文化大学授業評価報告書『学生による授業評価と大学教育』より）

（認証評価結果を受けての本学の姿勢）

本学は2010年度に（公財）大学基準協会の認証評価を受審し、以下のような指摘（「助言」）を受けた。

「全学部において、授業評価アンケートが専任教員は年間2科目、兼任教員は年間1科目の実施にとどまっており、結果のフィードバックも主として個々の教員に委ねられているので、改善が望まれる。」（2010年度「大東文化大学に対する大学評価（認証評価）結果」（公財）大学基準協会）

この結果に対して、本委員会では2011年度から議論を重ね、2013年度には以下の方向を定めた。

- ①本学では2004年度までの4回にわたる授業評価アンケートでは全科目について実施してきた。しかしながら、「同じ教員が担当する授業で評価が極端に異なることは考えにくい」こと、「対象科目を絞り込むことによって教員・学生双方の負

担を軽減」し「教員にはきめ細やかな改善策を策定するための労力を割いてもらいたい」（2006年度版授業評価報告書『学生による授業評価と大学教育』）との理由により、2006年度からは専任2科目、非常勤1科目体制に変更した経緯がある。2013年度に再度2004年度の結果を調査（3教員を無作為で抽出）したところ、同一教員により「極端に異なった」結果が出ているとは言い難かった。この確認に基づいて、アンケート科目数を絞っても十分に信頼できるデータがとれると判断し、専任2科目・非常勤1科目とした。

- ②アンケート結果のフィードバック方法が教員個人に委ねられているという指摘についてはこれを真摯に受け止め、組織的な取り組みが必要と判断した。2011年度まではアンケートの実施母体（現在ではFD委員会）のみが行っていたアンケート結果の分析を、2012年度分からは各学部・学科のFDを担う委員会に依頼して学部・学科単位で行う教育改善を促し、その分析結果を『報告書』へ掲載することとした。

なお、昨年度（2016年度）に（公財）大学基準協会による第二期大学評価（認証評価）を受審した。その結果と本学の現状を勘案し、アンケートの今後の方向性について現在、抜本的な検討作業にはいっている。

（今までの流れ）

近年の本学の「学生による授業評価アンケート」の流れについて、以下に要約しておく。2009年度のアンケート実施から、設問と集計方法について大幅な見直し作業を行った。設問群の変更を行い、大きな3つのカテゴリー（「Ⅰ．学生自身への設問」、「Ⅱ．授業への設問」、「Ⅲ．総合的な設問」）に分けた。

2008年度にあった「この授業を総合的に評価して下さい」（選択肢は「満足」「やや満足」「どちらともいえない」「やや不満」「不満」の5択）という一設問を、「Ⅲ．総合的な設問」として4つの設問を設け、その平均評価値を以ってその授業の「総合評価」と改めた。その結果は全学集計「D．学年別集計（学部・学科別集計）」にて観察することができるようになった。

4つの設問の中にその授業に「とても満足できましたか」との設問をおいた。この満足度を以って授業の「総合評価」とする考えもあり得るだろう。しかし、単に満足したか否かの問いだけで直ちに総合評価とはできない。例えば、「この授業はあまり出席しなくても単位取得ができる」「（授業内容はともかく）先生の雑談が面白かった」など、設問の本意とは異なる動機で「満足」したと回答する可能性がある。逆に、本来ならば評価されてもよいような高水準の授業に対して「出席、授業態度に厳しく単位取得が難しい授業」や「高度な専門性のため授業についていけない」などの理由で「満足度」が低くなる傾向も否定できない。これらの観点を考慮して、「新しい自己発想」「分野への関心」「自分で考える姿勢」と「満足度」という4つの設問の平均値を以って「総合評価」とした。

こうした基準による結果が「総合評価」としてふさわしいかどうかについては慎重な検討が必要である。本委員会において「総合評価」の在り方については何度も議論してきたことを付記しておきたい。

本報告書に掲載されている全学集計表「A～D表」は2009年度に精査された集計法で、現在に至っている。2011年度から全学集計として「E．学科別集計」を加えることになった。

この学科別集計については、2009年度から報告書への掲載の是非を本委員会内で検討してきた。学科別集計表は各学科の設問ごとの数値がわかりやすい形で比較可能であることが議論を呼び、各学科の「序列」が示されているとの誤解を招きかねないという危惧が上がった。結果についての何らかの評価がないこと自体、アンケート実施の趣旨に反するとして、本委員会は2011年度から「E. 学科別集計」を掲載することにした。

本学が実施している「学生による授業評価アンケート」は授業を数値化して序列化しないことを本委員会は原則としており、学生および教員にアンケート実施を依頼する前提でもあった。実施科目には大規模科目もあれば小規模科目もあり、授業形式においても演習や講義など多様である。また、各学科や分野の性質や教員一人当たりの学生数などの全く異なる状況にある授業に対して同一基準によって一律に数値化することが原理的に不可能である。これらの限界を抱えながらも、アンケートによって個々の授業のアンケート結果を通して「授業改善」そして組織的な「教育改善」につなげることが本学の基本姿勢であることを再度確認しておきたい。

2012年度には携帯及びスマートフォンを使用したWebアンケートを実施した。従前のマークシート方式による膨大なコストと事務の過重負担が限界に達しており、アンケート自体の可能性を探るための試みであった。しかしながら、東松山校舎における携帯電波状況の悪さとサーバーダウンのトラブル等が重なってしまった結果、Webアンケート方式は時期尚早と判断して2013年度からは従前のマークシート方式に戻したが、膨大なコストと事務の過重負担削減、授業短縮の必要がなく、学生が期間中ならいつでもどこでも回答でき、教員コメントがリアルタイムに学生へ反映できる利点から2017年度はWeb方式を導入した。

(本年度の実施)

2006年度以降後期に実施、2014年度及び2015年度は前期に、2016年度は後期に実施した。本年度はWeb方式準備時間を長くとるため、昨年に引き続き、後期実施とした。

第2節 アンケート実施方法と集計の概要

アンケート項目は授業形態や内容に関わらず全科目共通で、必要に応じて2項目を上限として質問項目の追加を可能とした（法学部は所属学生向けに独自の質問を設定した）。

本年度もアンケートは無記名方式（匿名回答）とした。学生の自由な意見を妨げるべきではないこと、回収率が極端に下がる懸念があるなどの観点から、マークシート方式と同様な内容で行った。

アンケート実施中・後に提出される教員コメントから、ここ数年、学生が記述する自由記述欄の内容に、根拠のない教員の悪口、重箱の隅をつつくような授業に対する不満などが記載されているとの報告が散見される。それでも、「匿名性」を保ち学生が自由な意見を提言できる環境を堅持することは極めて重要であると委員会は考えている。事実、このような記述をする学生はごく一部であるにもかかわらず、教員は僅かな否定的感想に過敏に反応しがちであることは否定できない。授業水準の維持や授業運営方法にそうした少数意見が大きな影響を与えてしまう可能性の存在は教育の品質と成果に直結する問題を惹起してしまう。常に評価されて続けている学生の多様な意見から授業改善に結びつける教員の冷静な対応を期待したい。

1) 実施対象

前述の通り、原則、専任教員は2科目、非常勤講師は1科目実施とした。

昨年度は、各学部・学科、東松山キャンパス運営委員会及び国際交流センター、教職課程センターにおいて、アンケートに相応しくない科目（オムニバス科目、短期集中科目、演習科目等）の抽出と授業形式等の作業を依頼することを割愛し、本委員会にて本年度の全学の授業データを整えたうえで、アンケート対象科目の選定基準を「（1）登録受講者数が最も多い科目（2）登録受講者数が10名以下の科目は原則として対象外とする」とした。

次に、本委員会が上記にしたがって選定したアンケート対象科目を各教員に連絡し、別科目での実施を希望する場合には本委員会へ申請をする方式を採った。

実施した教員数と授業科目数等は以下の通りである。

教 員 数： 908名（専任321名、非常勤587名）

対象科目数：1,198科目

対象学生数：73,337人（延べ）※登録受講者総数

有効回答数：10,677人（延べ）

回 答 率： 14.6%

表 実施科目・人数

専／非	科 目	対象人数	回答人数
専任	611	44,912	6,346
非常勤	587	28,425	4,331
計	1,198	73,337	10,677

※1）原則、専任2科目・非常勤1科目だが、科目選定上の都合で科目数に変動がある。

2) 実施期間と方法

アンケートは、2017年11月27日から12月23日の期間中に授業又は授業以外に実施された。アンケート実施に際し、教員は授業中に「アンケート実施中なので回答するように」との一言伝えていただだけで、授業中実施については各教員の判断に任せた。

3) 集計方法

回答は5択制「否定的／やや否定的／どちらとも言えない／やや肯定／肯定的」を採用し、その他、以下の通り設問に合わせ選択肢を設けた。

設問1・6：「100～90点／89～80点／79～70点／69～60点／60点未満」

設問2：「やらなかった／あまりやらなかった／どちらとも言えない／少しやった／大いにやった」

設問3：「集中しなかった／あまり集中しなかった／どちらとも言えない／やや集中した／大いに集中した」

設問15・19：「感じなかった／あまり感じなかった／どちらとも言えない／少し感じた／大いに感じた」

設問16：「行っていなかった／あまり行っていなかった／どちらとも言えない／少し行っていた／大に行っていた」

以 上

第2章 授業評価アンケートの集

計内容と公表について

第1節 集計に際しての基本姿勢と留意点

アンケートの集計に際しては、本学の基本的な姿勢として次のことが継承されている。前回報告書より、当該の文章を以下に再録する。

学生による授業評価は、授業の運営をめぐって学生と教員のあいだの意思疎通を図り、教員が学生の声を受け止めながら今後の授業改善に役立てるための基本資料を提供する目的を持っている。したがって授業評価は、授業改善に取り組む教員を励ます「応援歌」となるべきものであり、この原則を離れて、集計結果に示された数値（評点）のみに基づいて単純に教員ないし授業を序列化することは厳に慎まなければならない。この点は、教員のみならず学生、職員を含め、全学の共通認識としてあらためて確認しておかねばならない。

（2015年度版大東文化大学授業評価報告書『学生による授業評価と大学教育』）

なお、この報告書の集計データは、今後の各学部・学科による組織的な建設的授業改善議論を深めていくためのひとつの素材として活用されることを強く期待している。

第2節 結果の分析について

本委員会では、第1回目から第10回目（2011年度）実施のアンケートまで全学集計データをもとに様々な分析を行い、2009年度から2011年度については、統計の専門教員を委員に選出し本格的な分析も実施してきた。

しかし、本委員会が行う分析作業は様々な方法で実施し、すでにやりつくしてきたこと、本委員会のみで各学部・学科を一律的および横断的に分析するには限界があること、また、これ以上の成果が期待できないと判断した。そこで2012年度からは、「FD活動」とは本来、大学全体のみならず各学部・学科レベルでの組織的な教育改善活動として取り組むべきであるとの認証評価機関および全国の大学等の全般的な認識と、各学部・学科への依頼として報告書の本委員会が収集したデータを活用してそれぞれの事情に応じた教育改善が図られるべきだと判断した。

2012年度分の各学部・学科の分析報告書は、初めての試みということもありまずまずの内容であったが、2013年度分の同報告書から内容が充実してきており、各学部・学科のFD活動に対する意識の向上の片鱗がみられる。また、2015年度の同報告書は、本報告書第3章に掲載している。是非ご一読いただきたい。

なお、アンケートの分析業務を各学部・学科へ移行することは本委員会の負担を減らすことを意図したものではなく、分析の質を低下させるものでもないことを強調しておきたい。「学生による授業評価アンケート」はFD活動の一環として大変重要ではあるが、「アンケートの実施イコール大学のFD活動」とであるという時代はすでに過ぎていることは周知

の通りである。本委員会では、「学生による授業評価アンケート」はFD活動のひとつとして捉え、引き続き大学全体に関わる教育改善を目指す活動組織として役割を全うしていきたい。

第3節 公表について

本報告書（冊子）には、以下の集計データと、その分析が収録されている。

- A：履修登録者数・回答者数レベル別集計（全学・学年・学部別集計）
- B：項目別集計（全学・学年別集計）
- C：項目別集計（学部別集計）
- D：学年別集計（学部・学科別集計）
- E：学科別集計

今回も実施した全科目毎の担当教員にコメントの提出を求めた。その結果、1,176科目中、提出があったものは607科目、提出率は全体で51.5%（専任46.0%、非常勤54.0%）だった。昨年（51.8%）より若干回収率が若干下がった。例年通り、全体的に低い数値、専任教員より非常勤講師の回収率が高い傾向が続いている。

その個々の科目の集計結果とそれに対する担当教員からのコメントは、2006年度より教員のコメントを付して学内に公表されていたが、Web方式導入後も引き続き検討している。

第4節 今後の「学生による授業評価アンケート」の展望について

数年前から本委員会ではアンケートのあり方について抜本的見直しを含めた改革案について検討を重ねてきた。毎回検討もなく従前と同じ方法で実施を決めず全面的改定も含め検討してきた。しかしながら多くの高く厚い壁が存在し、全学的な抜本的改革の具体案を示せないのが現状である。

事実、本年度（2017年度）は本委員会に授業評価ワーキング・グループを設置し、新しいアンケート制度の抜本的な見直しを目標に検討を行った。委員会内では具体案の合意まで得られたにもかかわらず、委員会活動から全学へ提案への途中段階で廃案となった。

2017年度以降も引き続き検討することになる予定であるが、そもそも本学が抱える教育的課題がどのような状況であるのか、またそれらをどのような形で解決するのか、高いレベルでの指導力の発揮なくして教育改革は不可能である。事実多くの大学においても、平穏順調に教育改革が進んでいる様子はみられない。大いなる決意と巨大なエネルギーを投入して、ようやくその一步を踏み出したというのが、教育改革を軌道に乗せた大学からの声である。

本学においては、授業評価アンケートという教育改革のために1つのトリガーだけでなく、私立大学を取り巻く期美々しい現状を正確に読み解き、多くの課題を一気に正の方向に展開する大胆とも言える施策を断行すべき重大な局面にさしかかっていることを申し述べておきたい。

本委員会から何回も指摘しているが、学内で抱えている諸問題、例えば8学部2キャン

パス制による弊害、科目数・教員数が多く運用が困難な東松山校舎の現状と多大なるコスト、さらには教学を支える事務職員の過剰負荷など本学特有の諸事象はどれも本学の提供する教育品質に直接関わるものであり、授業評価アンケートだけに影響するものではない。特に今年度から導入したWeb方式は、大幅なコストダウンを見込めても実際の回答率が低ければもとのマークシート方式に戻すことも今後の選択肢に入る。そのため、学生の動向でアンケートを実施するのではなく、ある程度授業中に時間を割いてでもアンケートを行っていただけるようにしなければ回答率の向上は見込めない。また、Web方式導入によって年1回の授業評価アンケートを年2回行うことも検討していきたい。

これらの諸問題については、全学的な議論と解決が必要不可欠と思われる。それと並行して本委員会は本学の教育の質を高めるための活動を行っていくべきであろう。引き続き、各学部・学科の本委員会の活動をご理解、ご支援いただくことを伏してお願いしたい。

以 上

第3章 昨年度（2016年度）の各学部・学科による分析報告

第1章および第2章でも触れたが、2011年度までは全学集計結果をもとに本委員会が分析作業を行い、アンケート結果をどのように授業改善へ活かすかは教員個々人に委ねることに留まっていた。そこで、本委員会では各学部・学科の「組織的」な取り組みが必要と判断し、2012年度のアンケート結果から各学部・学科のFDを担う組織に分析を依頼し、報告をいただくこととした。

前回に引き続き、昨年度（2016年度）のアンケート結果を各学部・学科に分析していただき報告書を提出いただいたので、次頁以降に掲載をする。

今回は5回目の試みとなり、各学部・学科のから報告書が充実してきている。前述の通り2013年度分の報告書から、アンケートとFD活動全般に対する意識の向上がみられる。それまでは、アンケート結果に関する情報と授業改善に関する事項は、本委員会と個々の教員のみの問題であった。それがこの制度を導入したことにより、各学部・学科による教育改善活動に繋がる機会になってきた手ごたえがある。アンケート結果による「授業改善」を如何にするかという課題が各学部・学科の教育全体を如何にするかという議論に繋がり、それはまさに「FD活動」という大きなカテゴリーである「教育改善」を行う姿勢が出ていたということである。このことは、次頁以降の各報告書からもよくうかがえる。

この取り組みは引き続き実施していく予定であり、2017年度のアンケート結果について各学部・学科へ分析を依頼し、2018年度版の本報告書に掲載する予定である。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

スポーツ・健康科学部

1. 2016年度各設問の数値に関する検証

（1）学部における高値、低値にあたる項目の分析

1-1. スポーツ・健康科学部における平均値の分析

出席率（Q1）において、100-90%出席率は70.8%であり全学部内最高値を示し、89-80%出席率である19.5%を加えると、履修生の90%が8割以上出席している結果となり出席率の高さを示した。また授業への集中（Q3）において、肯定的、やや肯定的の合計値63.2%は全学部2番目に高い値を示した。授業へ真剣に取り組む姿勢（Q6）に関して、肯定的は27.8%で全学部内最高値を示した。予習・復習・練習の項目（Q2）、授業の目的やねらいの明確さ（Q7）、自分で調べ、考える姿勢（Q19）、総合的に授業に満足（Q20）に関しては平均よりわずかに高い結果となった。シラバスの熟読（Q4）については肯定的、やや肯定的の合計値38.1%であり、昨年度に引き続き全学部内最低値を示した。高値を示した項目では、実技、実習など休むと後で習得が困難といった授業内容に関係していると考えられた。

1-2. スポーツ科学科における平均値の分析

全体で2位の高値を示した項目は出席率、授業姿勢への自己評価であった。全体で4位の高値を示した項目は、授業の集中であった。全体で3位以内の低値を示した項目はシラバスの熟読で最低値であった。その他の項目に関してはいずれも平均的であった。

1-3. 健康科学科における平均値の分析

出席率が全体で1位の高値を示した。その他の項目で3位以内の項目はなく平均的な値であった。全体で3位以内の低値を示した項目は満足度で最低値であった。その他の項目に関してはいずれも平均的であった。

（2）2015年度との比較（学科別）

2-1. スポーツ科学科における平均値の分析

2015年度では、全体で2位の高値を示した項目は授業への集中、授業姿勢への自己評価、授業目的の明確さであったが、2016年度では、授業姿勢への自己評価は同じく2位を維持し、授業への集中は4位、授業目的の明確さは8位へ下降した。出席に関しては前年度3位から2位へ上昇した。シラバスの反映は11位から10位に上昇した。予習・復習に関して、5位から8位に下降した。シラバスの熟読において17位 18位に下降した。理解のしやすさにおいて、3位から8位下降した。適切な授業進行速度において変化は見られず2位から9位に下降した。教材の使い方において6位から9位に下降した。学生の参加の機会において7位から8位に下降した。授業態度への対応において3位から7位に下降した。教員の熱意において4位から9位に下降した。新しい自己発想では3位から8位に下降した。自分で考える姿勢が4位から5位へ下降した。満足度が3位から7位へ下降した。いくつかの項目で下降する傾向が見られたことは大きな懸念材料であると言える。今後はそれらの科目について、工夫と配慮が必要であると考えられる。

2-2. 健康科学科における平均値の分析

出席率において、健康科学科が全体2位から1位に上昇した。シラバスの反映が12位から11位に上昇した。シラバスの反映は12位から11位に上昇した。板書などの見やすさは13位から11位に上昇した。シラバスの熟読が17位から18位に下降した。適正な授業進行速度が12位から16位に下降した。受講態度への対応は11位から16位へ下降した。授業への関心度合は11位から17位へ下降、満足度も12位から17位へ下降した。その他の顕著な変化は認められなかった。授業への関心度合や満足度が低下した事に対しては、現在行われている授業内

容の見直し、臨床検査技師国家試験を受験希望しない学生への対応改善が、良い影響をあたえる事が期待される。今後も、臨床検査技師を目指す学生への指導はもちろん、他の進路を選択した学生へ対応も充実したものにすることで、学問への関心、満足度も向上していく可能性がある。

（3）専門分野の特性から出たと考えられる数値について（学科別）

3-1. スポーツ科学科における分析

シラバスの熟読が毎年低値を示しており、その改善の方法は初回授業で全てガイダンスとしてシラバスの熟読、授業進行の方法などの周知当てたのであるが、この事が今回8位に上昇に関連していると考えられる。今後も授業初回のガイダンスで、シラバス熟読の告知を遂行していきたい。

3-2. 健康科学科における分析

健康科学科においても今回はシラバスの熟読が上昇を示した。実習を伴う授業でもシラバスの提示、熟読の告知を施行した影響があると考えられる。健康科学科においても初回授業のガイダンスでのシラバス提示、熟読告知を行っていく予定である。

2. 所属学部・学科の教員コメントについて

（1）スポーツ科学科について

・全体的に良い評価であるが、2015年度と比較して、予習・復習・練習、授業への集中、教材などの持参頻度、授業目的の明確さ、理解のしやすさ、適切な授業進行速度、板書などの見やすさ、教材の使い方、学生参加の機会、受講態度への対応、教員の熱意、新しい自己発想、授業への関心度合、自分で考える姿勢、満足度と15項目で下降を示した。これらの項目について、学科内で話し合いを持ち、対策を考えていきたいと考える。

・満足度について学年別に、肯定的とやや肯定的を合わせた割合を見ると、1年生は62.2%、2年生78.3%、3年生83.3%、4年生81.6%と徐々に上層傾向が示され、大学で授業や実習を受講するにつれて満足度が上層するという良い傾向である。今後も、スポーツ科の授業の充実を図り、さらなる満足度の獲得に努めていきたい。

・この授業では、スポーツマネジメントの入門編として、スポーツ活動を「支える人」に対する想像力を膨らませるとともに、そうしたマネジメントの現場における現状と課題について理解することを目的とした。アンケート結果からは、「授業目的が明確」と考えている学生が比較的多いが、前年と比較してやや減少した事について、また高い評価とはいえない「学生参加の機会」の状況を踏まえ、より良い授業をめざし、改善に取り組んでいく予定である。

・「シラバスの熟読」については前年度よりかなり良い結果となったが、初回授業時にシラバスを配布し読み合わせと説明を行った事が功を奏したと考えられ、今後も続けていきたい。

（2）健康科学科について

・実習が多い健康科学科の特性で、出席率が全学科の中で1位を示した。今後も出席率を落とさないように学生へ出席の重要性を周知していきたい。

・「学生参加の機会」の評価が低い事に対しては、臨床検査技師国家試験を受験する学生が多い事から、知識を学生に習得させる事に主眼が置かれている事に一因していると考えられる。今後は、FD研究会などで学んだアクティブラーニングなどを取り入れる事で、学生参加の機会を増やしていきたいと考えている。

・「受講態度への対応」については、私語に対する注意について今後も徹底していく。「受講態度への対応」については「授業への関心度合」も関連しており、授業内容の充実、興味をひく内容にする事で、受講態度が良くなる可能性がある。私語などを注意するだけでなく、授業への関心度合を増すような講義内容になるよう努めていくことが、学生の受講態度改善につながると考える。

・高校までの教科とは異なり、かなり専門性の高い講義科目が多いので、講義内容が分かりにくい事が原因でもあるが、講義のスピードが速い、要点がわかりにくいという意見があった。それらに関しては、1～2年生の時は分かりやすく、スピードを落として要点を明示しながら講義をするように心がけたい。教えるべき内容が膨大なため、限られた時間の中でどうしてもある程度のスピードをもって講義をしなければならぬので、その点は学生に理解してもらうようにしたい。

・「満足度」が低い事が問題である。専門性の高い講義科目、実習科目が多いので、1年生のオリエンテーションの時から、学生に勉強の仕方、学習習慣の大切さ、専門科目の特異性、国家試験を受ける予定の学生に対しては国家試験を受験するまでの道筋など、丁寧に示す事が大事であると感じた。また、アクティブラーニングなどを用いて、学生が少しでも興味がわくような講義、実習を心がけていきたいと考えた。

3. 2016年度(今回)の検証を踏まえ、2012～2015年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について(両学科)

シラバスの熟度については、スポーツ科は改善傾向を示し、健康科学科は改善したものの低値をしめした。各教員は工夫し取り組んでいると考えられるが、改善に取り組んでいる教員と行動が不十分な教員がいることが示唆されており、今後は取り組みの工夫などを共有したいと考える。また授業を改善する活動として、本年度全学FDでも取り組んでいるアクティブラーニングについて、学部全体で議論する機会を得た。その中で、様々な面白いアイデア、実際に行っている工夫、心がける点など多くの意見が出た。このような機会を持つことは非常に有意義だったので、本学部では今後もアクティブラーニングおよびそれらの関する事を議論する機会を持つ予定である。これらの事がすぐに良い結果につながるとは限らないが、長い目で学部の授業内容の改善になると考え取り組んでいきたい。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

環境創造学部

1. 2016年度各設問の数値に関する検証

(1) 本学部数値と全学部平均値との比較

2016年度の学部別集計結果によると、本学部は「Q1.出席率」が全学部平均値と同値となったが、他の19項目の設問において全学部平均値より0.1～0.2ポイント下回った。20項目の設問全てにおいて全学部平均値を下回っていた2015年度と比較すると、ほんの僅かだが改善した。

とはいえ、この改善は、教授方法や内容など授業そのものに対する評価や学生が授業を通して獲得したもの（Q7～Q20）に関わるものではない。「Q8.シラバスの反映」「Q9.理解しやすさ」「Q10.適切な授業進行速度」「Q12.教材の使い方」「Q16.飽きさせない工夫」の5項目の設問については、いずれも他3～4学部と同値で並んではいるものの最下位である。

(2) 本学部数値と全学部平均値との差の縮小

しかし、全20項目の設問に関する2015年度・2016年度の本学部数値と両年度の全学部平均値との差を見てみると、以下の点を確認することができる。

この間、20項目全ての設問において、本学部数値と全学部平均値との差が拡大したものは1つもない。13項目の設問については、全学部平均値との差が縮小している。

なかでもQ7～Q20の「Q7.授業の目的の明確さ」「Q8.シラバスの反映」「Q11.板書の見やすさ」「Q14.受講態度への対応」「Q17.飽きさせない工夫」「Q18.授業への関心度合」「Q19.自分で考える姿勢」の7項目の設問については全学部平均値との差を各0.1ポイント縮小した。加えて、「Q20.満足度」については、2015年度には全学部平均値と0.3ポイントの開きがあったが、2016年度にその差を0.2ポイント縮小し、0.1ポイントの開きに改善した。

(3) 本学科数値から見た改善の兆し

本学科の2015年度と2016年度の学科別集計結果を比較すると、Q7～Q20の全設問の数値が伸びていることがわかる。とくに、「Q16.新しい自己発想」0.17ポイント、「Q17.新しい自己発想」0.12ポイント、「Q18.授業への関心度合」0.17ポイント、「Q19.自分で考える姿勢」0.15ポイント、「Q20.満足度」0.24ポイント伸びている。

冒頭で述べた通り、2016年度本学部は1項目の設問を除き19設問について全学部平均値には及ばなかったが、詳細な数値が示されている学科別集計結果からも2015年度よりも全体的に改善の兆しが見られる。とくに、それを総合的な評価としての「Q20.満足度」に確認することができる。

(4) 本学部・学科の全学部中の順位の改善

全学部平均値への本学部数値の接近は、全学部中の順位にも影響を与えている。遺憾ながら、2015年度には20項目の設問のうち16項目について同順位の学部もあったが最下位だった。2016年度については、先の16項目中9項目の設問について最下位を脱した。そのなかでも、「Q7.授業の目的の明確さ」「Q17.新しい自己発想」の設問については全学部で中位に上昇した。

2015年度において全19学科中本学科は20項目中11項目の設問で最下位だったが、2016年度は「Q5.教材等の持参頻度」を除く10項目の設問について最下位を脱した。また、2016年度は「Q2.予習・復習・練習」「Q7.授業の目的の明確さ」「Q14.授業態度への対応」「Q17.新しい自己発想」「Q18.授業への関心

度合」「Q19. 自分で考える姿勢」の6項目の設問において全学科の中で中位に順位を上げた。

(5) 「Q20. 満足度」に関する本学部の特徴

2016年度の「Q20. 満足度」に関する学年別推計結果からわかることは、まず、他学部・他学科に比べて本学部の数値が4学年で大きく変化していない点である。また、その数値は概ね60～65%に留まり、多くの学部・学科で見られるように最終学年の4年生の満足度が1～3年生に比べて高値にはなっておらず、逆に若干低下している。

2. 今後、実行すべき具体的な課題や行動計画などをご記述ください。

本学部は社会学部への移行に伴い、カリキュラム改編によって全体構造を変えたり、学生のニーズを反映させた新たな授業を配置することはできない状況にある。したがって、可能な手立ては既存の各授業の改善ということに絞られる。それを、個々の教員が責任をもって実行していくことはもちろんだが、学部としても今まで以上に組織的に支援していくことが不可欠である。そのための行動計画等は、以下の通りである。

- ・本学部の「教育研究ワークショップ」で、上記1.について情報共有し、意見交換を行う。
- ・授業評価が高値を維持している教員および数値を大きく改善させた教員の協力を得て、そのような結果が得られた具体的な要因等について先のワークショップで情報提供してもらい、意見交換を行う。
- ・担当授業を学部教員に公開する機会を設けることを検討する。
- ・ワークショップで1.(5)で示した「Q20. 満足度」に関する本学部の特徴の現出について分析するための手立てを検討する。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

経営学部

1. 2016 年度各設問の数値に関する検証

経営学部の講義は、あくまで一般論としていえば、企業内の実務に関連する内容が多く、学生からすると、日常的なトピックスからやや乖離していると思われることも多い。加えて、理科系、あるいは本学の他学部と比較すると、経営学部のような社会科学系においては、学生の学習目的や学習意識もまた鮮明であるとは言い難いのが実情である。

以上のような点を踏まえると、一概に他学部と比較することは困難であるが、アンケート回答からは以下のような点を読み取ることができる。

- 出席率については他の学部とほぼ同様であり、全般的にいえば高い出席率ともいえるが、アンケート回答者自体の講義出席率が高いはずであることも考慮する必要がある。いわゆる講義形式の授業では、講義内容の連続性が必ずしも明確ではないものも多々あり、これがたとえばスポーツ健康科学部に代表されるように、高出席率を維持できる学部との相違であろう。現状以上の講義の出席率が必須とはいえない側面もあるが、可能な限り講義の連続性を学生に認識させることもまた必要かもしれない。
- 講義への集中度や講義に臨む姿勢については、全学でほぼ最低レベルである。これは前年度の報告でも記載した通り、社会科学の特質にも起因するものとも考えられるが、仮にそうであれば、個別の教員のみで対処することは困難で、学部全体あるいは大学全体で検討すべき課題であるとも考えられる。
- 講義の目的や狙いが明確ではないという結果もまた、社会科学的な特性、特にある学問領域を体系的に教授するというのではなく、さまざまなトピックスを扱う分野としては致し方ない部分もある。本来、考える力を養うという観点では高い評価を得るはずだが、講義の出席者全員がそのような認識にあるとは考えにくい。今後の課題としては、そうした意識の低い学生に対してどのような対処を行うかであろう。
- その他、授業の内容・進度について、また、学生の積極的参加についても低い結果であるといわざるを得ない。学生の講義への参加については、後述するようにアクティブラーニング形式の講義も一部で取り入れられており、講義の内容・形態にもよるが、一部、改善の方向性に向かいつつあると認識している。
- また、「興味深いと感じたことはあったか？」の設問へのポジティブな回答率も低い。本来経営学を学ぶ上では、さまざまな事例について興味深いと感じた上で、学生自身が積極的な学びの姿勢を持つことが重要である。今後、講義の中での工夫が求められる余地がある。

2. 所属学部の教員コメントについて

アンケート結果に対する教員コメントは概ね以下のものであった。

- 受講者数が一定数を超えると、学生との密なやり取りやケーススタディをベースにした双方向的な講義が困難になる側面がある。一般的には学生からするとなじみのない分野であることも多いので、できるだけ事例をもとにした講義にしたいと考えているが、人数的な面もあり、困難な部分もある。
- 講義で使用するスライドやレジメについて、文字が小さい、スピードが速い、色がみにくい等の具体的なコメントが寄せられており、これらについては、可能な限り対応するように努めたい（もしくは過年度の指摘により改善し、それが学生からも評価されている）。

- 学生が自分自身で考えられるような講義内容を目指している。このためにはできるだけ飽きさせないようなテーマを設定していきたい。

スライドや講義資料については、学生からの直接的なフィードバックが得られることにより、各教員がそれぞれの授業形態に基づいて改善している様子（もしくは改善を検討している様子）がみてとれる。また、学生に興味をもって授業に参加してもらうためには、前述したように、経営学部の特質的な面もあるが、できるだけ事例等を含め、学生に具体的なイメージを持ってもらうように工夫していくことが必要である。

3. 2016年度の検証を踏まえ、2013～2015年度に報告された課題と計画の進捗状況と今後の展望について

経営学部の一部の講義では、学生とのインタラクションをより重視した形態、具体的にはアクティブラーニングや対話的講義等の形式が望ましい場合もある。経営学部では、全学研究や学部内での情報交換により、このようなインタラクティブな講義形態に関する事例研究を進めている。各教員が担当する講義は、それぞれテーマ、内容が異なるため、一概にはいえないものの、各教員が主体的に講義のあり方を検討することにより、より学生にとって興味のわくような講義形態に変革していくことが期待できる。

一方、昨年度も指摘した通り、「書かせる教育」により、大学卒業後も社会人として必須であるレポート能力を探究すること、また、教員間での「授業内容の共有」により、ややもすると蛸壺化しかねない講義形態について、より広い視野から検討する機会を作る必要もあろう。特に後者の講義形態に関する情報交流については、全学的なサポートも期待されるところである。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

国際関係学部

1. 2016年度各設問の数値に関する検証

①注意すべき項目

i) 高数値

「シラバスの熟読」は両学科とも高い数値を示しているが、4月の教授会で、授業中におけるシラバス内容の周知徹底を申し合わせていることの効果が出ていると考えられる。

ii) 低数値

「出席率」や「予習・復習」「授業への集中」「教材等の持参頻度」といったいわば「学習者の真摯な態度」にかかわる項目の数値が、文学部や外国語学部等と較べてやや低い。

②2015年度と比較して、特筆すべきこと。

特筆すべき変化は見られないが、「学生参加の機会」が昨年度と較べて微減し、「自分で考える姿勢」が低迷している。PBL型の授業を推進しているものの、履修者の増加に結びついていないことが関係しているものと思われる。

③学部の専門分野の特性から顕れたと推測される数値。

「新しい考え方や発想が身に付いた」「授業の内容が興味深い」という項目は、例年4.0前後の比較的に高い数値を示しているが、アジアの異文化理解や現地研修の教育効果の現れと考えられる。

2. 今後、実行すべき具体的な課題や行動計画などをご記述ください。

- ・「出席率」や「予習・復習」「授業への集中」項目の低迷に対しては、語学系の授業が多い学部だけに、教育効果の観点からも早急な対策が必要である。
- ・アクティブラーニングの授業数を増やすだけでなく、履修者を増やすための対策を検討する必要がある。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

法学部 法律学科

1. 2016年度各設問の数値に関する検証

①20の設問のうち、法律学科において高い数値を示したのは、出席、教材等の持参頻度、満足度であった。出席については、現代社会と法、文章表現法などの小人数授業をはじめ大人数授業においても出席を重視している教員が多いことが要因として挙げられる。教材の持参度については、法律学科では多くの法律関連科目において六法の持参を義務付け、厳しく指導していることがその要因であろう。また、満足度が高いことは各教員が工夫をしながら熱意をもって授業に挑んでいることが要因であると思われる。他方、予習・復習・練習、シラバスの熟読、学生参加の機会などの数値が相対的に低かった。これは、大人数講義の多い法律学科においてはやむを得ないことではあるが、シラバスの参照を徹底的に指導する、学生参加の機会を多く与える工夫が必要であると思われる。

②2015年度と比較すると、顕著に違いがあらわれている項目はないが、注目すべきは学生参加の機会の項目の数値が微増していることである。他学科と比較すると依然として低い数値ではあるが、一部の教員がアクティブラーニングを授業において積極的に取り入れていること、また、それを受けて多くの教員ができるだけ学生参加の機会を作るべきことを意識しはじめていることが評価されているのではないかと推察される。

③既述の通り、法律学科では所属学生も多く、大人数授業がメインであることから、どうしても文学部などと比較して、予習・復習、授業への集中、学生の参加機会などの点で低く評価される傾向がある。

2. 今後、実行すべき具体的な課題や行動計画などをご記述ください。

上記、1. で述べたように予習・復習、授業への集中、学生の参加機会などの点で低く評価される傾向があるのは確かであるが、授業目的の明確さ、理解しやすさ、教員の熱意、板書などの見やすさなど個々の教員の努力で改善できる項目は多数あるものと思われる。法律学科においては、FD研修などを積極的に実施しているが、今後は同研修において評価の高い教員の授業方法、工夫の紹介や共有を行うこと、現在一部の教員が実施しているアクティブラーニング導入授業をさらに拡大していくことなどにより、多くの項目において改善が望めるのではないかとと思われる。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

法学部 政治学科

1. 2016 年度各設問の数値に関する検証

a. 20 の設問のうち、特徴を示した数値について

いずれの項目についても全学の平均値を上回る項目がひとつもないことは問題である。しかし、ほとんどの項目は、数値としては3（=どちらでもない）を上回っており、否定的評価ではないことに留意すべきであろう。3を唯一下回る項目は質問項目2の「この授業に関する予習・復習・練習などを行いましたか」のみであるが、この項目への対処は比較的容易であると思われる。

b. 2015 年度の結果との比較

2015年度の結果と比較して、学科順位が上がっている項目は以下の4項目である。質問項目8「教員はシラバスを授業に反映させていましたか」、項目12「教員の教材（プリント、ビデオ、パワーポイントなど）は分かりやすかったですか」、項目18「この授業で教わったことの中で面白い、興味深いと感じたことはありましたか」、項目20「この授業を総合的にみて、満足できましたか。」である。それ以外の項目は全て順位（および得点も）が下がっている。あまり芳しい結果ではないが、この中で項目20の「満足度」の順位がやや上がっていることは幸いであった。

c. 学科の特性からの数値について

今回のデータを見た限りでは特徴をあげることは難しい。しかし、今回の評価には十分に反映されていないが、本学科ではアクティブラーニングなど新しい試みを2016年度から始めている。始めたばかりで試行錯誤の部分もあるため、その効果はこれから現れてくるものと考えている。

d. その他

- ・学科別得点順位の差に関して、得点差は1未満なので、回答の評価である五段階では同じカテゴリーに入ることほとんどで、実質的にはそんなに大きな差はないようにも思われる。
- ・今後の対策について考えると、どの科目のどの項目が弱いのか強いのかというレベルまで、詳細にわからないと、対応策を立てることが難しいと考えられる。教員個人が特定される方法での結果公表はできないと思うが、例えば演習、講義、語学など種類別の分布を含めた結果の提示はできないだろうか。

2. 今後、実行すべき具体的な課題や行動計画など

上で述べたように、これらのデータから行動計画をたてることはデータ不足で困難があるが、新しい試みであるアクティブラーニング活動の内容をより洗練させ、得点の改善を計画している。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

外国語学部 中国語学科

1. 2016年度各設問の数値に関する検証

① 学部における高値、低値にあたる項目の分析中国語学科で平均値が最も高いのは3項目あり、設問2の「予習・復習・練習」、設問13「学生参加の機会」、及び設問14「受講態度への対応」である。中国語学科の授業は予習、復習が重要であり、授業中に指名されてテキストを読まされたり、発表させられたりする機会が多く、教員がそれらに対して即座に対応することが求められている結果だと思われる。一方、低数値であった項目は設問1の「出席率」、設問11の「板書などの見やすさ」であった。出席率が低いというのは、上の高数値と矛盾するようで理解しがたい。授業中に発言、発表を求められることが多いため、出席率は高くなければならないはずである。板書については、パワーポイント等ではなく、依然として板書する教員の割合が高いのかもしれない。

② 特筆すべき点

2015年度では高数値だった設問19「自分で考える姿勢」が2016年度では平均並みに下がってしまった。その理由についてはよく分からないが、中国語学科ではゼミは必修ではないが、前の年に比べてゼミに入る学生が減っているのかもしれない。

2. 今後、実行すべき具体的な課題や行動計画など

2年連続して全学最低ラインである「出席率」を向上させることと前年比で下がった「自分で考える姿勢」の向上を図る。このためには、学科会議で各教員に出席の徹底を促し、学生のゼミへの参加を促す方法を考える。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

外国語学部 英語学科

1. 2016年度各設問の数値に関する検証

- ① 英語学科で平均値が最も高いのは、「出席率」4.28で、最も低いのは「予習・復習・練習」の3.37である。「出席率」の数値4.28というのは1～5の5段階尺度の平均値として十分に高い数値である。他学科との比較においては全体のなかで10番目とちょうど中ほどである。健康科学科の平均は4.65と飛び抜けて高いが、学科の性格の違いもあると考える。「予習・復習・練習」の3.37は数値としては改善の余地があろう。学科の順位としては19学科中3位ではあるが、いっそう予習・復習を求める授業運営が必要になると考える。順位自体にはそれほど意味があるとは思えないが、すべての項目において英語学科はすくなくとも上半分の順位であるのは良い材料である。
- ② 2015年度と2016年度を比較すると、明らかに有意な差がある項目はなく、項目ごとの平均値の高低も同じようなパターンを示している。2015年度と2016年度の学生集団全体として、それほど有意な差がなかったことの反映かと思われる。ただし、授業に対する「満足度」に関しては、2015年度が3.88であったのに対して2016年度は4.06と、おそらく有意もしくは有意水準に近い差が見られる。全体的に学科に対する満足度が向上したことを示す良い材料である。
- ③ 「受講態度への対応」が2015年度は全学科中、書道学科について2位、2016年度は書道学科とともに同点の1位である。「受講態度への対応」とは、例えば授業中に私語があったり態度の悪い学生がいたりしたときに、それを正そうとする姿勢があるかどうかに関わるものである。この項目の平均値が学内で1、2位を争っているということは、本学科の教員に「教師マインド」「教育マインド」を持っている者が多いということを示しており、教育の大東の追求の観点から、誇って良いものであると考える。
- ④ 2015年度と2016年度の質問紙の文言を比較すると、Q18が大きく変わっている。また他の質問でも、文言を微妙に変えている。よりよい文言を求めての修正だと思われるが、学生の回答はひとつの形容詞、ひとつの名詞が変わっただけでも影響されることありうる。それをしてしまうと、経年変化を厳密にたどることは不可能になってしまう。アンケート作成担当者が見識が問われる。

2. 今後、実行すべき具体的な課題や行動計画など

今以上に学生に予習・復習を求める具体的な方策について学科内で議論し、学生の学修時間を増加させる道を探ってゆきたい。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

外国語学部 日本語学科

1. 2016年度各設問の数値に関する検証

- ① 全学平均と比較し、回答平均が高数値となっているのは設問13の授業における質問や発言等を通じた学生参加の機会提供についてであり、全学平均の3.50に対し日本語学科は3.67となっている。一方、低数値となっている項目は5項目あり、以下に全学平均と日本語学科平均を併記して述べると、設問1の出席率(4.30:4.05)、設問8のシラバスの授業への反映(3.90:3.75)、設問9の授業の理解しやすさ(3.90:3.75)、設問10の適切な授業進行速度(3.90:3.75)、そして設問14の学生の私語や悪い受講態度をなくす教員の工夫(3.80:3.58)である。双方向型の授業展開を行い、学生の参加を促す工夫を凝らしていることは評価に値する一方で、学生が楽しんで学ぶことのできる授業環境を整えるための努力も求められている。
- ② 2016年度の授業評価については概ね、2015年度同様の傾向がみられるが、設問4の学生のシラバスの熟読については2015年度の日本語学科の平均値は3.61と、全学平均3.40をかなり上回る高い数値であったが、2016年度は全学3.30に対して日本語学科3.36と、ほぼ全学同様の数値となっており、シラバスがあまり読まれなくなっている可能性が窺われる。全体の傾向として、日本語学科の回答平均値は2015年度に比較し、全学平均より低い平均値がやや多くなっている。
- ③ 多様な学生が在籍するようになり、勉学意欲や課題への取り組み姿勢に学生間のばらつきがみられるようになっており、それが2016年度の授業評価に現われている可能性がある。例えば、設問3の学生の授業への集中の度合いも2015年度は3.78(全学3.70)で全学平均を上回っていたが、2016年度は3.57(全学平均3.60)とほんのわずかではあるが、全学平均を下回っている。学力や勉学意欲が低い学生をどのように育成していくのかについて、日本語学科で検討が必要な時期が来ている可能性がある。

2. 今後、実行すべき具体的な課題や行動計画など

2019年度から始まる新カリキュラムでは、すべての学生が専門演習を履修できるようにし、また卒業後のキャリアにつながるコースを設けるなど、学生の興味とニーズに基づいた編成をしている。今後はFD活動等を通して教員間で有益な情報を共有し、コース内容の充実や教授スキル及び授業運用スキルの向上を図る機会を設け、学生にとってより満足度の高い学びを達成するように日本語学科として取り組んでいきたい。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

経済学部

1. 2016年度各設問の数値に関する検証

*学部単位

2015年度は計20問すべてで全学平均値を下回っていたが、2016年度はQ2～Q20でいずれも0.1～0.2ポイント全学平均値を下回り、Q1「出席率」のみ同一値という結果であった。設問のうちQ3「授業への集中」、Q7「授業目的の明確さ」、Q8「シラバスの反映」、Q9「理解のしやすさ」、Q12「教材の使い方」、Q15「教員の熱意」、Q16「飽きさせない工夫」、Q17「新しい自己発想」、Q18「授業への関心度合」の9項目は、8学部中最下位である。特にQ15は単独最下位であった。一方で、全学平均値よりは0.1ポイント低いものの、Q10「適切な授業速度」は4位と比較的上位となった。学年別の平均値が分からないため確たることは言えないが、経済学部では高校までの授業では通常取り扱わない経済学に関する基礎・応用の専門的な講義科目が多い中、その理解に必要かつ適切と学生が捉えうる授業速度が実現できていると考えられる。

*学科単位

2015年度と比較して、総じて社会経済学科の順位はやや上昇、現代経済学科は横ばいと言える。19学科のうち社会経済学科は18項目が12位～14位に集中している。一方、現代経済学科は18項目が16位～19位に集まり、うち4項目（Q7・Q15・Q17・Q18）は19位であった。なおQ1は8位であり、これは唯一社会経済学科（10位）を上回っている。

*Q20「満足度」を対象とした履修登録者数のレベル別集計

2015年度と同様の傾向が見られる。すなわち他学部では履修登録者数が多くなるにつれて平均値が低下する傾向にあるが、経済学部では人数の規模にかかわらず平均値がほぼ一定となっている。また、A「30人未満」、B「30人以上50人未満」、C「50人以上100人未満」、D「100人以上200人未満」、E「200人以上300人未満」、F「300人以上」の全区分で肯定的回答者が60%を超えている。一方で、E・Fは全学平均よりも0.1ポイント高いものの、Aは0.2、Bは0.3低く、前年度同様、小規模クラスが低評価という傾向がある。

*Q20「満足度」を対象とした学年別集計

平均値が4年生において一番高くなる傾向は、経済学部も他学部と同様と言える（社経：1年3.8→2年3.7→3年3.9→4年3.9、現経：1年3.8→2年3.6→3年3.8→4年3.9）。一方で、他学部に比べて、経済学部では4学年間の平均値の差が小さいという特徴がある。他学部では4学年の最高平均値と最低平均値が0.7ポイント開いている例もあるが、経済学部は0.3である。また、社会経済学科・現代経済学科とも2年生が最低値となっており、3年次への進級がかかる2年生の満足度の低さが経済学部では目立っている。

2. 今後、実行すべき具体的な課題や行動計画など

*上記の結果を学部内で共有し意見交換を行い、授業評価アンケートに関するFD研究会を開催する。

*経済学部「新入生調査」（第1回2016年6月下旬～7月上旬実施）では、本学部に入學した理由の最多が「他に合格した大学がなかった」で、「学部（学科）の特徴に興味があった」は10%弱であったが、授業評価アンケートにおける1年生の「満足度」は低くはない。来年度も「新入生調査」との関連で検討を行うことで、小規模クラスに対する低評価や2年次の満足度の低さといった課題に対応できるよう努めたい。

*推薦入学者への入学前準備教育では、2015年以降、数学にも比重を置いた課題を出している。「高校1年（2年）以来数学がなかったので忘れていた内容を思い出せてよかった」という意見が多く、一定の効果があるものと考えられる。こうした意見を現代経済学科における低評価という課題解決などに役立てたい。

*2017年度から新カリキュラムが開始されている。主体性の涵養をめざす理念を保持しつつ、経済リテラシー育成、学習困難学生や意欲ある学生への対応などを勘案した改革も引き続き行う予定である。

以上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

文学部 日本文学科

1. 2016年度各設問の数値に関する検証

①20の設問のうち、満足度が、同じ文学部の教育学科や書道学科に比べて劣っているが、全学的にはそれに次ぐ高い数値であるのは喜ばしい。教育・書道に伯仲する位置を占められるよう努めるべきと考える。

3年生の満足度がやや低いのは、ゼミの所属が必ずしも本意でないクラスに編入させられた学生が多いためと思われるが、4年生で盛り返しているところを見ると、所属先での勉学に慣れ、それなりの満足が得られるようになったことを語っていると思う。

出席や教材の持参、シラバスの熟読度が高いのは、真面目な学生の多い日本文学科らしい結果と思う。一方、自分で考えたり、授業中発言したりする項目で思わしい結果が出ていないのは、一方的に知識を伝達されるタイプの授業が多いためと思われる。日本文学科では、各学年に演習の授業を配しており、その種の授業では、主体的な学びができていると期待する。しかし、アクティヴ・ラーニングが主張される今日の情勢からすれば、講義の授業でもある程度の双方向性は必要かと考える。授業姿勢への自己評価や授業への集中の項目が低いのも、受動的に教員の話聞くだけという授業が多いためと思われる。

②2015年度と比較し、だいたい変わらない結果が示されている。「授業への集中」「授業姿勢への自己評価」「学生参加の機会」「自分で考える姿勢」の項目が一致して低いのは問題で、早急な対応が求められる。

③日本文学科では、知識の伝達という一方向的な授業が多く、ために上に上げた項目の低迷につながっている。

2. 今後、実行すべき具体的な課題や行動計画などをご記述ください。

非常勤講師への対応を含めて、②に記した問題に対処したい。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

文学部 中国文学科

1. 2016 年度各設問の数値に関する検証

①大学全体との比較

全体的に見るとどの項目も平均より上に位置している。

②前年度との比較

2015 年度の分析では総合評価（新しい自己発見、分野への関心、自分で考える姿勢、満足度）の「肯定的」と「やや肯定的」の値が文学部の平均 66.6%に比べて、54.4%と低いと指摘されていた。しかしこの年度の総合評価（満足度）は、文学部の平均 76.8%には及ばないものの、72.1%となっており大幅に向上している。出席率も前年度の最下位から九位へと大幅に改善している。

③専門分野の特性

専門分野は文学、哲学、歴史、芸術をふくむために科目は多分野に及び、扱う時代も広い。更に国語や日本文化とも大きく関わるため多様な興味に対応することができる。「授業への関心度合い」「新しい自己発想」「自分で考える姿勢」「満足度」が大幅に改善したのは教員個々の取り組みの成果と思われる。

2. 今後、実施すべき具体的な課題や行動計画

出席率は改善しているものの 9 番目と意外に悪く、出席の重要性を学生及び教員にあらためて周知するなど対応を検討する必要がある。

総合評価（満足度）を学年別で見ると 2 年生の評価が他の学年に比べて低いが、14 年度の報告書において総合評価（新しい自己発見、分野への関心、自分で考える姿勢、満足度）では 2 年生の数値が最も高いと指摘されている。これがカリキュラム変更によるものかどうか今後の動向を注視する必要がある。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

文学部 英米文学科

1. 2016年度各設問の数値に関する検証

①全体との数値の比較を通してみると、8項目において、上位に入ることができた。特に数値が高かったのは、「予習・復習・練習」、「授業への集中」、「教材等の持参頻度」であった。これらは皆、関連している項目である。演習科目における個人発表やグループ活動の機会が多く、予習・復習は絶えず求められることから、高数値になったと思われる。一方、数値が低かったのは、「出席率」で、これはここ数年継続して見られる傾向である。「満足度」は全体の4位であったのは、好ましい結果であった。

②前年度と比較して特筆すべきこととまではいかないが、「教員の熱意」のポイントが上がったという結果を得た。その一方で、「適切な授業進行速度」の項目がやや下がってしまった点が気になるところである。

③専門分野の特性から顕れたと推測される数値に関して触れると、伝統的な文学作品と現代の文学作品のパラレルな対応、英米の文化と他文化との間の新しい取り組み、英語と他言語との関係性の追求など、多様性を考える上で「学生参加の機会」、「自分で考える姿勢」を求めている方向性にあり、その点が上位の数値になったと思われる。

2. 今後、実行すべき具体的な課題や行動計画など

①において問題とした「出席率」をどのように上げていくかが大きな課題である。学生からは、演習科目など一度休んでしまうと授業進路に遅れ、次から出にくくなるということをよく耳にする。そのような学生のケアに対しては配布レジュメの徹底化、オフィスアワーの有効な活用などで対応していきたい。また欠席の多い学生には、1年次は Freshman Seminar、2年次は必修科目、3、4年次はゼミ・卒論のそれぞれの担当の教員が個人面談を行い、対応をさらに図っていきたい。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

文学部 教育学科

1. 2016年度各設問の数値に関する検証

①全体として平均値以上の数値を示している。20項目中17項目で数値が2015年度を上回っていることがわかる。その点でいえば、下回った項目は「出席率」が4.55から4.46へ、「教材の持参頻度」が3位から6位へ、点数では4.19から4.13へ、「受講態度」は4位と変化はないが、点数でいえば3.97から3.93へ若干後退している。全体として高い数値でありながら、こうした下回った項目があるということの意味を分析する必要がある。

②2015年度と比較して、「新しい自己発想」「授業への関心度合」の2項目では第1位になったことは評価できる。これは講義を通じて、学生諸君が自分とは異なる発想に気付いたことを示し、その分「授業への関心」が高まったことを示していると思われる。今後とも継続したい点である。反面、「教材等の持参頻度」が3位から6位へ後退し、「受講態度」は前述した変化である。上位の項目と重ねて考えると、学生の中に授業に熱心な層と余り熱心でない層の二極分化が進行していると判断できる。

③教育学科に入学してくる学生は、教員志望が高く、それが授業評価アンケートにも反映していると思われる。例えば、「授業への集中」では対前年度4位から2位へ（点数では3.87から3.92へ）などは典型だと思われる。また、教員の努力も示されている。「授業目的の明快さ」が対前年度4位から2位へ（同4.11から4.19へ）、「学生参加の機会」も3位から2位へ（3.84から3.89へ）と示されているのはその端的な例である。

④気になるのは、上記②で評価の高い項目と低い項目の分析で指摘した学生の二極分解である。今後も継続的に観察・分析していく必要がある。

2. 今後、実行すべき具体的な課題や行動計画などをご記述ください。

学科協議会などで学生の動向や教育のあり方について、常に議論を重ねてきた。今後も議論を継続し、FDに取り組むなど積極的に対応したいと考える。

以 上

2016（平成28）年度授業評価アンケート報告書

文学部 書道学科

1. 2016年度各設問の数値に関する検証

2016 度もほとんどの項目において高数値であった。特に教員の熱意について高い評価が得られ、満足度も全体の 1 位であったことは、専門性が高く、学生数が少なく教員との距離も近い点にその要因があらう。ただ、1、3 年生と比べて 2、4 年生の満足度がやや落ちるのは看過できない。2 年生では、教職科目を受講している学生は特に授業が多く、ほとんど余裕がないのが原因であらう。4 年生では就職活動や実習等のため十分授業に参加できないことが影響しているのであらうか。

出席率が全体で 3 位であったのは、必修科目が多い本学科としてはやや気になる点である。月曜日 1、2 限にゼミなど多くの授業があるからなのであらうか。またシラバスの熟読については、学生に十分に浸透していないのは残念である。そのため、各教員とも第 1 回目の授業の最初にシラバスの内容を説明しているが、学生にもっと自主的に読んでほしいものである。何かよい方法はないのか考える必要がある。

2. 今後、実行すべき具体的な課題や行動計画などをご記述ください。

本学科では教職課程の改革に着手しており、それが成就すれば学生の受講すべき授業科目の軽減につながると思われる。また授業科目の統廃合なども進めており、カリキュラムのスリム化には引き続き取り組んでいく。

以 上

(目的)

第1条 この規程は、自己点検・評価全学委員会及び学部・大学院と連携をとりつつ、大東文化大学における教育内容及び技法の質の向上を目指すことを目的とする。この目的達成のため、ファカルティ・ディベロップメント委員会（以下「FD委員会」という。）を設置する。

(任務)

第2条 FD委員会は、前条の目的を達成するため、次の各号に掲げる事項を審議検討し、実施することを任務とする。

- (1) 本学の教育システムに対するファカルティ・ディベロップメントの視点からの分析及び提言、並びに教育効果に関する諸調査の企画、実施及び分析
- (2) ファカルティ・ディベロップメントに関連する学内外の情報収集とその普及等の広報啓発活動
- (3) ファカルティ・ディベロップメントに関する講演会、研究会その他の企画及び開催
- (4) 「学生による授業評価」の策定及び実施、授業評価結果の分析、並びに授業評価結果報告書の作成及び公表
- (5) 授業評価結果の有効活用その他授業改善に関する取り組みの支援
- (6) その他、FD委員会が必要と認めた事項

(組織)

第3条 FD委員会は、次の委員をもつて構成する。

- (1) 学長又は学長が副学長の中から指名した者 1名
- (2) 各学部が選出する者 各1名
- (3) 各研究科が選出する者 各1名
- (4) 学長が指名する者 若干名

2 FD委員会の委員長は、前項第1号に定める者とする。

3 FD委員会に副委員長を1名ないし2名置く。副委員長は委員会の同意を得て委員長が指名する。

4 副委員長は委員長を補佐し、委員長に事故があつた場合は、委員長の職務を代行する。

5 委員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

6 委員が欠けたときの後任の委員の任期は、前任者の残任期間とする。

7 FD委員会は必要に応じて委員以外の者に同委員会への出席及び発言を求めることができる。

(運営)

第4条 委員長はFD委員会を招集し、その議長となる。

2 FD委員会は、委員の過半数の出席がなければ、議事を開き、議決することができない。

3 FD委員会の議事は、出席委員の過半数でこれを決し、可否同数のときは議長の決するところによる。

(専門部会)

第5条 FD委員会は、第2条の任務を遂行するにあたり、必要に応じて専門部会を設けることができる。

2 専門部会には、委員以外の協力委員を置くことができる。

(事務局)

第6条 FD委員会に関する事務は、学務部学務課が担当する。

(規程の改廃)

第7条 この規程の改廃は、学長がこれを行う。

附 則

この規程は、平成18年5月15日から施行する。

附 則（平成21年6月15日）

本規程は、平成21年6月15日から施行する。

附 則（平成22年2月22日）〔平成27年3月18日〕

1 この改正規程は、平成22年4月1日〔平成27年4月1日〕から施行する。

2 この改正規程の施行に伴い、大東文化大学学生による授業評価実施委員会規程は、平成22年3月31日をもって廃止する。

平成29年度大東文化大学『学生による授業評価アンケート』実施要項

全学FD委員会

1. 実施の対象

- (1) 原則として、シラバスに記載されているすべての開講科目を対象とし、非常勤講師を含め全員教員が参加とする。
- (2) 実施は、専任教員（特任教員、助教を含む。）は2科目、非常勤講師は1科目とする。大学院の科目は含まない。
- (3) 対象科目の選定基準は、以下の通りとする。
 - ① 担当科目の中で受講者が最も多い科目とする。
 - ② 専任教員は2科目実施を原則として、①と異なる授業形態の中で受講者が最も多い科目とする。
 - ③ 原則として、受講者が10名未満の科目は除く。

2. 実施の主体

大東文化大学全学FD委員会

3. 調査項目

- ① 今回の授業評価アンケートは、Web方式で行い、自由記述欄を設ける。
- ② 教員独自の設問（個々の教員が受講生から意見を聴取したいと思う内容）をアンケート項目に追加できるか検討する。

4. 実施の時期

平成29年12月 4日（月）～12月23日（土）

5. 授業評価アンケートの実施

- ① これまでと異なり、教員が授業前にマークシートを受け取り、教室で配布する、学生にマークシートの回収を依頼するなどの作業が必要ない。学生も回収等の作業を手伝う必要がない。
- ② 各教員は、授業評価アンケートを実施する前に開催される説明会（板橋キャンパス2回、東松山キャンパス2回を予定）に出席し、実施の手順等を確認してください。
- ③ 授業評価アンケートの実施期間および学生の回答期間は、約20日程度設ける。また、未回答の学生には催促メールを出す予定としている。

6. 評価と集計の方法（案）

- (1) 評価の方法
各授業につき、調査項目ごとに5段階評価とする。
- (2) 集計の方法
① 自由記述の内容を含め、教員自身のPCでリアルタイムに集計・内容等を確認できる。しかし、内容の公開時期を成績評価後にするなど、検討を要する事項もある。
② 全学FD委員会では、全学的な集計結果をまとめ、その分析方法を検討する。

7. 結果の取り扱い

「授業評価アンケート」の結果を、個々の教員に対する管理の強化や不利益な取扱いに利用することはない。

8. 結果の公表と活用

- (1) 授業評価アンケートの集計結果は、『報告書』に掲載し、その『報告書』は、学生を含め学内に公開される。
- (2) 調査項目には自由記述欄も含まれているが、その部分は『報告書』に記載しない。
当該教員が今後の授業の参考資料として活用するにとどめる。
- (3) 個々の授業科目の評価結果については、教員からのコメントをつけて、学内に公表する。
- (4) 外部への公表については、全学FD委員会の責任において、本学ホームページへの掲載等を含め、必要に応じて行う。ただし、この実施要項8（2）および8（3）の内容に関しては、外部には公表しない。

以上

2017 学生による授業評価アンケート 設問一覧

【設問1～20】※必須回答項目

1. あなた自身について、お答えください。

設問1 この授業への出席率はどのぐらいでしたか。

【⑤100～90% ④89～80% ③79～70% ②69～60% ①60%未満】

設問2 この授業に関する予習・復習・練習などの事前学習をどのぐらい行いましたか。

【⑤大いにやった ④少しやった ③どちらとも言えない ②あまりやらなかった ①やらなかった】

設問3 あなたはこの授業にどのぐらい集中して参加していましたか。

【⑤大いに集中した ④やや集中した ③どちらとも言えない ②あまり集中しなかった ①集中しなかった】

設問4 この授業のシラバス(授業内容などが掲載されている教授要項)を読みましたか。

【⑤肯定的 ④やや肯定的 ③どちらとも言えない ②やや否定的 ①否定的】

設問5 シラバスや授業中に指示された教材等(教科書、辞書、プリントなど)を忘れずに持参していましたか。

【⑤肯定的 ④やや肯定的 ③どちらとも言えない ②やや否定的 ①否定的】

設問6 あなた自身がこの授業に取り組む姿勢について、自己採点すれば何点ぐらいだと思いますか。

【⑤100～90点 ④89～80点 ③79～70点 ②69～60点 ①60点未満】

2. この授業について、あなたのお考えをお聞かせください。

設問7 この授業の目的やねらいは明確でしたか。

【⑤肯定的 ④やや肯定的 ③どちらとも言えない ②やや否定的 ①否定的】

設問8 シラバスの内容がこの授業によく反映されていましたか。

【⑤肯定的 ④やや肯定的 ③どちらとも言えない ②やや否定的 ①否定的】

設問9 この授業の内容は理解しやすかったですか。

【⑤肯定的 ④やや肯定的 ③どちらとも言えない ②やや否定的 ①否定的】

設問10 この授業の進行のスピードは適当でしたか。

【⑤肯定的 ④やや肯定的 ③どちらとも言えない ②やや否定的 ①否定的】

設問11 板書の文字やスクリーンの画面は見やすかったですか。

【⑤肯定的 ④やや肯定的 ③どちらとも言えない ②やや否定的 ①否定的】

設問12 教員の使用教材(配布プリント、パワーポイントの内容など)は理解しやすかったですか。

【⑤肯定的 ④やや肯定的 ③どちらとも言えない ②やや否定的 ①否定的】

設問13 あなたはこの授業に積極的に参加(質問、発言など)していましたか。

【⑤肯定的 ④やや肯定的 ③どちらとも言えない ②やや否定的 ①否定的】

設問14 教員は授業中の私語や受講態度の悪い学生に対しきちんとしていましたか。

【⑤肯定的 ④やや肯定的 ③どちらとも言えない ②やや否定的 ①否定的】

設問15 この授業に対する教員の熱意がどの程度感じられましたか。

【⑤大いに感じた ④少し感じた ③どちらとも言えない ②あまり感じなかった ①感じなかった】

設問16 教員が授業を飽きさせない創意工夫をどの程度行っていましたか。

【⑤大に行っていた ④少し行っていた ③どちらとも言えない ②あまり行っていなかった ①行っていなかった】

設問17 あなたはこの授業を通して自分にとって新しい考え方や発想が身につきましたか。

【⑤肯定的 ④やや肯定的 ③どちらとも言えない ②やや否定的 ①否定的】

設問18 あなたはこの授業を通して自分で調べ、考える姿勢などが身につきましたか。

【⑤肯定的 ④やや肯定的 ③どちらとも言えない ②やや否定的 ①否定的】

設問19 あなたはこの授業で興味深い、面白いと感じたことがどのぐらいありましたか。

【⑤大いに感じた ④少し感じた ③どちらとも言えない ②あまり感じなかった ①感じなかった】

3. 授業を総合的にみたとときの評価をお答えください。

設問20 この授業は総合的にみて満足できるものでしたか。

【⑤肯定的 ④やや肯定的 ③どちらとも言えない ②やや否定的 ①否定的】

設問21 担当教員からの質問1

設問22 担当教員からの質問2

※設問21・22は、教員から別途指示された場合のみ回答(マーク)してください。

設問23 授業について良かった点を教えてください。(自由入力項目)

設問24 授業について改善すべき点を教えてください。(自由入力項目)

A. 履修登録者数・回答者数レベル別集計
(全学・学年・学部別集計)

全学集計【履修登録者数・回答数レベル別集計】

学 年： 全学年

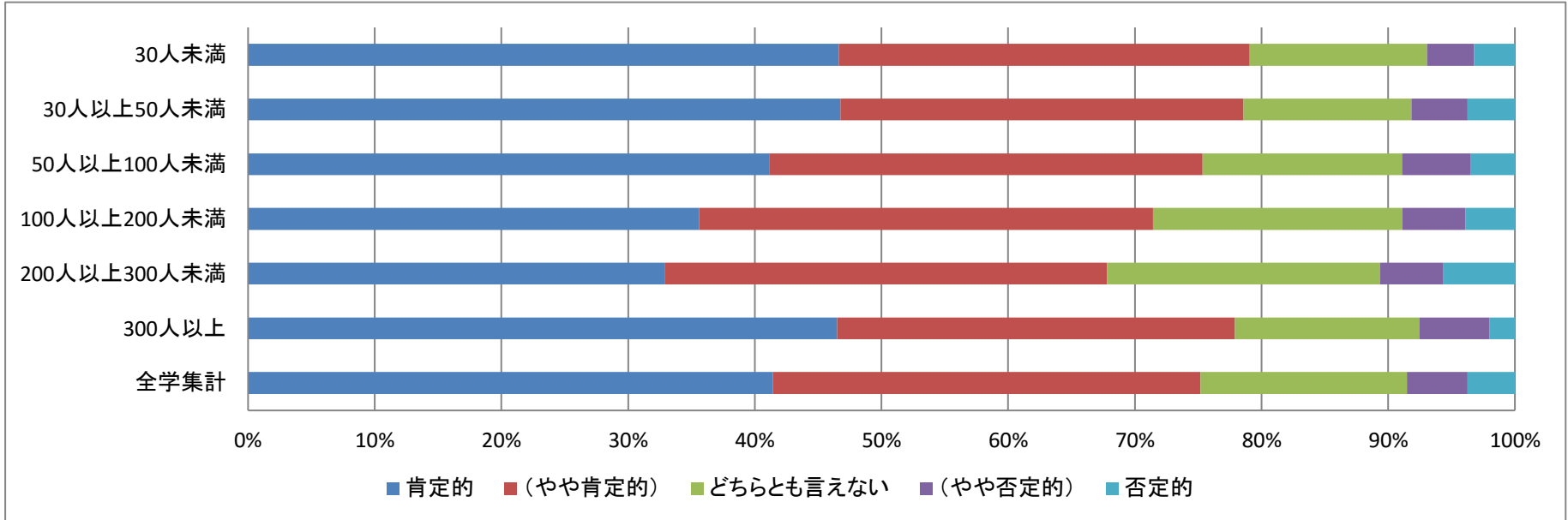
総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度 履修者	30人未満	726 (46.6%)	505 (32.4%)	218 (14.0%)	58 (3.7%)	50 (3.2%)	4.2
	30人以上50人未満	1189 (46.8%)	809 (31.8%)	337 (13.3%)	113 (4.4%)	95 (3.7%)	4.1
	50人以上100人未満	1102 (41.2%)	916 (34.2%)	421 (15.7%)	146 (5.5%)	93 (3.5%)	4.0
	100人以上200人未満	967 (35.6%)	973 (35.8%)	535 (19.7%)	135 (5.0%)	106 (3.9%)	3.9
	200人以上300人未満	269 (32.9%)	285 (34.9%)	176 (21.5%)	41 (5.0%)	46 (5.6%)	3.8
	300人以上	160 (46.5%)	108 (31.4%)	50 (14.5%)	19 (5.5%)	7 (2.0%)	4.1
	全学集計	4,413 (41.4%)	3,596 (33.7%)	1,737 (16.3%)	512 (4.8%)	397 (3.7%)	4.0
2017年度 回答者	30人未満	3,490 (41.9%)	2,823 (33.9%)	1,300 (15.6%)	389 (4.7%)	333 (4.0%)	4.0
	30人以上50人未満	545 (40.2%)	440 (32.5%)	237 (17.5%)	82 (6.1%)	51 (3.8%)	4.0
	50人以上100人未満	359 (41.6%)	292 (33.8%)	169 (19.6%)	34 (3.9%)	10 (1.2%)	4.1
	100人以上200人未満	19 (18.8%)	41 (40.6%)	31 (30.7%)	7 (6.9%)	3 (3.0%)	3.7
	200人以上300人未満	0	0	0	0	0	0.0
	300人以上	0	0	0	0	0	0.0
	全学集計	4,413 (41.4%)	3,596 (33.7%)	1,737 (16.3%)	512 (4.8%)	397 (3.7%)	4.0

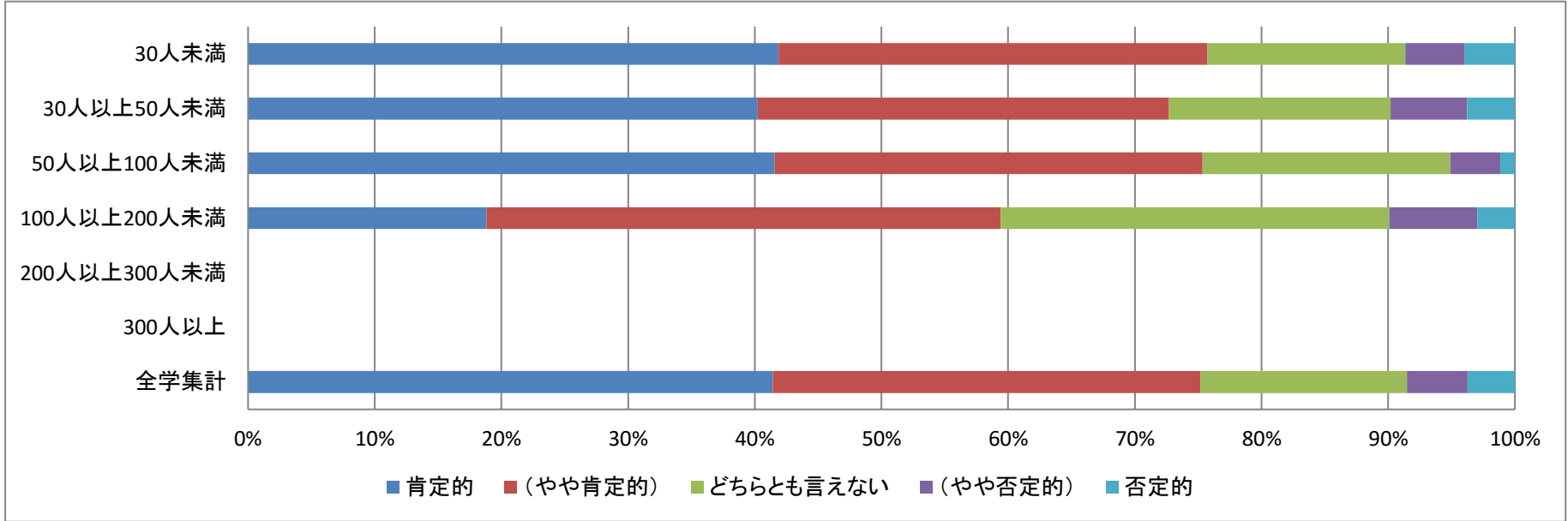
< 評価帯グラフ >

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2017年度 履修登録者数



2017年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答数レベル別集計】

学 年： 1 年

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

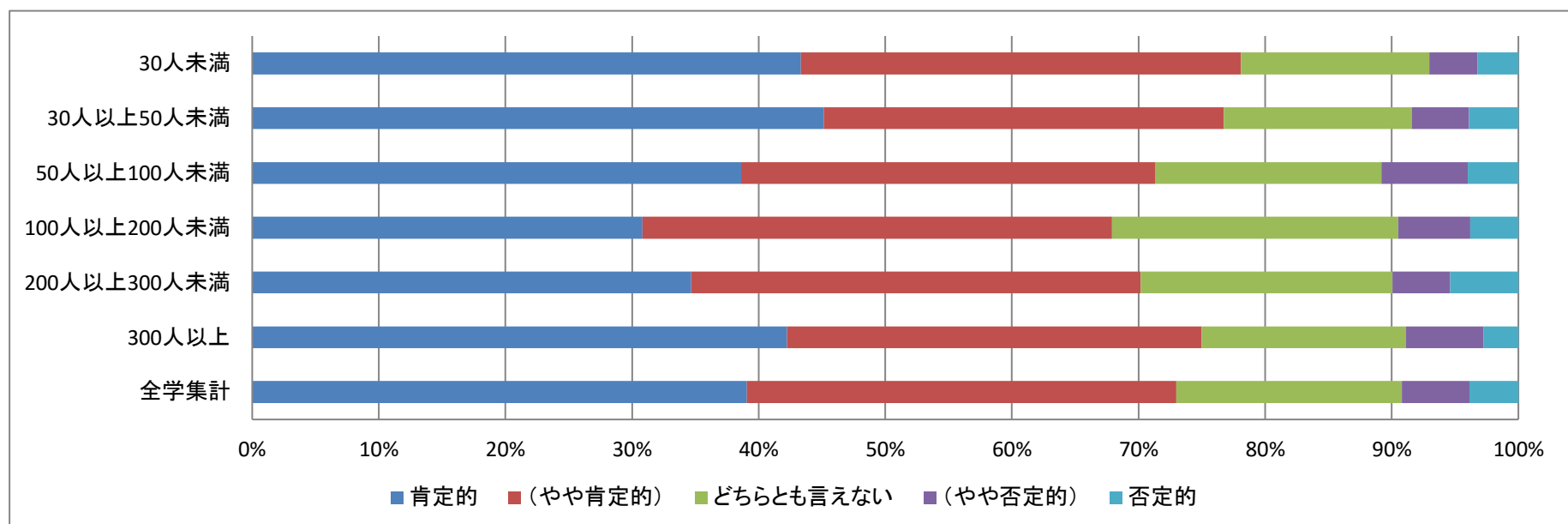
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度 履修者	30人未満	283 (43.3%)	227 (34.8%)	97 (14.9%)	25 (3.8%)	21 (3.2%)	4.1
	30人以上50人未満	590 (45.1%)	413 (31.6%)	194 (14.8%)	59 (4.5%)	51 (3.9%)	4.1
	50人以上100人未満	436 (38.6%)	369 (32.7%)	202 (17.9%)	77 (6.8%)	45 (4.0%)	4.0
	100人以上200人未満	341 (30.8%)	410 (37.1%)	250 (22.6%)	63 (5.7%)	42 (3.8%)	3.9
	200人以上300人未満	129 (34.7%)	132 (35.5%)	74 (19.9%)	17 (4.6%)	20 (5.4%)	3.9
	300人以上	76 (42.2%)	59 (32.8%)	29 (16.1%)	11 (6.1%)	5 (2.8%)	4.1
	全学集計	1,855 (39.1%)	1,610 (33.9%)	846 (17.8%)	252 (5.3%)	184 (3.9%)	4.0
2017年度 回答者	30人未満	1,322 (40.8%)	1,091 (33.7%)	522 (16.1%)	163 (5.0%)	144 (4.4%)	4.0
	30人以上50人未満	275 (36.1%)	252 (33.1%)	153 (20.1%)	53 (7.0%)	29 (3.8%)	3.9
	50人以上100人未満	240 (37.3%)	227 (35.2%)	140 (21.7%)	29 (4.5%)	8 (1.2%)	4.0
	100人以上200人未満	18 (18.2%)	40 (40.4%)	31 (31.3%)	7 (7.1%)	3 (3.0%)	3.6
	200人以上300人未満	0	0	0	0	0	0.0
	300人以上	0	0	0	0	0	0.0
	全学集計	1,855 (39.1%)	1,610 (33.9%)	846 (17.8%)	252 (5.3%)	184 (3.9%)	4.0

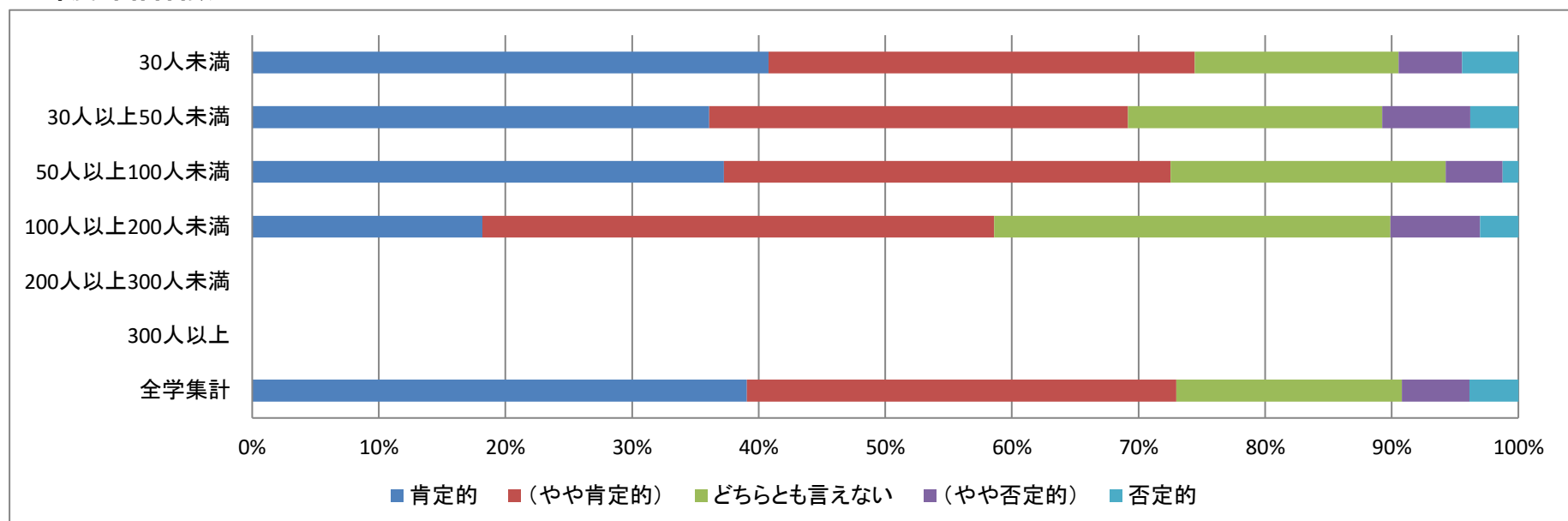
< 評価帯グラフ >

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2017年度 履修登録者数



2017年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答数レベル別集計】

学 年： 2 年

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

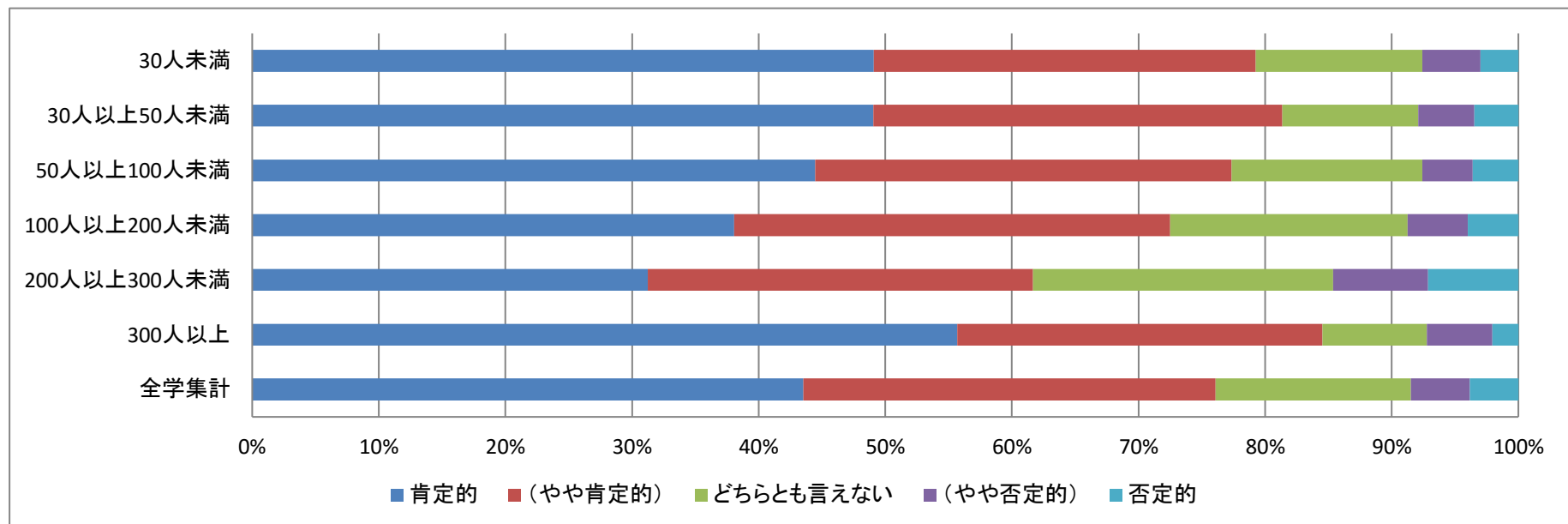
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度 履修者	30人未満	246 (49.1%)	151 (30.1%)	66 (13.2%)	23 (4.6%)	15 (3.0%)	4.2
	30人以上50人未満	366 (49.1%)	241 (32.3%)	80 (10.7%)	33 (4.4%)	26 (3.5%)	4.2
	50人以上100人未満	381 (44.5%)	282 (32.9%)	129 (15.1%)	34 (4.0%)	31 (3.6%)	4.1
	100人以上200人未満	400 (38.1%)	362 (34.4%)	197 (18.7%)	50 (4.8%)	42 (4.0%)	4.0
	200人以上300人未満	79 (31.2%)	77 (30.4%)	60 (23.7%)	19 (7.5%)	18 (7.1%)	3.7
	300人以上	54 (55.7%)	28 (28.9%)	8 (8.2%)	5 (5.2%)	2 (2.1%)	4.3
	全学集計	1,526 (43.5%)	1,141 (32.6%)	540 (15.4%)	164 (4.7%)	134 (3.8%)	4.1
2017年度 回答者	30人未満	1,192 (42.4%)	930 (33.1%)	443 (15.8%)	134 (4.8%)	113 (4.0%)	4.1
	30人以上50人未満	227 (46.1%)	149 (30.3%)	70 (14.2%)	27 (5.5%)	19 (3.9%)	4.1
	50人以上100人未満	106 (53.3%)	61 (30.7%)	27 (13.6%)	3 (1.5%)	2 (1.0%)	4.3
	100人以上200人未満	1 (50.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.5
	200人以上300人未満	0	0	0	0	0	0.0
	300人以上	0	0	0	0	0	0.0
	全学集計	1,526 (43.5%)	1,141 (32.6%)	540 (15.4%)	164 (4.7%)	134 (3.8%)	4.1

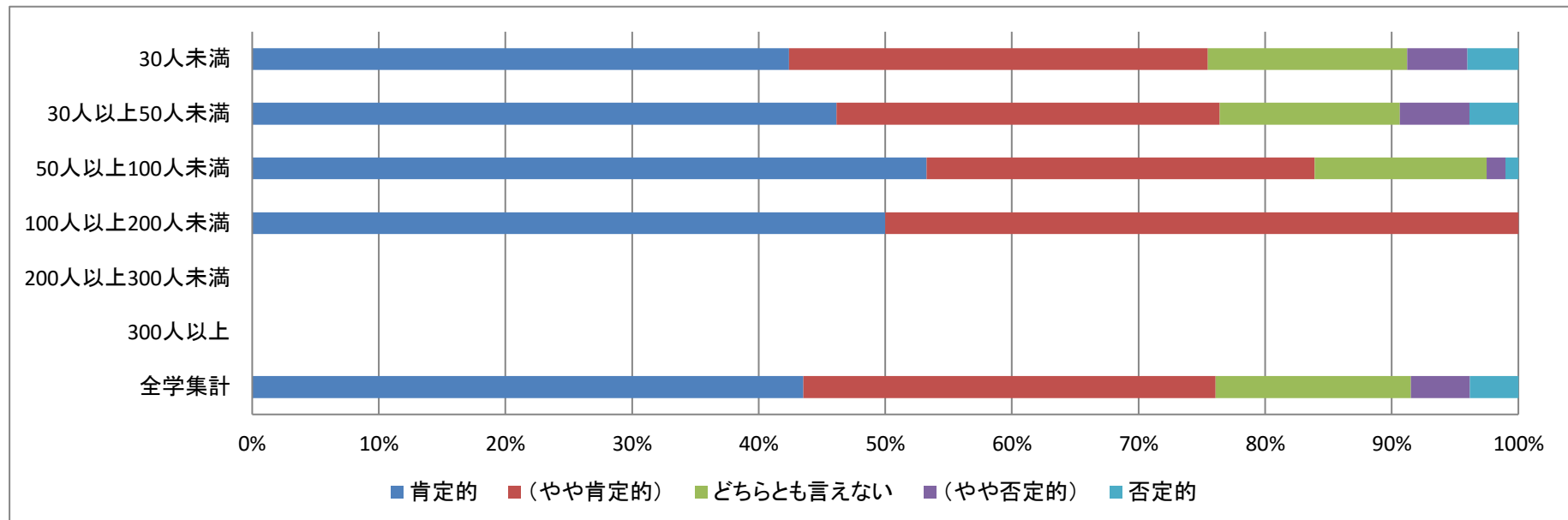
< 評価帯グラフ >

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2017年度 履修登録者数



2017年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答数レベル別集計】

学 年： 3 年

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

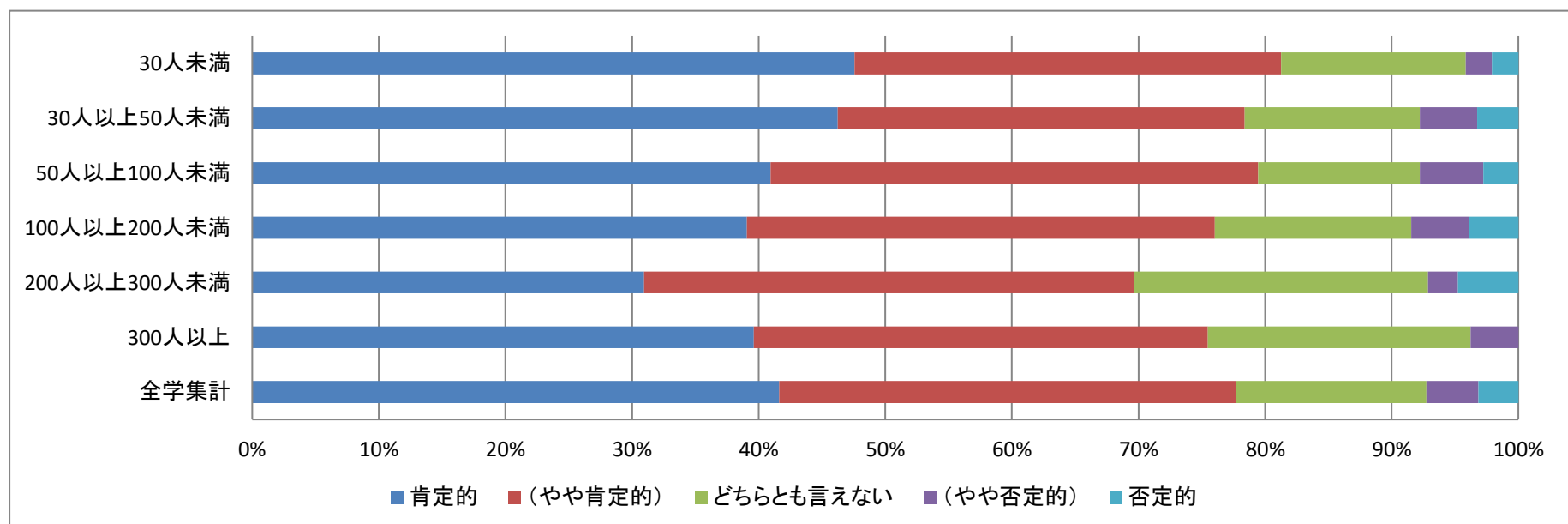
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度 履修者	30人未満	137 (47.6%)	97 (33.7%)	42 (14.6%)	6 (2.1%)	6 (2.1%)	4.2
	30人以上50人未満	184 (46.2%)	128 (32.2%)	55 (13.8%)	18 (4.5%)	13 (3.3%)	4.1
	50人以上100人未満	237 (40.9%)	223 (38.5%)	74 (12.8%)	29 (5.0%)	16 (2.8%)	4.1
	100人以上200人未満	189 (39.0%)	179 (37.0%)	75 (15.5%)	22 (4.5%)	19 (3.9%)	4.0
	200人以上300人未満	52 (31.0%)	65 (38.7%)	39 (23.2%)	4 (2.4%)	8 (4.8%)	3.9
	300人以上	21 (39.6%)	19 (35.8%)	11 (20.8%)	2 (3.8%)	0 (0.0%)	4.1
	全学集計	820 (41.6%)	711 (36.1%)	296 (15.0%)	81 (4.1%)	62 (3.1%)	4.1
2017年度 回答者	30人未満	775 (41.6%)	673 (36.1%)	281 (15.1%)	77 (4.1%)	59 (3.2%)	4.1
	30人以上50人未満	37 (40.7%)	35 (38.5%)	14 (15.4%)	2 (2.2%)	3 (3.3%)	4.1
	50人以上100人未満	8 (57.1%)	3 (21.4%)	1 (7.1%)	2 (14.3%)	0 (0.0%)	4.2
	100人以上200人未満	0	0	0	0	0	0.0
	200人以上300人未満	0	0	0	0	0	0.0
	300人以上	0	0	0	0	0	0.0
	全学集計	820 (41.6%)	711 (36.1%)	296 (15.0%)	81 (4.1%)	62 (3.1%)	4.1

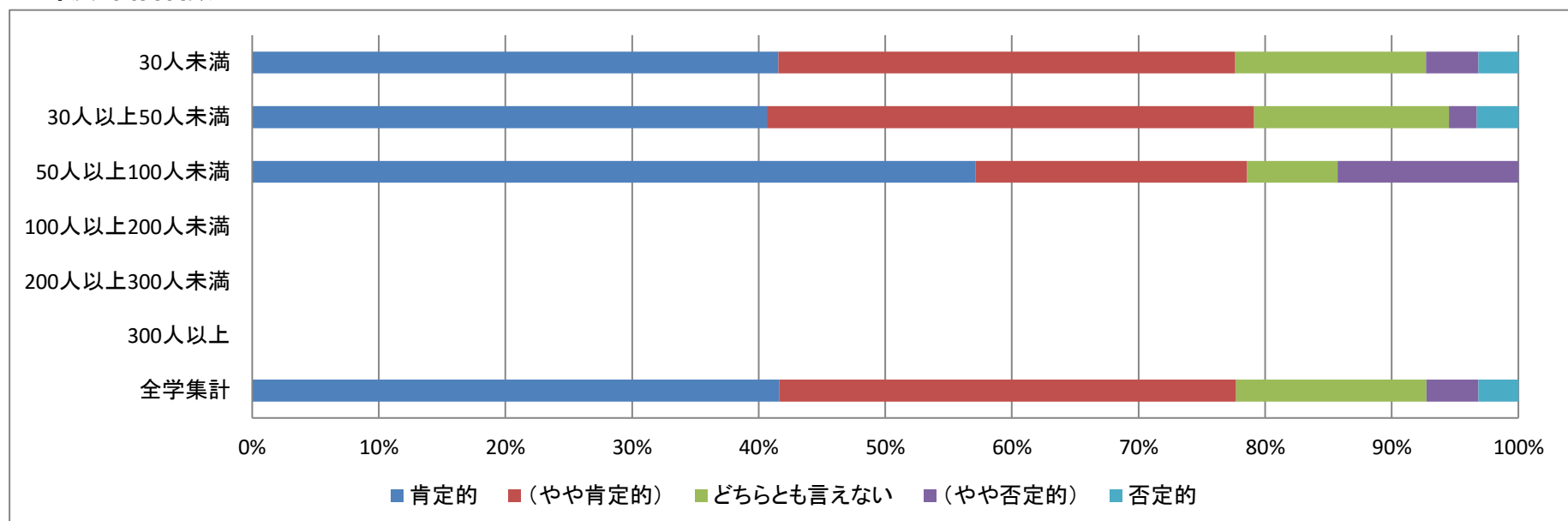
< 評価帯グラフ >

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2017年度 履修登録者数



2017年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答数レベル別集計】

学 年： 4 年

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

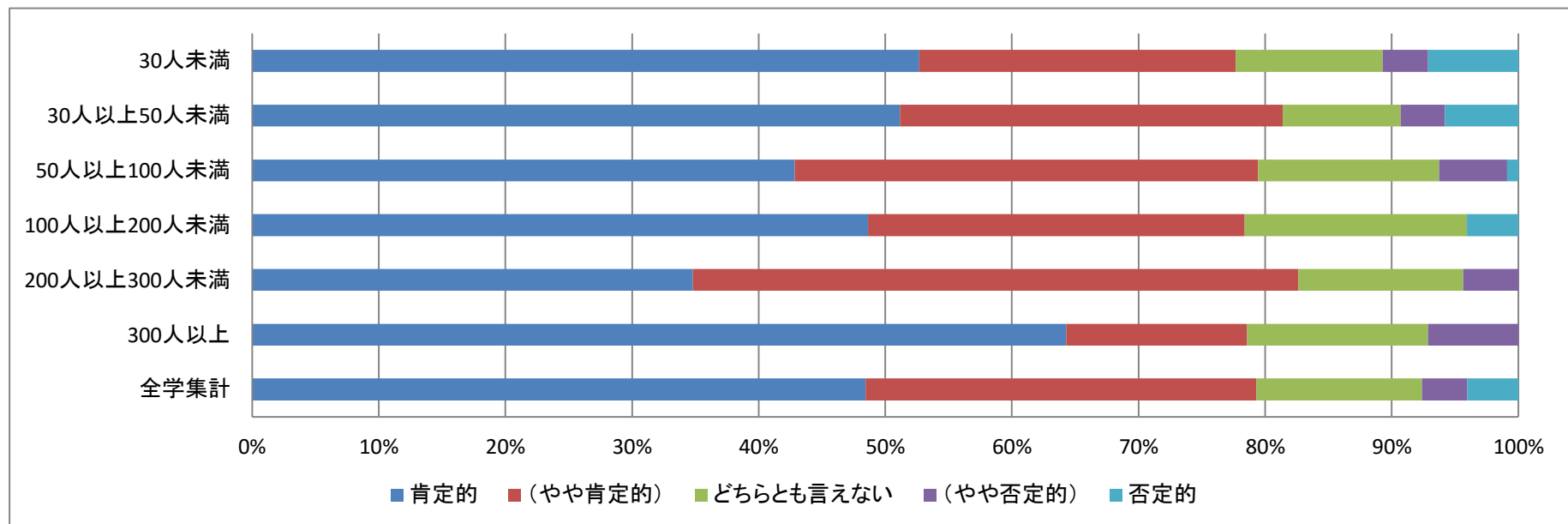
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度 履修者	30人未満	59 (52.7%)	28 (25.0%)	13 (11.6%)	4 (3.6%)	8 (7.1%)	4.1
	30人以上50人未満	44 (51.2%)	26 (30.2%)	8 (9.3%)	3 (3.5%)	5 (5.8%)	4.2
	50人以上100人未満	48 (42.9%)	41 (36.6%)	16 (14.3%)	6 (5.4%)	1 (0.9%)	4.2
	100人以上200人未満	36 (48.6%)	22 (29.7%)	13 (17.6%)	0 (0.0%)	3 (4.1%)	4.2
	200人以上300人未満	8 (34.8%)	11 (47.8%)	3 (13.0%)	1 (4.3%)	0 (0.0%)	4.1
	300人以上	9 (64.3%)	2 (14.3%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	0 (0.0%)	4.4
	全学集計	204 (48.5%)	130 (30.9%)	55 (13.1%)	15 (3.6%)	17 (4.0%)	4.2
2017年度 回答者	30人未満	194 (47.9%)	125 (30.9%)	54 (13.3%)	15 (3.7%)	17 (4.2%)	4.1
	30人以上50人未満	5 (55.6%)	4 (44.4%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.6
	50人以上100人未満	5 (71.4%)	1 (14.3%)	1 (14.3%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.6
	100人以上200人未満	0	0	0	0	0	0.0
	200人以上300人未満	0	0	0	0	0	0.0
	300人以上	0	0	0	0	0	0.0
	全学集計	204 (48.5%)	130 (30.9%)	55 (13.1%)	15 (3.6%)	17 (4.0%)	4.2

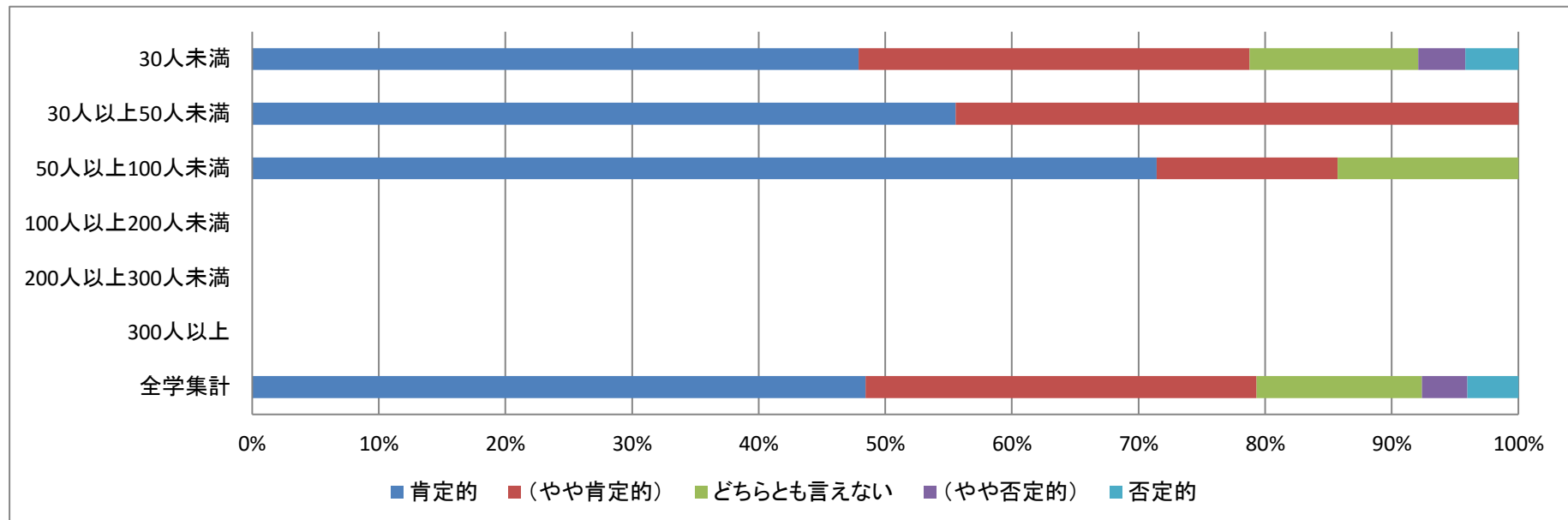
＜ 評価帯グラフ ＞

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2017年度 履修登録者数



2017年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答数レベル別集計】

学 年： 全学年
学 部： 文学部

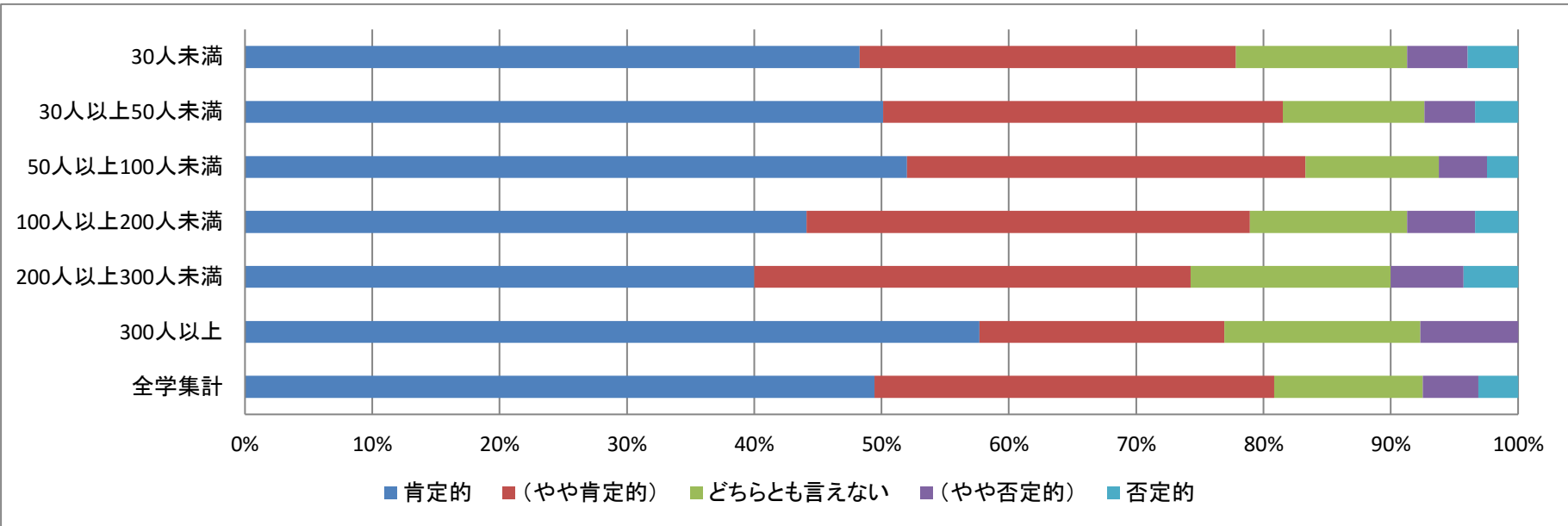
総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度 履修者	30人未満	183 (48.3%)	112 (29.6%)	51 (13.5%)	18 (4.7%)	15 (4.0%)	4.1
	30人以上50人未満	415 (50.1%)	260 (31.4%)	92 (11.1%)	33 (4.0%)	28 (3.4%)	4.2
	50人以上100人未満	402 (52.0%)	242 (31.3%)	81 (10.5%)	29 (3.8%)	19 (2.5%)	4.3
	100人以上200人未満	157 (44.1%)	124 (34.8%)	44 (12.4%)	19 (5.3%)	12 (3.4%)	4.1
	200人以上300人未満	28 (40.0%)	24 (34.3%)	11 (15.7%)	4 (5.7%)	3 (4.3%)	4.0
	300人以上	30 (57.7%)	10 (19.2%)	8 (15.4%)	4 (7.7%)	0 (0.0%)	4.3
	全学集計	1,215 (49.4%)	772 (31.4%)	287 (11.7%)	107 (4.4%)	77 (3.1%)	4.2
2017年度 回答者	30人未満	1014 (47.4%)	691 (32.3%)	263 (12.3%)	98 (4.6%)	75 (3.5%)	4.2
	30人以上50人未満	127 (62.0%)	61 (29.8%)	12 (5.9%)	4 (2.0%)	1 (0.5%)	4.5
	50人以上100人未満	74 (66.1%)	20 (17.9%)	12 (10.7%)	5 (4.5%)	1 (0.9%)	4.4
	100人以上200人未満	0	0	0	0	0	0.0
	200人以上300人未満	0	0	0	0	0	0.0
	300人以上	0	0	0	0	0	0.0
	全学集計	1,215 (49.4%)	772 (31.4%)	287 (11.7%)	107 (4.4%)	77 (3.1%)	4.2

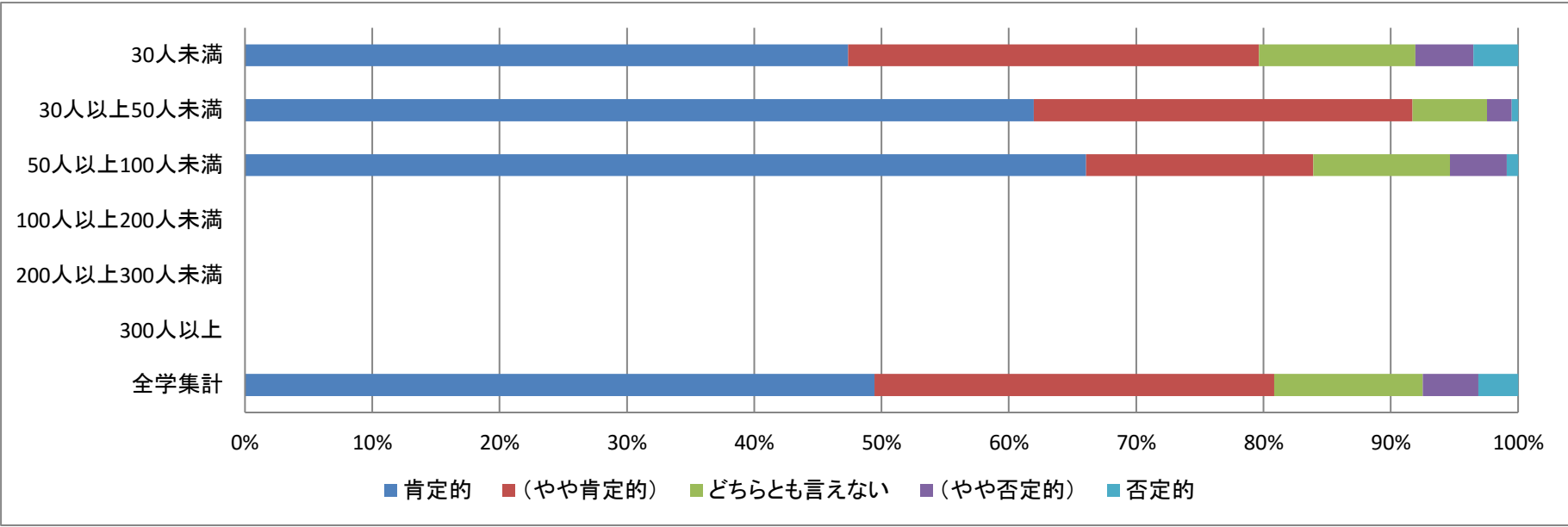
< 評価帯グラフ >

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2017年度 履修登録者数



2017年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答数レベル別集計】

学 年 ： 全学年
学 部 ： 経済学部

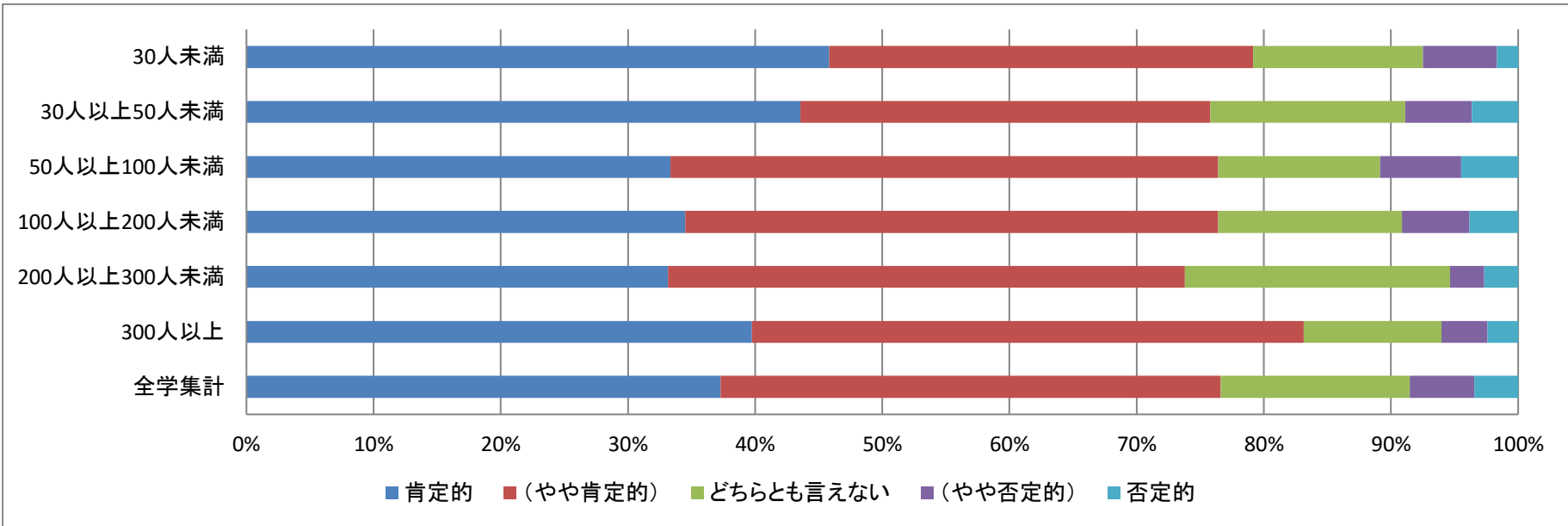
総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度 履修者	30人未満	55 (45.8%)	40 (33.3%)	16 (13.3%)	7 (5.8%)	2 (1.7%)	4.2
	30人以上50人未満	108 (43.5%)	80 (32.3%)	38 (15.3%)	13 (5.2%)	9 (3.6%)	4.1
	50人以上100人未満	89 (33.3%)	115 (43.1%)	34 (12.7%)	17 (6.4%)	12 (4.5%)	3.9
	100人以上200人未満	117 (34.5%)	142 (41.9%)	49 (14.5%)	18 (5.3%)	13 (3.8%)	4.0
	200人以上300人未満	62 (33.2%)	76 (40.6%)	39 (20.9%)	5 (2.7%)	5 (2.7%)	4.0
	300人以上	33 (39.8%)	36 (43.4%)	9 (10.8%)	3 (3.6%)	2 (2.4%)	4.1
	全学集計	464 (37.3%)	489 (39.3%)	185 (14.9%)	63 (5.1%)	43 (3.5%)	4.0
2017年度 回答者	30人未満	396 (36.4%)	426 (39.1%)	167 (15.3%)	58 (5.3%)	42 (3.9%)	4.0
	30人以上50人未満	51 (44.7%)	45 (39.5%)	13 (11.4%)	4 (3.5%)	1 (0.9%)	4.2
	50人以上100人未満	17 (41.5%)	18 (43.9%)	5 (12.2%)	1 (2.4%)	0 (0.0%)	4.2
	100人以上200人未満	0	0	0	0	0	0.0
	200人以上300人未満	0	0	0	0	0	0.0
	300人以上	0	0	0	0	0	0.0
	全学集計	464 (37.3%)	489 (39.3%)	185 (14.9%)	63 (5.1%)	43 (3.5%)	4.0

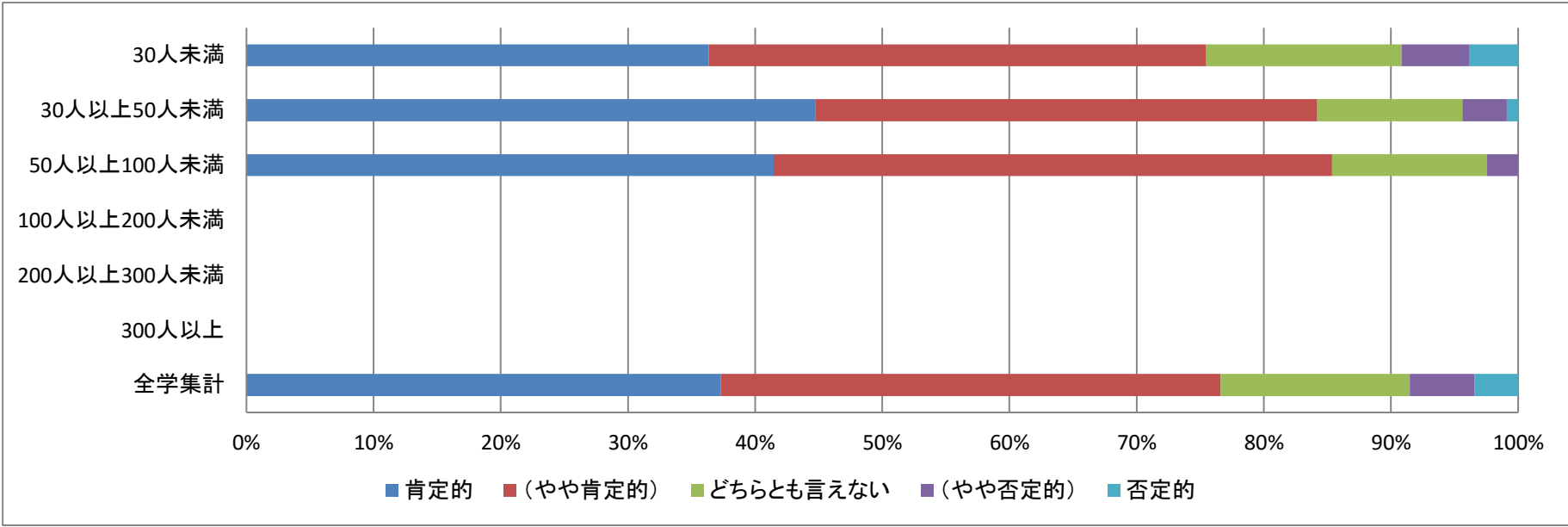
< 評価帯グラフ >

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2017年度 履修登録者数



2017年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答数レベル別集計】

学 年 ： 全学年
学 部 ： 外国語学部

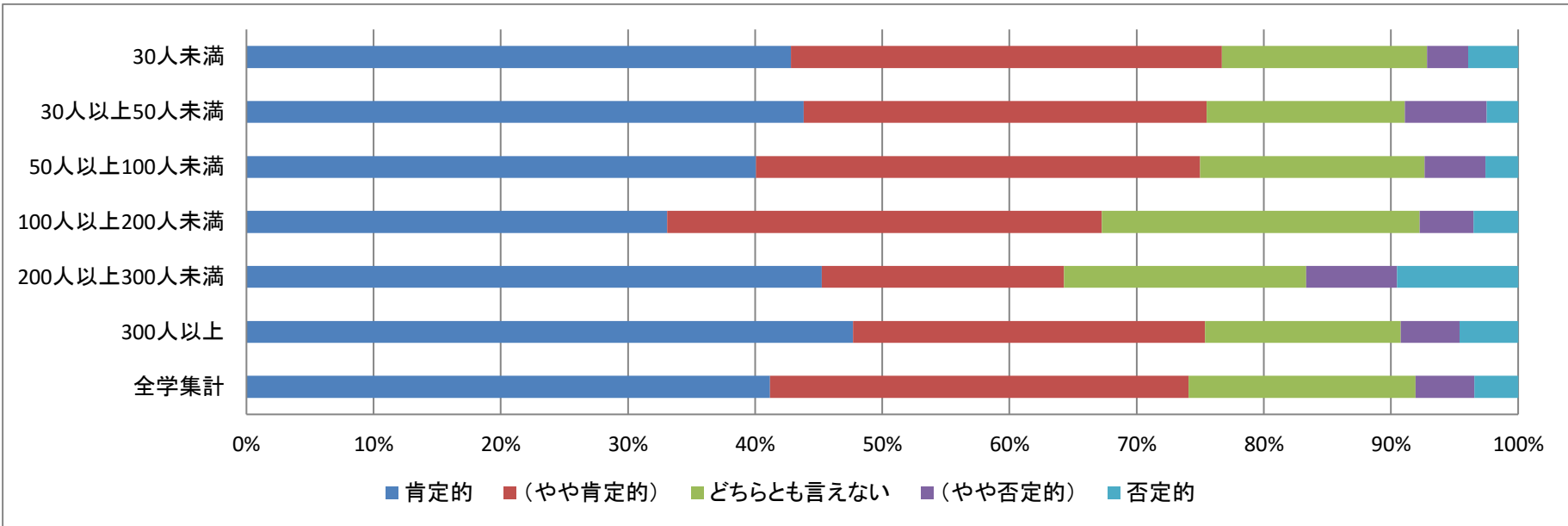
総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度 履修者	30人未満	239 （42.8%）	189 （33.9%）	90 （16.1%）	18 （3.2%）	22 （3.9%）	4.1
	30人以上50人未満	177 （43.8%）	128 （31.7%）	63 （15.6%）	26 （6.4%）	10 （2.5%）	4.1
	50人以上100人未満	109 （40.1%）	95 （34.9%）	48 （17.6%）	13 （4.8%）	7 （2.6%）	4.1
	100人以上200人未満	94 （33.1%）	97 （34.2%）	71 （25.0%）	12 （4.2%）	10 （3.5%）	3.9
	200人以上300人未満	19 （45.2%）	8 （19.0%）	8 （19.0%）	3 （7.1%）	4 （9.5%）	3.8
	300人以上	31 （47.7%）	18 （27.7%）	10 （15.4%）	3 （4.6%）	3 （4.6%）	4.1
	全学集計	669 （41.2%）	535 （32.9%）	290 （17.8%）	75 （4.6%）	56 （3.4%）	4.0
2017年度 回答者	30人未満	604 （41.9%）	479 （33.2%）	247 （17.1%）	63 （4.4%）	48 （3.3%）	4.1
	30人以上50人未満	40 （30.3%）	43 （32.6%）	32 （24.2%）	11 （8.3%）	6 （4.5%）	3.8
	50人以上100人未満	25 （48.1%）	13 （25.0%）	11 （21.2%）	1 （1.9%）	2 （3.8%）	4.1
	100人以上200人未満	0	0	0	0	0	0.0
	200人以上300人未満	0	0	0	0	0	0.0
	300人以上	0	0	0	0	0	0.0
	全学集計	669 （41.2%）	535 （32.9%）	290 （17.8%）	75 （4.6%）	56 （3.4%）	4.0

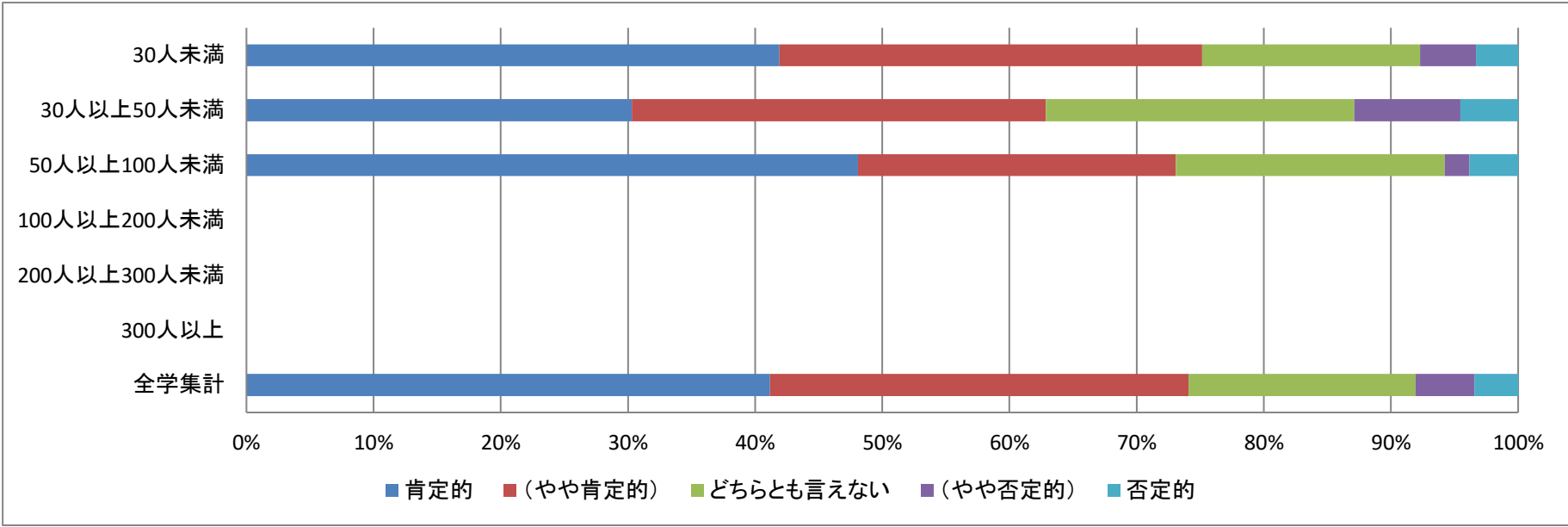
< 評価帯グラフ >

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2017年度 履修登録者数



2017年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答数レベル別集計】

学 年： 全学年
学 部： 法学部

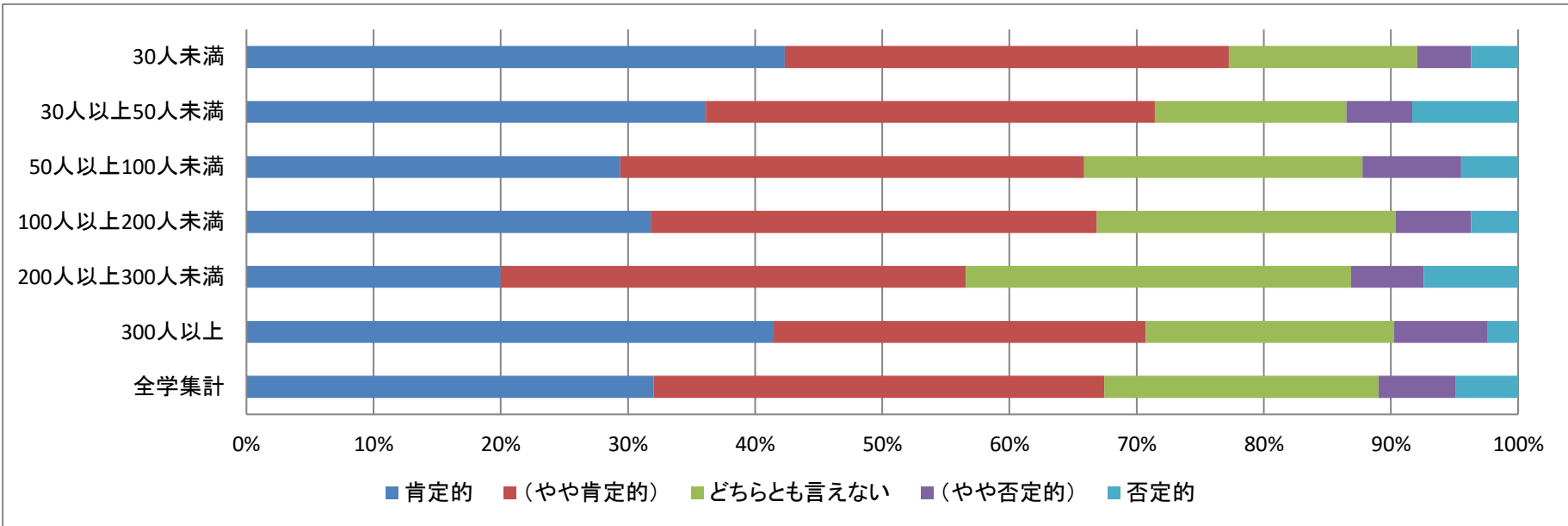
総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度 履修者	30人未満	80 (42.3%)	66 (34.9%)	28 (14.8%)	8 (4.2%)	7 (3.7%)	4.1
	30人以上50人未満	91 (36.1%)	89 (35.3%)	38 (15.1%)	13 (5.2%)	21 (8.3%)	3.9
	50人以上100人未満	125 (29.4%)	155 (36.5%)	93 (21.9%)	33 (7.8%)	19 (4.5%)	3.8
	100人以上200人未満	215 (31.8%)	237 (35.1%)	159 (23.5%)	40 (5.9%)	25 (3.7%)	3.9
	200人以上300人未満	35 (20.0%)	64 (36.6%)	53 (30.3%)	10 (5.7%)	13 (7.4%)	3.6
	300人以上	17 (41.5%)	12 (29.3%)	8 (19.5%)	3 (7.3%)	1 (2.4%)	4.0
	全学集計	563 (32.0%)	623 (35.4%)	379 (21.6%)	107 (6.1%)	86 (4.9%)	3.8
2017年度 回答者	30人未満	351 (31.1%)	392 (34.8%)	257 (22.8%)	65 (5.8%)	63 (5.6%)	3.8
	30人以上50人未満	145 (31.6%)	158 (34.4%)	96 (20.9%)	37 (8.1%)	23 (5.0%)	3.8
	50人以上100人未満	67 (39.2%)	73 (42.7%)	26 (15.2%)	5 (2.9%)	0 (0.0%)	4.2
	100人以上200人未満	0	0	0	0	0	0.0
	200人以上300人未満	0	0	0	0	0	0.0
	300人以上	0	0	0	0	0	0.0
	全学集計	563 (32.0%)	623 (35.4%)	379 (21.6%)	107 (6.1%)	86 (4.9%)	3.8

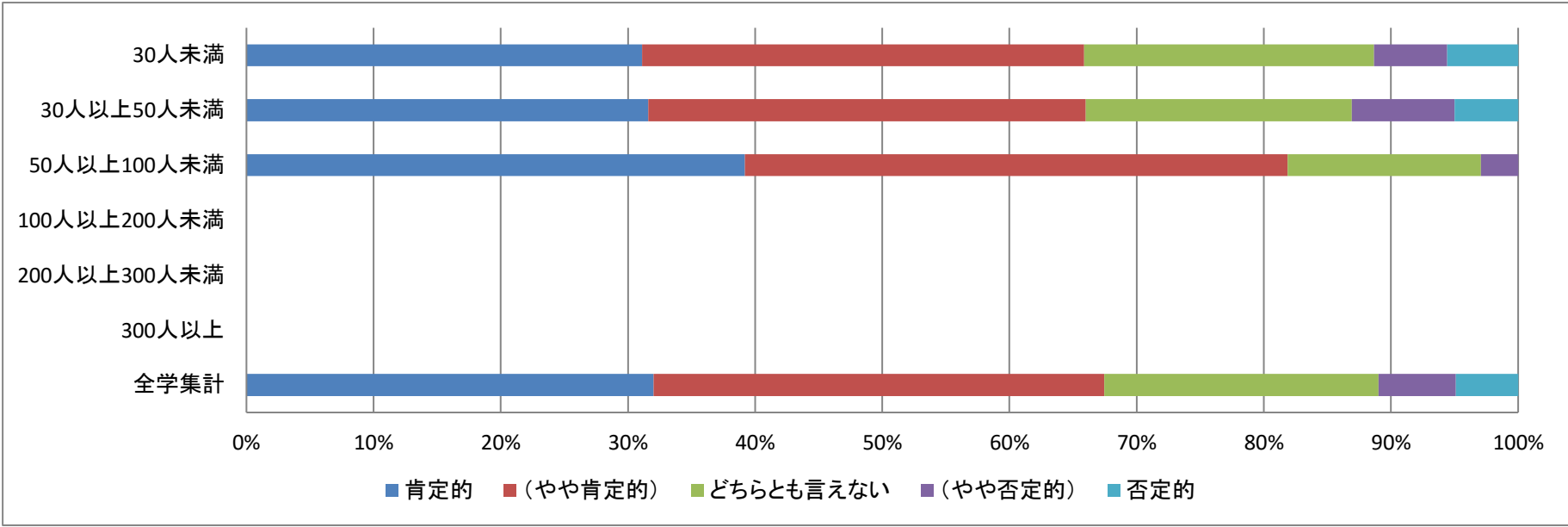
< 評価帯グラフ >

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2017年度 履修登録者数



2017年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答数レベル別集計】

学 年： 全学年
学 部： 国際関係学部

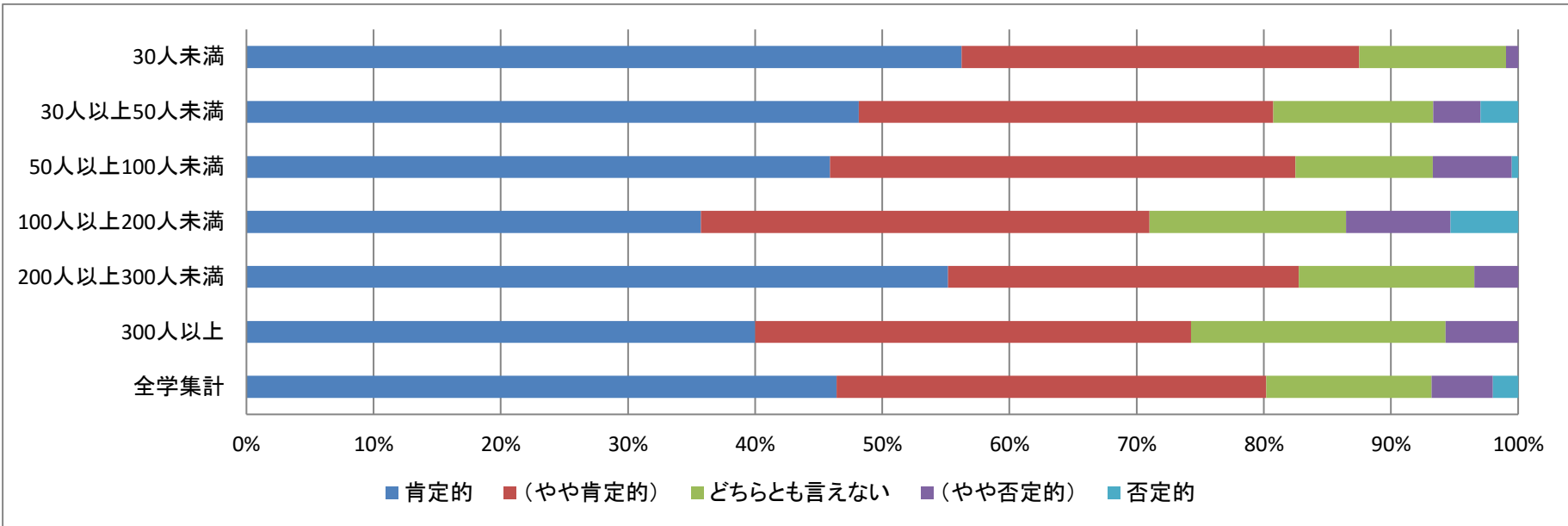
総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度 履修者	30人未満	117 (56.3%)	65 (31.3%)	24 (11.5%)	2 (1.0%)	0 (0.0%)	4.4
	30人以上50人未満	65 (48.1%)	44 (32.6%)	17 (12.6%)	5 (3.7%)	4 (3.0%)	4.2
	50人以上100人未満	89 (45.9%)	71 (36.6%)	21 (10.8%)	12 (6.2%)	1 (0.5%)	4.2
	100人以上200人未満	74 (35.7%)	73 (35.3%)	32 (15.5%)	17 (8.2%)	11 (5.3%)	3.9
	200人以上300人未満	16 (55.2%)	8 (27.6%)	4 (13.8%)	1 (3.4%)	0 (0.0%)	4.3
	300人以上	14 (40.0%)	12 (34.3%)	7 (20.0%)	2 (5.7%)	0 (0.0%)	4.1
	全学集計	375 (46.4%)	273 (33.8%)	105 (13.0%)	39 (4.8%)	16 (2.0%)	4.2
2017年度 回答者	30人未満	334 (46.7%)	240 (33.6%)	93 (13.0%)	35 (4.9%)	13 (1.8%)	4.2
	30人以上50人未満	31 (47.7%)	23 (35.4%)	6 (9.2%)	2 (3.1%)	3 (4.6%)	4.2
	50人以上100人未満	10 (35.7%)	10 (35.7%)	6 (21.4%)	2 (7.1%)	0 (0.0%)	4.0
	100人以上200人未満	0	0	0	0	0	0.0
	200人以上300人未満	0	0	0	0	0	0.0
	300人以上	0	0	0	0	0	0.0
	全学集計	375 (46.4%)	273 (33.8%)	105 (13.0%)	39 (4.8%)	16 (2.0%)	4.2

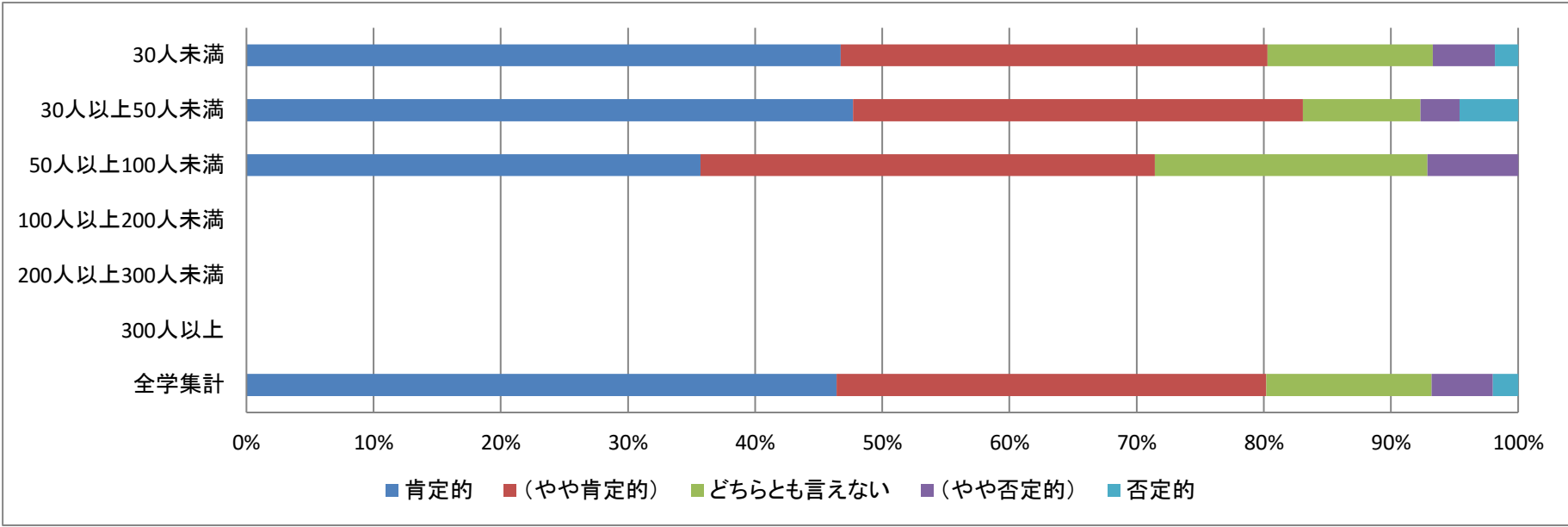
< 評価帯グラフ >

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2017年度 履修登録者数



2017年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答数レベル別集計】

学 年 ： 全学年
学 部 ： 経営学部

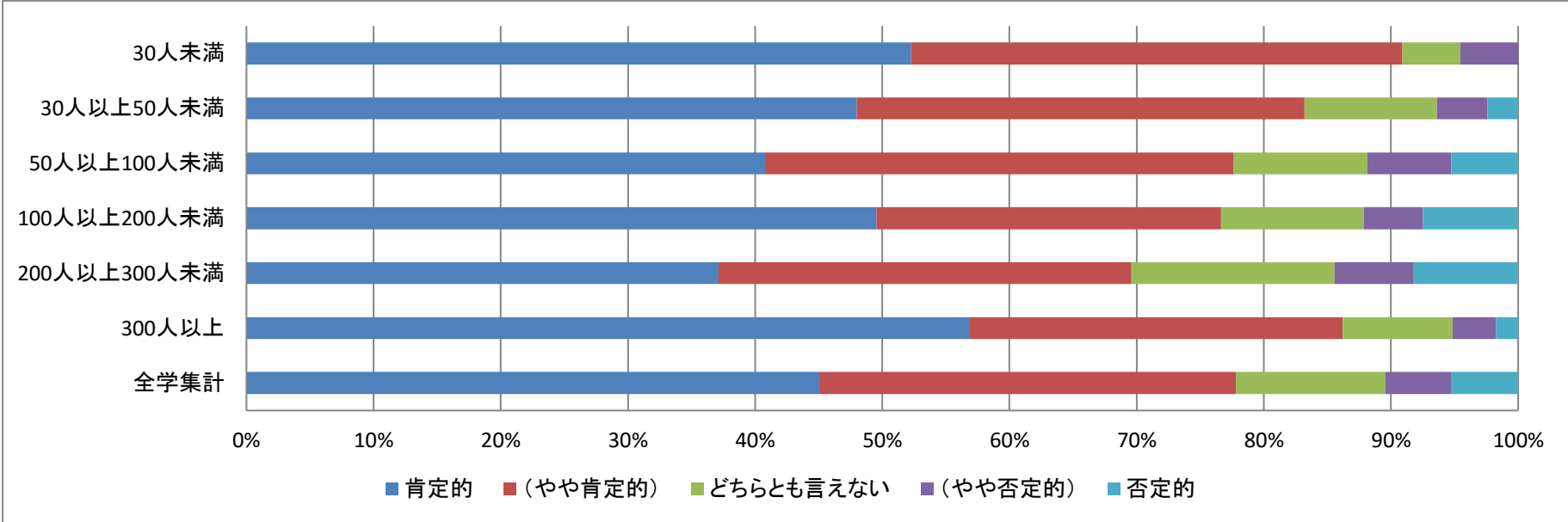
総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度 履修者	30人未満	23 (52.3%)	17 (38.6%)	2 (4.5%)	2 (4.5%)	0 (0.0%)	4.4
	30人以上50人未満	60 (48.0%)	44 (35.2%)	13 (10.4%)	5 (4.0%)	3 (2.4%)	4.2
	50人以上100人未満	31 (40.8%)	28 (36.8%)	8 (10.5%)	5 (6.6%)	4 (5.3%)	4.0
	100人以上200人未満	53 (49.5%)	29 (27.1%)	12 (11.2%)	5 (4.7%)	8 (7.5%)	4.1
	200人以上300人未満	72 (37.1%)	63 (32.5%)	31 (16.0%)	12 (6.2%)	16 (8.2%)	3.8
	300人以上	33 (56.9%)	17 (29.3%)	5 (8.6%)	2 (3.4%)	1 (1.7%)	4.4
	全学集計	272 (45.0%)	198 (32.8%)	71 (11.8%)	31 (5.1%)	32 (5.3%)	4.1
2017年度 回答者	30人未満	245 (45.1%)	175 (32.2%)	63 (11.6%)	28 (5.2%)	32 (5.9%)	4.1
	30人以上50人未満	19 (42.2%)	17 (37.8%)	7 (15.6%)	2 (4.4%)	0 (0.0%)	4.2
	50人以上100人未満	8 (50.0%)	6 (37.5%)	1 (6.3%)	1 (6.3%)	0 (0.0%)	4.3
	100人以上200人未満	0	0	0	0	0	0.0
	200人以上300人未満	0	0	0	0	0	0.0
	300人以上	0	0	0	0	0	0.0
	全学集計	272 (45.0%)	198 (32.8%)	71 (11.8%)	31 (5.1%)	32 (5.3%)	4.1

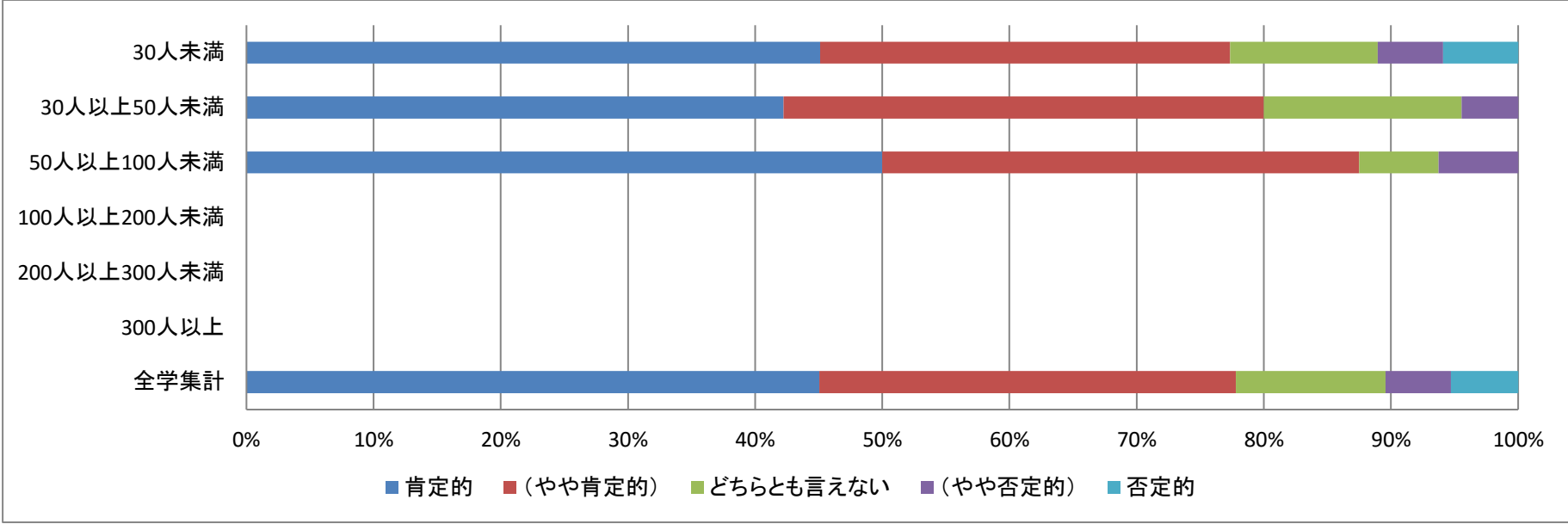
< 評価帯グラフ >

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2017年度 履修登録者数



2017年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答数レベル別集計】

学 年： 全学年
学 部： 環境創造学部

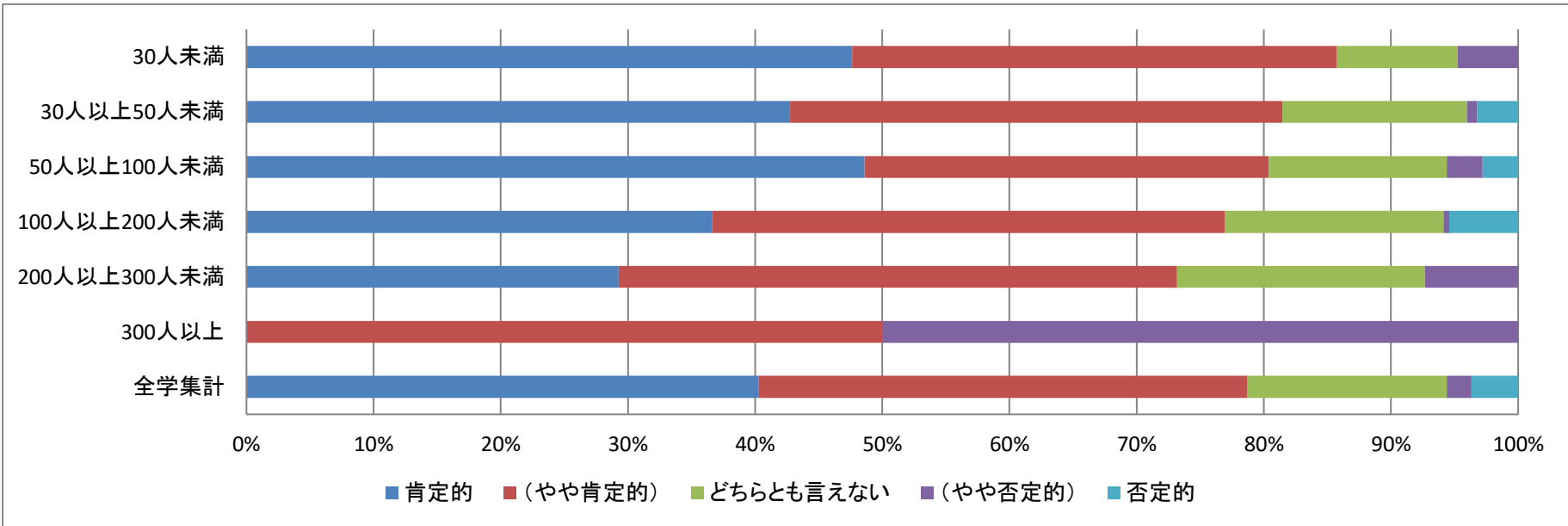
総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度 履修者	30人未満	10 (47.6%)	8 (38.1%)	2 (9.5%)	1 (4.8%)	0 (0.0%)	4.3
	30人以上50人未満	53 (42.7%)	48 (38.7%)	18 (14.5%)	1 (0.8%)	4 (3.2%)	4.2
	50人以上100人未満	52 (48.6%)	34 (31.8%)	15 (14.0%)	3 (2.8%)	3 (2.8%)	4.2
	100人以上200人未満	81 (36.7%)	89 (40.3%)	38 (17.2%)	1 (0.5%)	12 (5.4%)	4.0
	200人以上300人未満	12 (29.3%)	18 (43.9%)	8 (19.5%)	3 (7.3%)	0 (0.0%)	4.0
	300人以上	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	1 (50.0%)	0 (0.0%)	3.0
	全学集計	208 (40.3%)	198 (38.4%)	81 (15.7%)	10 (1.9%)	19 (3.7%)	4.1
2017年度 回答者	30人未満	172 (39.8%)	164 (38.0%)	67 (15.5%)	10 (2.3%)	19 (4.4%)	4.1
	30人以上50人未満	3 (75.0%)	1 (25.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.8
	50人以上100人未満	33 (41.3%)	33 (41.3%)	14 (17.5%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.2
	100人以上200人未満	0	0	0	0	0	0.0
	200人以上300人未満	0	0	0	0	0	0.0
	300人以上	0	0	0	0	0	0.0
	全学集計	208 (40.3%)	198 (38.4%)	81 (15.7%)	10 (1.9%)	19 (3.7%)	4.1

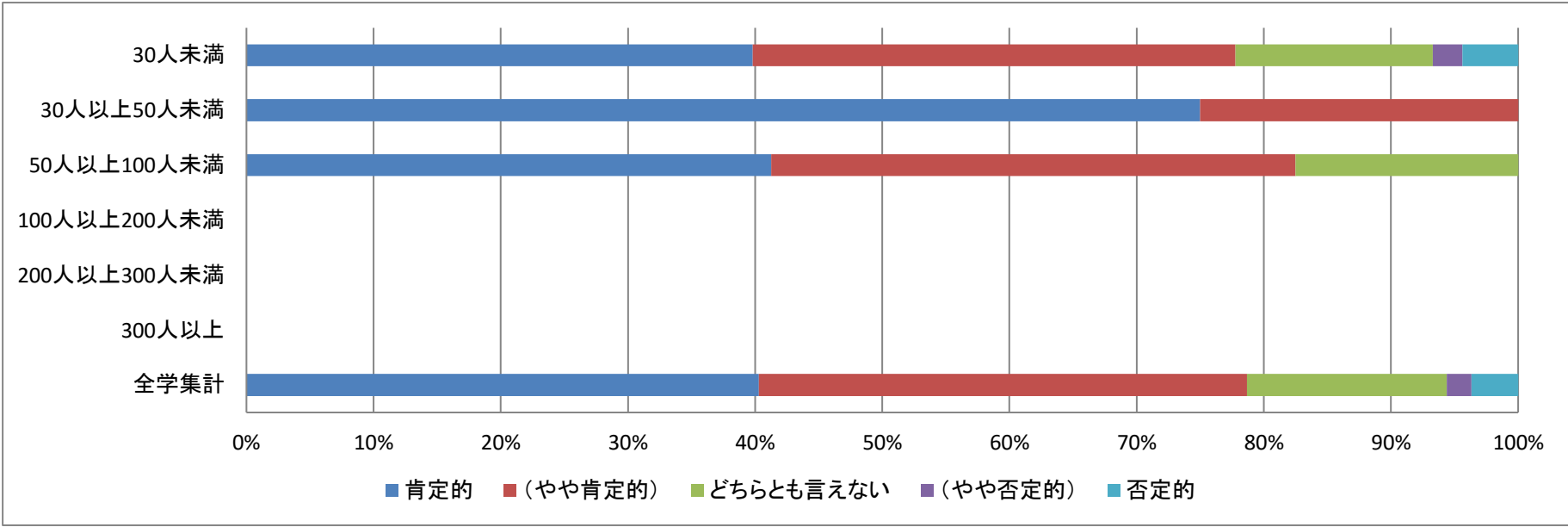
< 評価帯グラフ >

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2017年度 履修登録者数



2017年度 回答者数



全学集計【履修登録者数・回答数レベル別集計】

学 年： 全学年
学 部： スポーツ・健康科学部

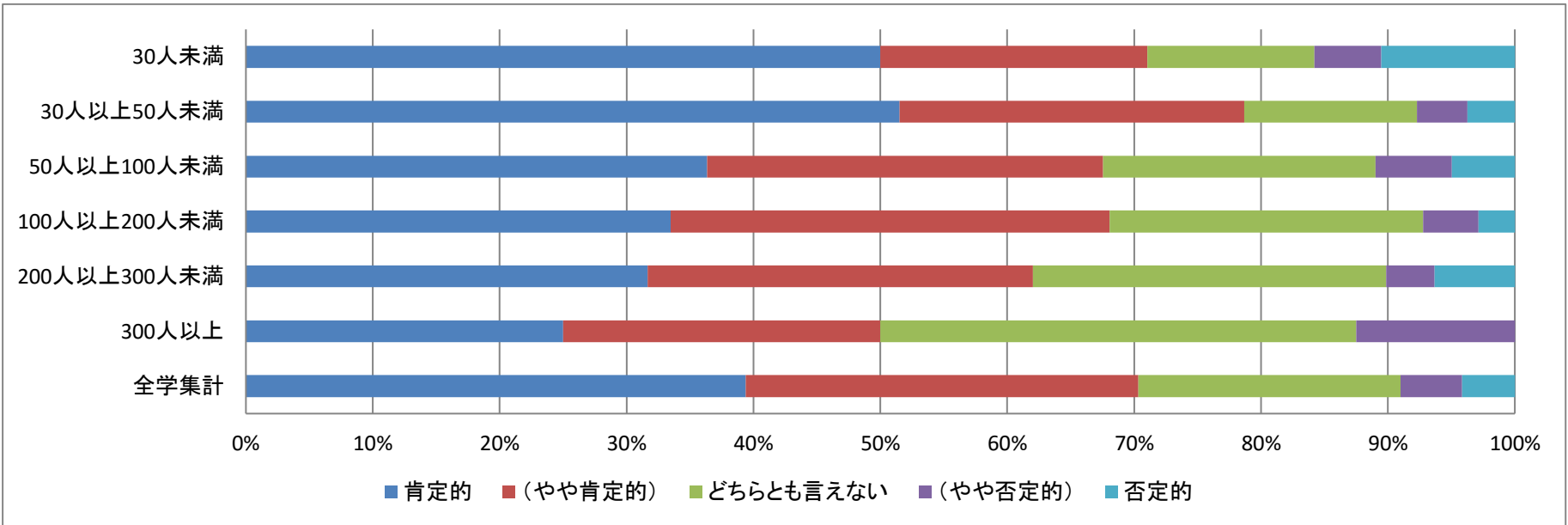
総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	区分	肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度 履修者	30人未満	19 (50.0%)	8 (21.1%)	5 (13.2%)	2 (5.3%)	4 (10.5%)	3.9
	30人以上50人未満	220 (51.5%)	116 (27.2%)	58 (13.6%)	17 (4.0%)	16 (3.7%)	4.2
	50人以上100人未満	205 (36.3%)	176 (31.2%)	121 (21.5%)	34 (6.0%)	28 (5.0%)	3.9
	100人以上200人未満	176 (33.5%)	182 (34.6%)	130 (24.7%)	23 (4.4%)	15 (2.9%)	3.9
	200人以上300人未満	25 (31.6%)	24 (30.4%)	22 (27.8%)	3 (3.8%)	5 (6.3%)	3.8
	300人以上	2 (25.0%)	2 (25.0%)	3 (37.5%)	1 (12.5%)	0 (0.0%)	3.6
	全学集計	647 (39.4%)	508 (30.9%)	339 (20.6%)	80 (4.9%)	68 (4.1%)	4.0
2017年度 回答者	30人未満	374 (44.2%)	256 (30.3%)	143 (16.9%)	32 (3.8%)	41 (4.8%)	4.1
	30人以上50人未満	129 (39.0%)	92 (27.8%)	71 (21.5%)	22 (6.6%)	17 (5.1%)	3.9
	50人以上100人未満	125 (34.3%)	119 (32.7%)	94 (25.8%)	19 (5.2%)	7 (1.9%)	3.9
	100人以上200人未満	19 (18.8%)	41 (40.6%)	31 (30.7%)	7 (6.9%)	3 (3.0%)	3.7
	200人以上300人未満	0	0	0	0	0	0.0
	300人以上	0	0	0	0	0	0.0
	全学集計	647 (39.4%)	508 (30.9%)	339 (20.6%)	80 (4.9%)	68 (4.1%)	4.0

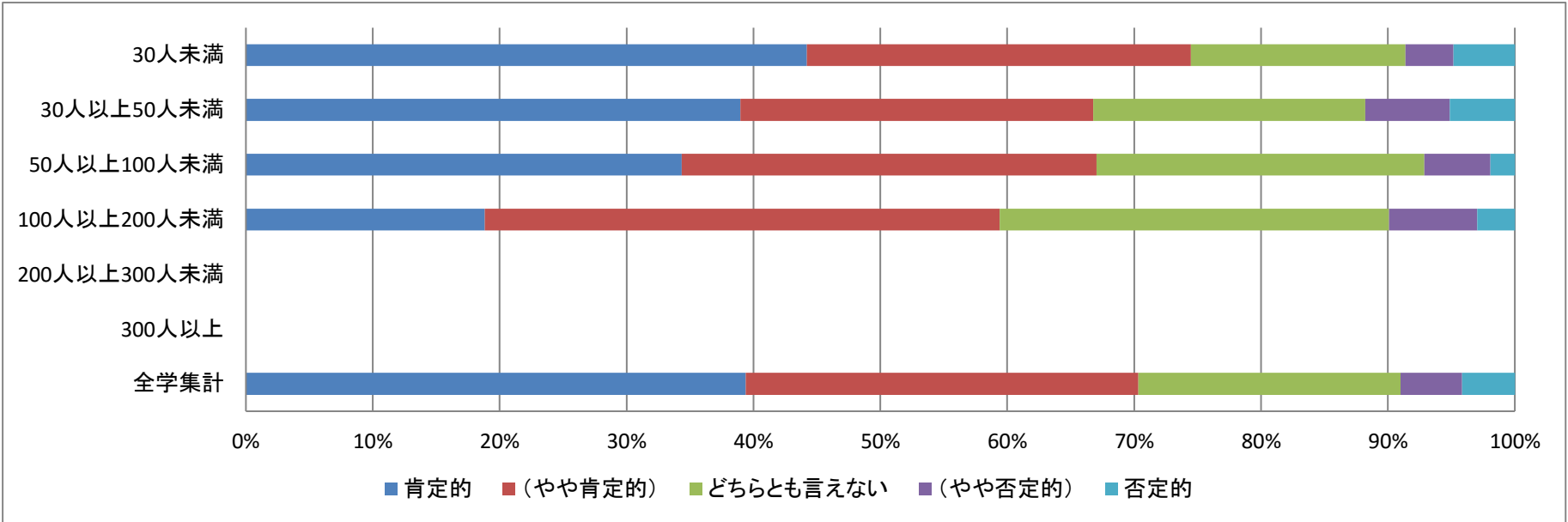
< 評価帯グラフ >

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

2017年度 履修登録者数



2017年度 回答者数



B. 項目別集計
(全学・学年別集計)

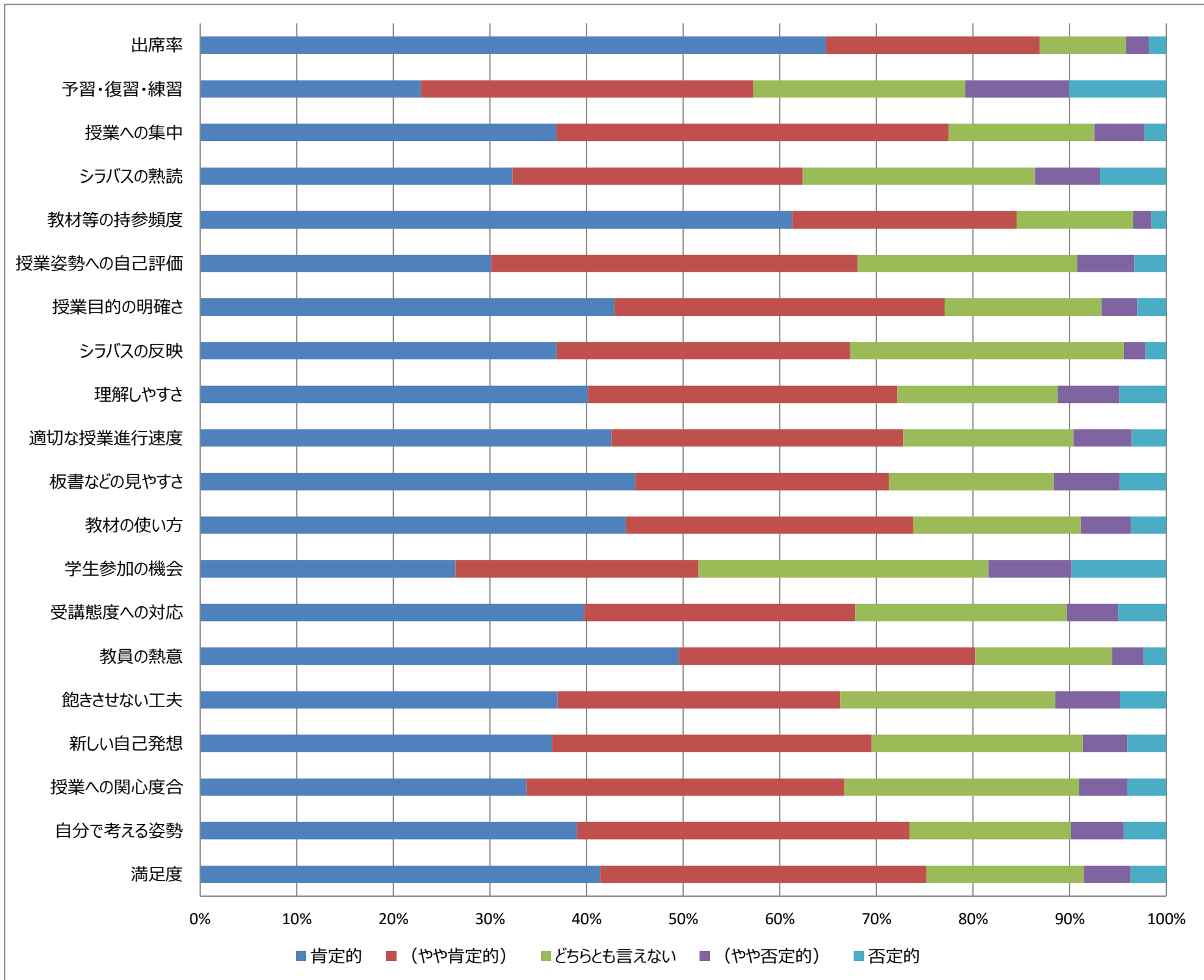
全学集計【項目別集計】

学 年 ： 全学年

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	I Q1 出席率	6,902 (64.8%)	2,358 (22.1%)	950 (8.9%)	255 (2.4%)	190 (1.8%)	4.5
	I Q2 予習・復習・練習	2,435 (22.9%)	3,666 (34.4%)	2,335 (21.9%)	1,149 (10.8%)	1,070 (10.0%)	3.5
	I Q3 授業への集中	3,930 (36.9%)	4,326 (40.6%)	1,605 (15.1%)	556 (5.2%)	238 (2.2%)	4.0
	I Q4 シラバスの熟読	3,447 (32.4%)	3,199 (30.0%)	2,560 (24.0%)	717 (6.7%)	732 (6.9%)	3.7
	I Q5 教材等の持参頻度	6,528 (61.3%)	2,476 (23.2%)	1,286 (12.1%)	202 (1.9%)	163 (1.5%)	4.4
	I Q6 授業姿勢への自己評価	3,209 (30.1%)	4,043 (37.9%)	2,423 (22.7%)	627 (5.9%)	353 (3.3%)	3.9
	II Q7 授業目的の明確さ	4,570 (42.9%)	3,639 (34.2%)	1,733 (16.3%)	391 (3.7%)	322 (3.0%)	4.1
	II Q8 シラバスの反映	3,933 (36.9%)	3,238 (30.4%)	3,015 (28.3%)	236 (2.2%)	233 (2.2%)	4.0
	II Q9 理解しやすさ	4,278 (40.2%)	3,413 (32.0%)	1,768 (16.6%)	676 (6.3%)	520 (4.9%)	4.0
	II Q10 適切な授業進行速度	4,535 (42.6%)	3,220 (30.2%)	1,877 (17.6%)	642 (6.0%)	381 (3.6%)	4.0
	II Q11 板書などの見やすさ	4,798 (45.0%)	2,797 (26.3%)	1,818 (17.1%)	731 (6.9%)	511 (4.8%)	4.0
	II Q12 教材の使い方	4,697 (44.1%)	3,168 (29.7%)	1,850 (17.4%)	550 (5.2%)	390 (3.7%)	4.1
	II Q13 学生参加の機会	2,814 (26.4%)	2,682 (25.2%)	3,198 (30.0%)	917 (8.6%)	1,044 (9.8%)	3.5
	II Q14 受講態度への対応	4,236 (39.8%)	2,988 (28.0%)	2,332 (21.9%)	571 (5.4%)	528 (5.0%)	3.9
	II Q15 教員の熱意	5,281 (49.6%)	3,269 (30.7%)	1,506 (14.1%)	346 (3.2%)	253 (2.4%)	4.2
	II Q16 飽きさせない工夫	3,942 (37.0%)	3,119 (29.3%)	2,369 (22.2%)	716 (6.7%)	509 (4.8%)	3.9
	II Q17 新しい自己発想	3,880 (36.4%)	3,527 (33.1%)	2,328 (21.8%)	494 (4.6%)	426 (4.0%)	3.9
	II Q18 授業への関心度合	3,595 (33.7%)	3,510 (32.9%)	2,589 (24.3%)	531 (5.0%)	430 (4.0%)	3.9
	II Q19 自分で考える姿勢	4,156 (39.0%)	3,666 (34.4%)	1,780 (16.7%)	587 (5.5%)	466 (4.4%)	4.0
	III Q20 満足度	4,413 (41.4%)	3,596 (33.7%)	1,737 (16.3%)	512 (4.8%)	397 (3.7%)	4.0

< 評価帯グラフ >

2017年度



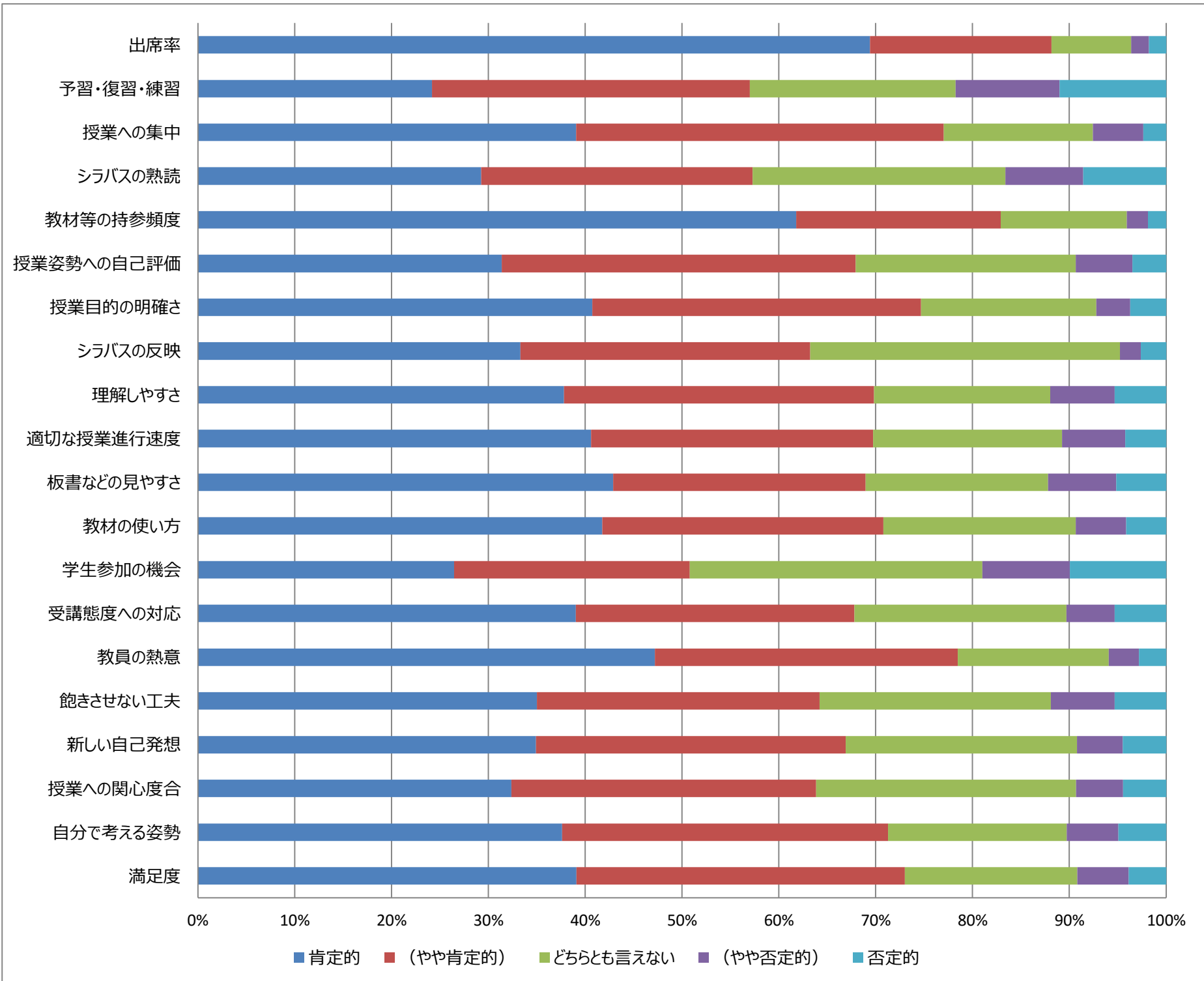
全学集計【項目別集計】

学 年 ： 1 年

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	I Q1 出席率	3,295 (69.4%)	890 (18.7%)	391 (8.2%)	87 (1.8%)	84 (1.8%)	4.5
	I Q2 予習・復習・練習	1,148 (24.2%)	1,558 (32.8%)	1,008 (21.2%)	511 (10.8%)	522 (11.0%)	3.5
	I Q3 授業への集中	1,854 (39.1%)	1,803 (38.0%)	730 (15.4%)	248 (5.2%)	112 (2.4%)	4.1
	I Q4 シラバスの熟読	1,388 (29.2%)	1,332 (28.1%)	1,239 (26.1%)	381 (8.0%)	407 (8.6%)	3.6
	I Q5 教材等の持参頻度	2,933 (61.8%)	1,003 (21.1%)	618 (13.0%)	104 (2.2%)	89 (1.9%)	4.4
	I Q6 授業姿勢への自己評価	1,489 (31.4%)	1,736 (36.6%)	1,078 (22.7%)	279 (5.9%)	165 (3.5%)	3.9
	II Q7 授業目的の明確さ	1,933 (40.7%)	1,612 (34.0%)	860 (18.1%)	166 (3.5%)	176 (3.7%)	4.0
	II Q8 シラバスの反映	1,581 (33.3%)	1,420 (29.9%)	1,520 (32.0%)	102 (2.1%)	124 (2.6%)	3.9
	II Q9 理解しやすさ	1,795 (37.8%)	1,519 (32.0%)	865 (18.2%)	315 (6.6%)	253 (5.3%)	3.9
	II Q10 適切な授業進行速度	1,927 (40.6%)	1,383 (29.1%)	926 (19.5%)	311 (6.6%)	200 (4.2%)	4.0
	II Q11 板書などの見やすさ	2,036 (42.9%)	1,237 (26.1%)	895 (18.9%)	334 (7.0%)	245 (5.2%)	3.9
	II Q12 教材の使い方	1,982 (41.8%)	1,379 (29.0%)	942 (19.8%)	248 (5.2%)	196 (4.1%)	4.0
	II Q13 学生参加の機会	1,256 (26.5%)	1,155 (24.3%)	1,434 (30.2%)	429 (9.0%)	473 (10.0%)	3.5
	II Q14 受講態度への対応	1,853 (39.0%)	1,366 (28.8%)	1,039 (21.9%)	236 (5.0%)	253 (5.3%)	3.9
	II Q15 教員の熱意	2,240 (47.2%)	1,485 (31.3%)	741 (15.6%)	147 (3.1%)	134 (2.8%)	4.2
	II Q16 飽きさせない工夫	1,662 (35.0%)	1,385 (29.2%)	1,134 (23.9%)	314 (6.6%)	252 (5.3%)	3.8
	II Q17 新しい自己発想	1,657 (34.9%)	1,519 (32.0%)	1,134 (23.9%)	224 (4.7%)	213 (4.5%)	3.9
	II Q18 授業への関心度合	1,536 (32.4%)	1,494 (31.5%)	1,275 (26.9%)	231 (4.9%)	211 (4.4%)	3.8
	II Q19 自分で考える姿勢	1,786 (37.6%)	1,597 (33.6%)	877 (18.5%)	252 (5.3%)	235 (5.0%)	3.9
	III Q20 満足度	1,855 (39.1%)	1,610 (33.9%)	846 (17.8%)	252 (5.3%)	184 (3.9%)	4.0

< 評価帯グラフ >

2017年度



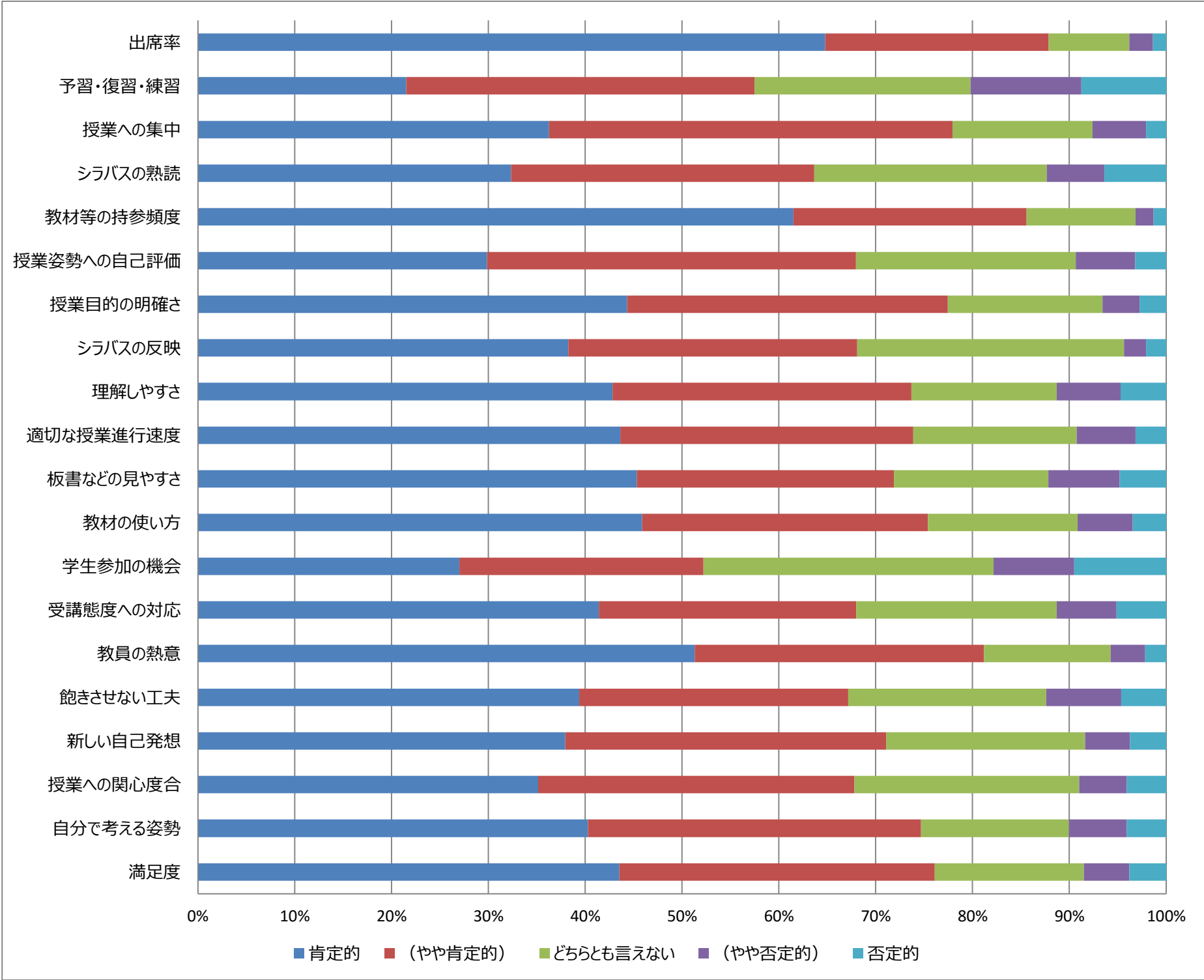
全学集計【項目別集計】

学 年 ： 2 年

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	I Q1 出席率	2,271 (64.8%)	809 (23.1%)	292 (8.3%)	85 (2.4%)	48 (1.4%)	4.5
	I Q2 予習・復習・練習	754 (21.5%)	1,261 (36.0%)	782 (22.3%)	401 (11.4%)	307 (8.8%)	3.5
	I Q3 授業への集中	1,271 (36.3%)	1,460 (41.7%)	507 (14.5%)	194 (5.5%)	73 (2.1%)	4.0
	I Q4 シラバスの熟読	1,133 (32.3%)	1,098 (31.3%)	842 (24.0%)	208 (5.9%)	224 (6.4%)	3.8
	I Q5 教材等の持参頻度	2,155 (61.5%)	845 (24.1%)	394 (11.2%)	65 (1.9%)	46 (1.3%)	4.4
	I Q6 授業姿勢への自己評価	1,047 (29.9%)	1,335 (38.1%)	796 (22.7%)	215 (6.1%)	112 (3.2%)	3.9
	II Q7 授業目的の明確さ	1,554 (44.3%)	1,161 (33.1%)	560 (16.0%)	134 (3.8%)	96 (2.7%)	4.1
	II Q8 シラバスの反映	1,341 (38.3%)	1,045 (29.8%)	966 (27.6%)	80 (2.3%)	73 (2.1%)	4.0
	II Q9 理解しやすさ	1,501 (42.8%)	1,082 (30.9%)	526 (15.0%)	231 (6.6%)	165 (4.7%)	4.0
	II Q10 適切な授業進行速度	1,529 (43.6%)	1,060 (30.2%)	592 (16.9%)	213 (6.1%)	111 (3.2%)	4.1
	II Q11 板書などの見やすさ	1,589 (45.3%)	930 (26.5%)	560 (16.0%)	257 (7.3%)	169 (4.8%)	4.0
	II Q12 教材の使い方	1,608 (45.9%)	1,034 (29.5%)	542 (15.5%)	200 (5.7%)	121 (3.5%)	4.1
	II Q13 学生参加の機会	946 (27.0%)	884 (25.2%)	1,050 (30.0%)	292 (8.3%)	333 (9.5%)	3.5
	II Q14 受講態度への対応	1,451 (41.4%)	932 (26.6%)	726 (20.7%)	216 (6.2%)	180 (5.1%)	3.9
	II Q15 教員の熱意	1,798 (51.3%)	1,047 (29.9%)	459 (13.1%)	125 (3.6%)	76 (2.2%)	4.2
	II Q16 飽きさせない工夫	1,380 (39.4%)	974 (27.8%)	716 (20.4%)	272 (7.8%)	163 (4.7%)	3.9
	II Q17 新しい自己発想	1,330 (37.9%)	1,161 (33.1%)	720 (20.5%)	163 (4.7%)	131 (3.7%)	4.0
	II Q18 授業への関心度合	1,232 (35.1%)	1,144 (32.6%)	814 (23.2%)	172 (4.9%)	143 (4.1%)	3.9
	II Q19 自分で考える姿勢	1,412 (40.3%)	1,205 (34.4%)	536 (15.3%)	209 (6.0%)	143 (4.1%)	4.0
	III Q20 満足度	1,526 (43.5%)	1,141 (32.6%)	540 (15.4%)	164 (4.7%)	134 (3.8%)	4.1

< 評価帯グラフ >

2017年度



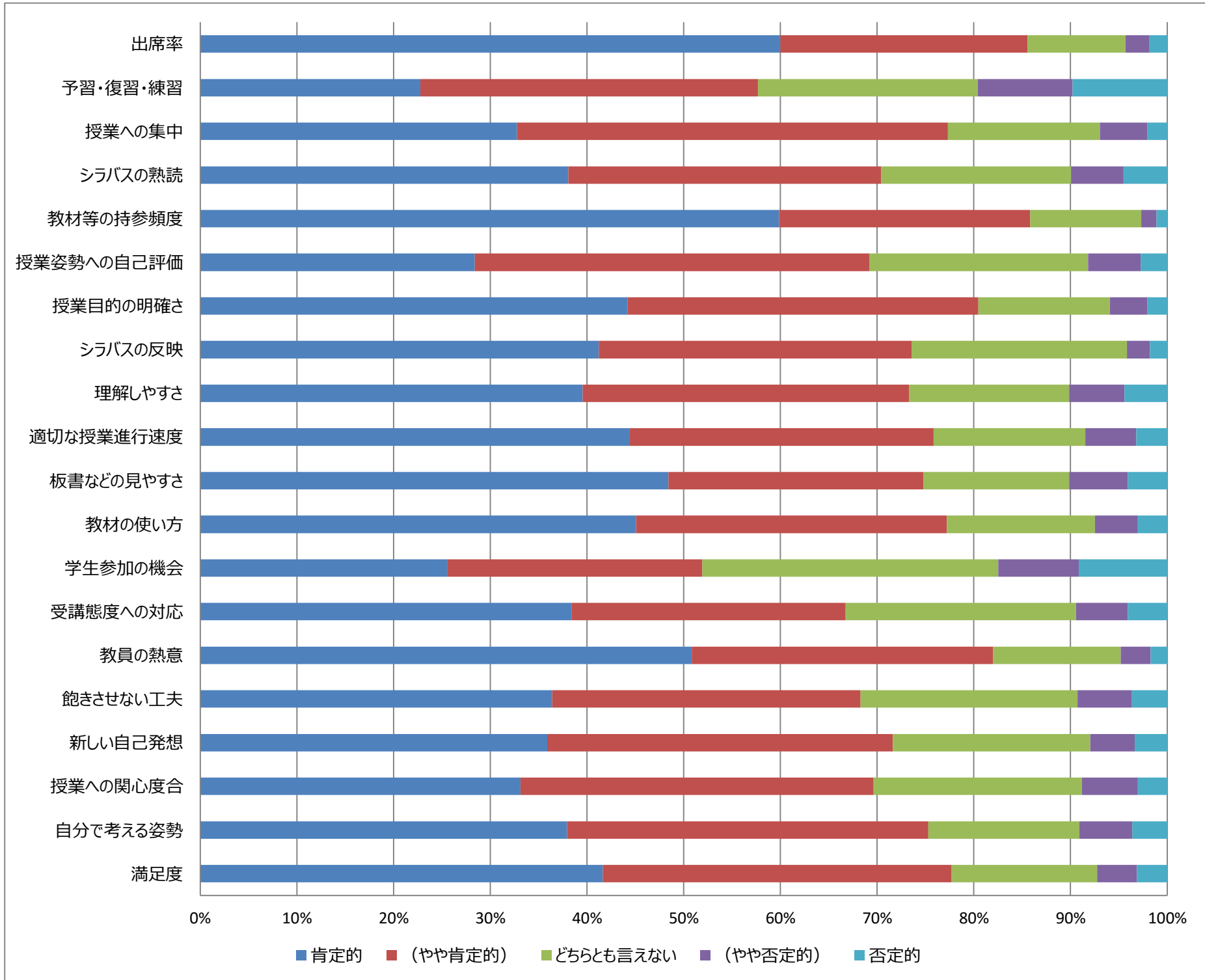
全学集計【項目別集計】

学 年 ： 3 年

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	I Q1 出席率	1,182 (60.0%)	503 (25.5%)	200 (10.2%)	48 (2.4%)	37 (1.9%)	4.4
	I Q2 予習・復習・練習	448 (22.7%)	688 (34.9%)	448 (22.7%)	193 (9.8%)	193 (9.8%)	3.5
	I Q3 授業への集中	645 (32.7%)	878 (44.6%)	310 (15.7%)	97 (4.9%)	40 (2.0%)	4.0
	I Q4 シラバスの熟読	750 (38.1%)	637 (32.3%)	387 (19.6%)	107 (5.4%)	89 (4.5%)	3.9
	I Q5 教材等の持参頻度	1,179 (59.8%)	512 (26.0%)	226 (11.5%)	31 (1.6%)	22 (1.1%)	4.4
	I Q6 授業姿勢への自己評価	559 (28.4%)	804 (40.8%)	446 (22.6%)	107 (5.4%)	54 (2.7%)	3.9
	II Q7 授業目的の明確さ	871 (44.2%)	714 (36.2%)	268 (13.6%)	77 (3.9%)	40 (2.0%)	4.2
	II Q8 シラバスの反映	812 (41.2%)	637 (32.3%)	439 (22.3%)	47 (2.4%)	35 (1.8%)	4.1
	II Q9 理解しやすさ	779 (39.5%)	665 (33.8%)	326 (16.5%)	113 (5.7%)	87 (4.4%)	4.0
	II Q10 適切な授業進行速度	874 (44.4%)	620 (31.5%)	309 (15.7%)	104 (5.3%)	63 (3.2%)	4.1
	II Q11 板書などの見やすさ	954 (48.4%)	519 (26.3%)	297 (15.1%)	120 (6.1%)	80 (4.1%)	4.1
	II Q12 教材の使い方	888 (45.1%)	633 (32.1%)	302 (15.3%)	87 (4.4%)	60 (3.0%)	4.1
	II Q13 学生参加の機会	503 (25.5%)	520 (26.4%)	603 (30.6%)	164 (8.3%)	180 (9.1%)	3.5
	II Q14 受講態度への対応	756 (38.4%)	559 (28.4%)	469 (23.8%)	106 (5.4%)	80 (4.1%)	3.9
	II Q15 教員の熱意	1,001 (50.8%)	614 (31.2%)	260 (13.2%)	61 (3.1%)	34 (1.7%)	4.3
	II Q16 飽きさせない工夫	717 (36.4%)	628 (31.9%)	442 (22.4%)	111 (5.6%)	72 (3.7%)	3.9
	II Q17 新しい自己発想	707 (35.9%)	704 (35.7%)	402 (20.4%)	91 (4.6%)	66 (3.4%)	4.0
	II Q18 授業への関心度合	652 (33.1%)	720 (36.5%)	424 (21.5%)	114 (5.8%)	60 (3.0%)	3.9
	II Q19 自分で考える姿勢	747 (37.9%)	736 (37.4%)	308 (15.6%)	108 (5.5%)	71 (3.6%)	4.0
	III Q20 満足度	820 (41.6%)	711 (36.1%)	296 (15.0%)	81 (4.1%)	62 (3.1%)	4.1

< 評価帯グラフ >

2017年度



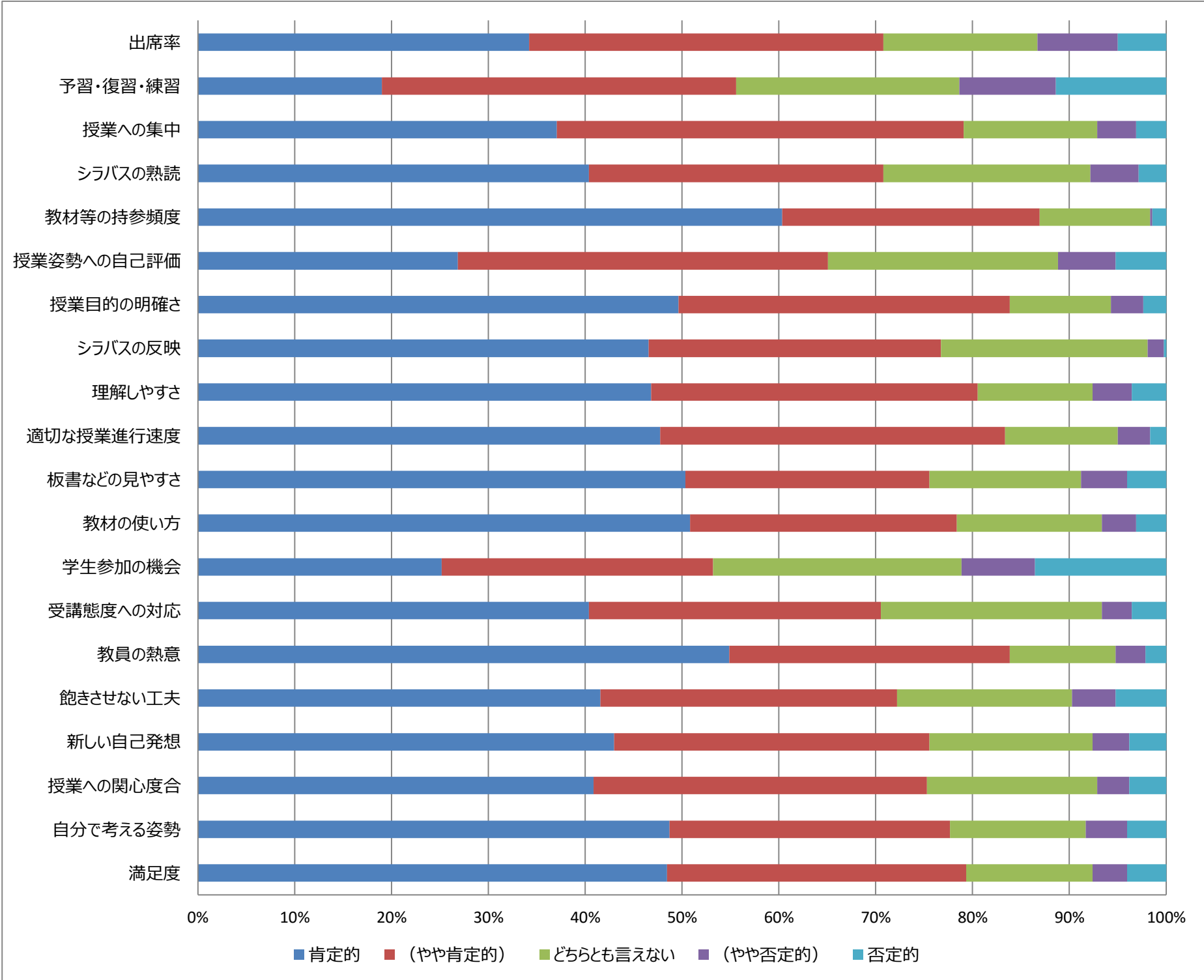
全学集計【項目別集計】

学 年 ： 4 年

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	I Q1 出席率	144 (34.2%)	154 (36.6%)	67 (15.9%)	35 (8.3%)	21 (5.0%)	3.9
	I Q2 予習・復習・練習	80 (19.0%)	154 (36.6%)	97 (23.0%)	42 (10.0%)	48 (11.4%)	3.4
	I Q3 授業への集中	156 (37.1%)	177 (42.0%)	58 (13.8%)	17 (4.0%)	13 (3.1%)	4.1
	I Q4 シラバスの熟読	170 (40.4%)	128 (30.4%)	90 (21.4%)	21 (5.0%)	12 (2.9%)	4.0
	I Q5 教材等の持参頻度	254 (60.3%)	112 (26.6%)	48 (11.4%)	1 (0.2%)	6 (1.4%)	4.4
	I Q6 授業姿勢への自己評価	113 (26.8%)	161 (38.2%)	100 (23.8%)	25 (5.9%)	22 (5.2%)	3.8
	II Q7 授業目的の明確さ	209 (49.6%)	144 (34.2%)	44 (10.5%)	14 (3.3%)	10 (2.4%)	4.3
	II Q8 シラバスの反映	196 (46.6%)	127 (30.2%)	90 (21.4%)	7 (1.7%)	1 (0.2%)	4.2
	II Q9 理解しやすさ	197 (46.8%)	142 (33.7%)	50 (11.9%)	17 (4.0%)	15 (3.6%)	4.2
	II Q10 適切な授業進行速度	201 (47.7%)	150 (35.6%)	49 (11.6%)	14 (3.3%)	7 (1.7%)	4.2
	II Q11 板書などの見やすさ	212 (50.4%)	106 (25.2%)	66 (15.7%)	20 (4.8%)	17 (4.0%)	4.1
	II Q12 教材の使い方	214 (50.8%)	116 (27.6%)	63 (15.0%)	15 (3.6%)	13 (3.1%)	4.2
	II Q13 学生参加の機会	106 (25.2%)	118 (28.0%)	108 (25.7%)	32 (7.6%)	57 (13.5%)	3.4
	II Q14 受講態度への対応	170 (40.4%)	127 (30.2%)	96 (22.8%)	13 (3.1%)	15 (3.6%)	4.0
	II Q15 教員の熱意	231 (54.9%)	122 (29.0%)	46 (10.9%)	13 (3.1%)	9 (2.1%)	4.3
	II Q16 飽きさせない工夫	175 (41.6%)	129 (30.6%)	76 (18.1%)	19 (4.5%)	22 (5.2%)	4.0
	II Q17 新しい自己発想	181 (43.0%)	137 (32.5%)	71 (16.9%)	16 (3.8%)	16 (3.8%)	4.1
	II Q18 授業への関心度合	172 (40.9%)	145 (34.4%)	74 (17.6%)	14 (3.3%)	16 (3.8%)	4.1
	II Q19 自分で考える姿勢	205 (48.7%)	122 (29.0%)	59 (14.0%)	18 (4.3%)	17 (4.0%)	4.1
	III Q20 満足度	204 (48.5%)	130 (30.9%)	55 (13.1%)	15 (3.6%)	17 (4.0%)	4.2

< 評価帯グラフ >

2017年度



C. 項目別集計
(学部別集計)

学部別【項目別集計】

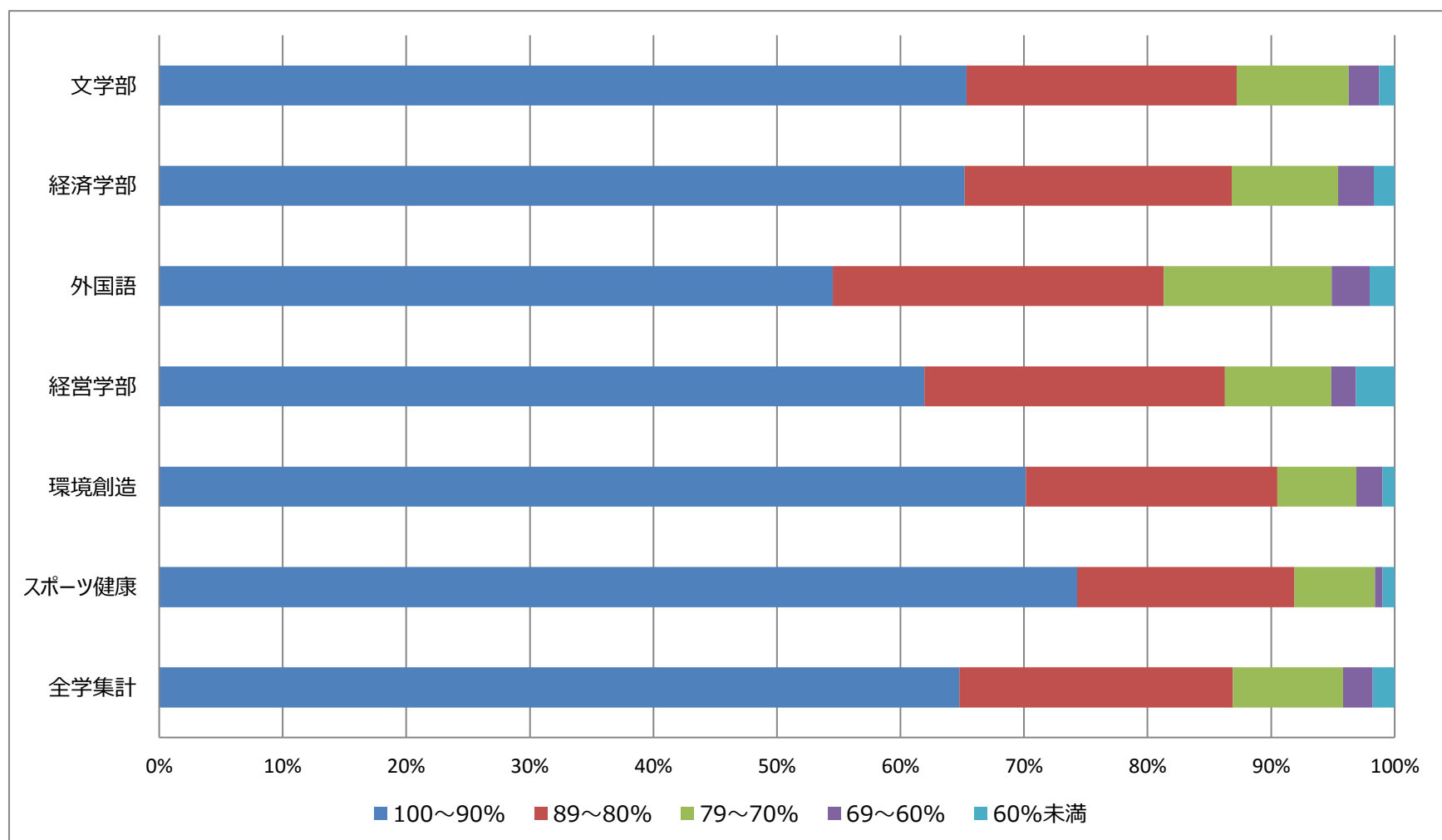
学 年 ： 全学年

I Q1 この授業への出席率はどのぐらいでしたか。(人)

実施年度	区分	100～90%	89～80%	79～70%	69～60%	60%未満	平均
2017年度	文学部	1,606 (65.3%)	538 (21.9%)	223 (9.1%)	60 (2.4%)	31 (1.3%)	4.5
	経済学部	811 (65.2%)	269 (21.6%)	107 (8.6%)	36 (2.9%)	21 (1.7%)	4.5
	外国語	886 (54.5%)	435 (26.8%)	221 (13.6%)	50 (3.1%)	33 (2.0%)	4.3
	法学部	1,157 (65.8%)	363 (20.6%)	135 (7.7%)	44 (2.5%)	59 (3.4%)	4.4
	国際関係	486 (60.1%)	212 (26.2%)	72 (8.9%)	32 (4.0%)	6 (0.7%)	4.4
	経営学部	374 (61.9%)	147 (24.3%)	52 (8.6%)	12 (2.0%)	19 (3.1%)	4.4
	環境創造	362 (70.2%)	105 (20.3%)	33 (6.4%)	11 (2.1%)	5 (1.0%)	4.6
	スポーツ健康	1,220 (74.3%)	289 (17.6%)	107 (6.5%)	10 (0.6%)	16 (1.0%)	4.6
	全学集計	6,902 (64.8%)	2,358 (22.1%)	950 (8.9%)	255 (2.4%)	190 (1.8%)	4.5

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

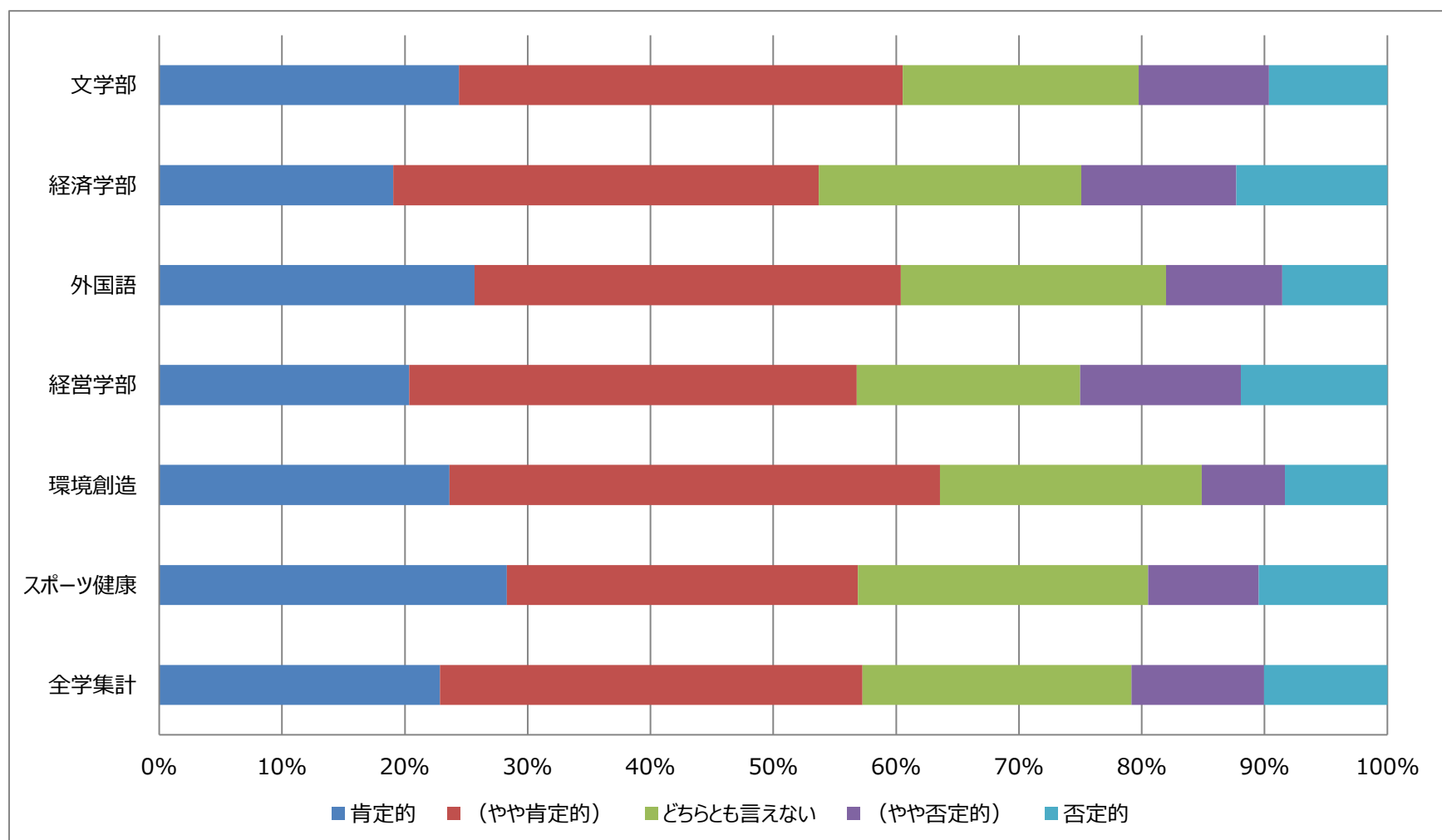
学 年 ： 全学年

I Q2 この授業に関する予習・復習・練習などの事前学習をどのくらい行いましたか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	600 (24.4%)	888 (36.1%)	472 (19.2%)	261 (10.6%)	237 (9.6%)	3.6
	経済学部	237 (19.1%)	431 (34.6%)	266 (21.4%)	157 (12.6%)	153 (12.3%)	3.4
	外国語	417 (25.7%)	564 (34.7%)	351 (21.6%)	154 (9.5%)	139 (8.6%)	3.6
	法学部	296 (16.8%)	595 (33.8%)	470 (26.7%)	228 (13.0%)	169 (9.6%)	3.4
	国際関係	175 (21.7%)	293 (36.3%)	168 (20.8%)	87 (10.8%)	85 (10.5%)	3.5
	経営学部	123 (20.4%)	220 (36.4%)	110 (18.2%)	79 (13.1%)	72 (11.9%)	3.4
	環境創造	122 (23.6%)	206 (39.9%)	110 (21.3%)	35 (6.8%)	43 (8.3%)	3.6
	スポーツ健康	465 (28.3%)	469 (28.6%)	388 (23.6%)	148 (9.0%)	172 (10.5%)	3.6
	全学集計	2,435 (22.9%)	3,666 (34.4%)	2,335 (21.9%)	1,149 (10.8%)	1070 (10.0%)	3.5

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

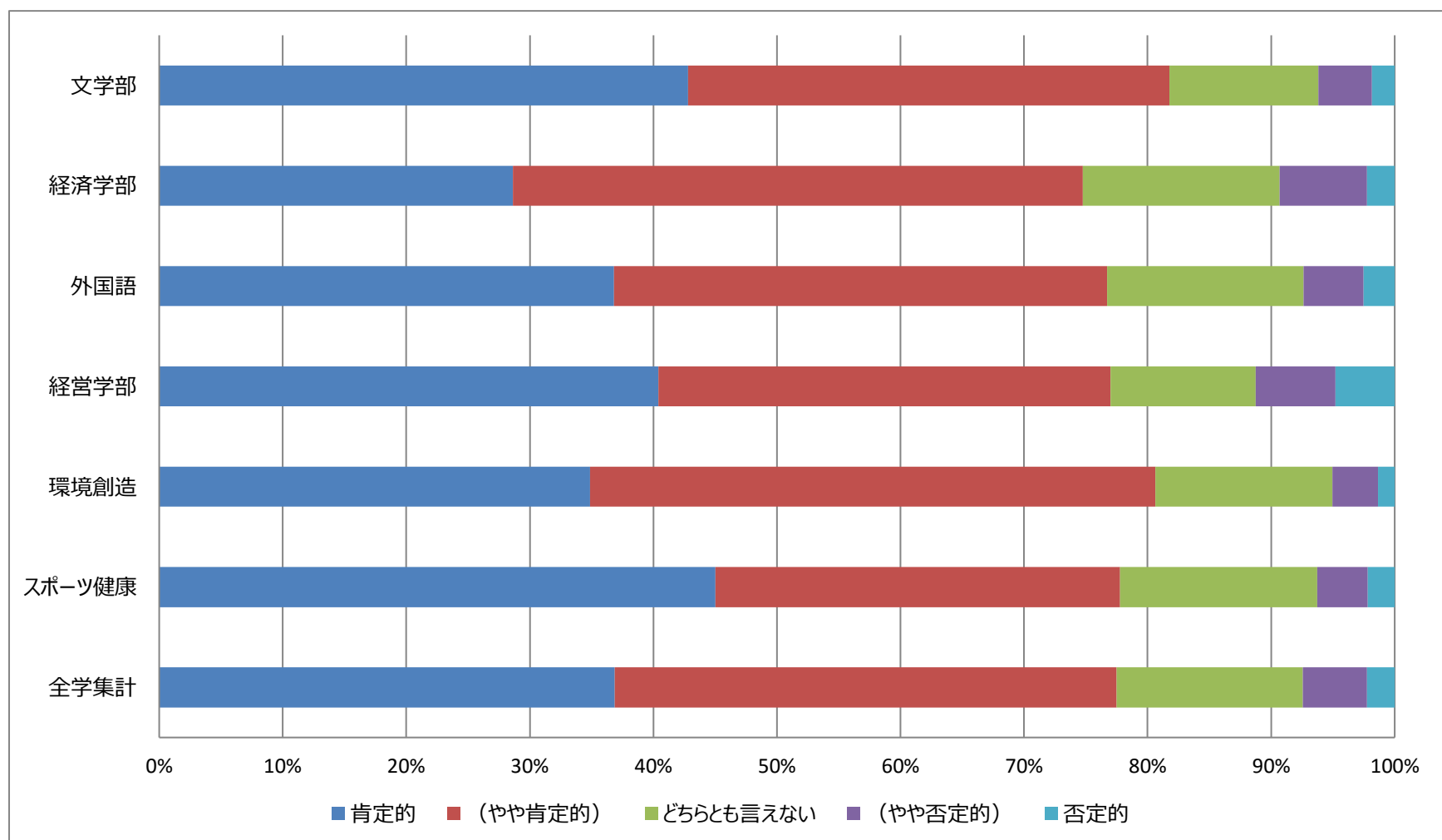
学 年 ： 全学年

I Q3 あなたはこの授業に集中しましたか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,052 (42.8%)	958 (39.0%)	296 (12.0%)	107 (4.4%)	45 (1.8%)	4.2
	経済学部	356 (28.6%)	574 (46.1%)	198 (15.9%)	88 (7.1%)	28 (2.3%)	3.9
	外国語	598 (36.8%)	649 (39.9%)	258 (15.9%)	79 (4.9%)	41 (2.5%)	4.0
	法学部	486 (27.6%)	766 (43.6%)	351 (20.0%)	109 (6.2%)	46 (2.6%)	3.9
	国際関係	275 (34.0%)	384 (47.5%)	95 (11.8%)	48 (5.9%)	6 (0.7%)	4.1
	経営学部	244 (40.4%)	221 (36.6%)	71 (11.8%)	39 (6.5%)	29 (4.8%)	4.0
	環境創造	180 (34.9%)	236 (45.7%)	74 (14.3%)	19 (3.7%)	7 (1.4%)	4.1
	スポーツ健康	739 (45.0%)	538 (32.8%)	262 (16.0%)	67 (4.1%)	36 (2.2%)	4.1
	全学集計	3,930 (36.9%)	4,326 (40.6%)	1,605 (15.1%)	556 (5.2%)	238 (2.2%)	4.0

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

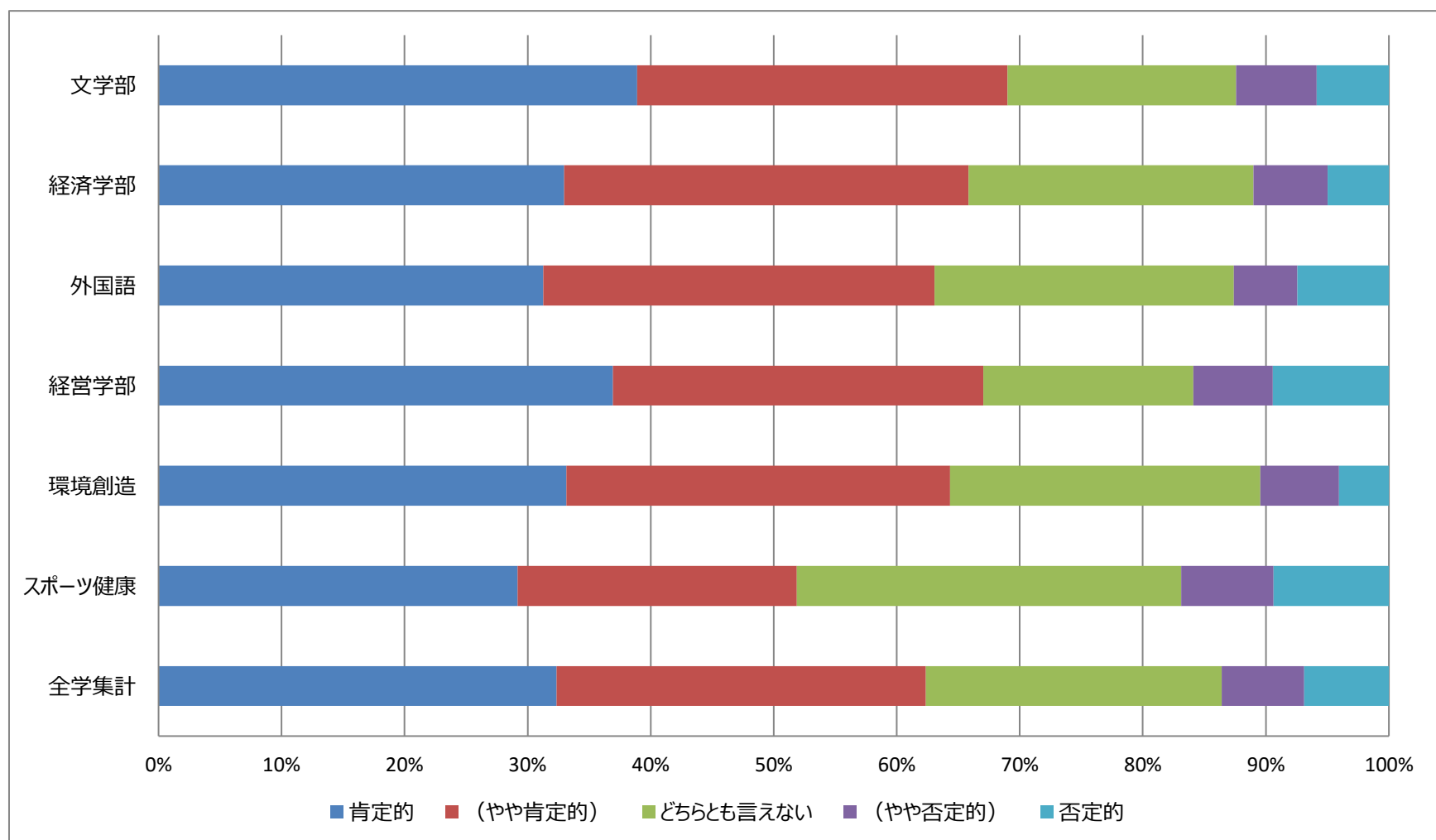
学 年 ： 全学年

I Q4 この授業のシラバスをしっかりと読みましたか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	956 (38.9%)	740 (30.1%)	457 (18.6%)	161 (6.6%)	144 (5.9%)	3.9
	経済学部	410 (33.0%)	409 (32.9%)	288 (23.2%)	75 (6.0%)	62 (5.0%)	3.8
	外国語	508 (31.3%)	517 (31.8%)	395 (24.3%)	84 (5.2%)	121 (7.4%)	3.7
	法学部	392 (22.3%)	552 (31.4%)	516 (29.4%)	159 (9.0%)	139 (7.9%)	3.5
	国際関係	308 (38.1%)	265 (32.8%)	158 (19.6%)	43 (5.3%)	34 (4.2%)	4.0
	経営学部	223 (36.9%)	182 (30.1%)	103 (17.1%)	39 (6.5%)	57 (9.4%)	3.8
	環境創造	171 (33.1%)	161 (31.2%)	130 (25.2%)	33 (6.4%)	21 (4.1%)	3.8
	スポーツ健康	479 (29.2%)	373 (22.7%)	513 (31.2%)	123 (7.5%)	154 (9.4%)	3.5
	全学集計	3,447 (32.4%)	3,199 (30.0%)	2,560 (24.0%)	717 (6.7%)	732 (6.9%)	3.7

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

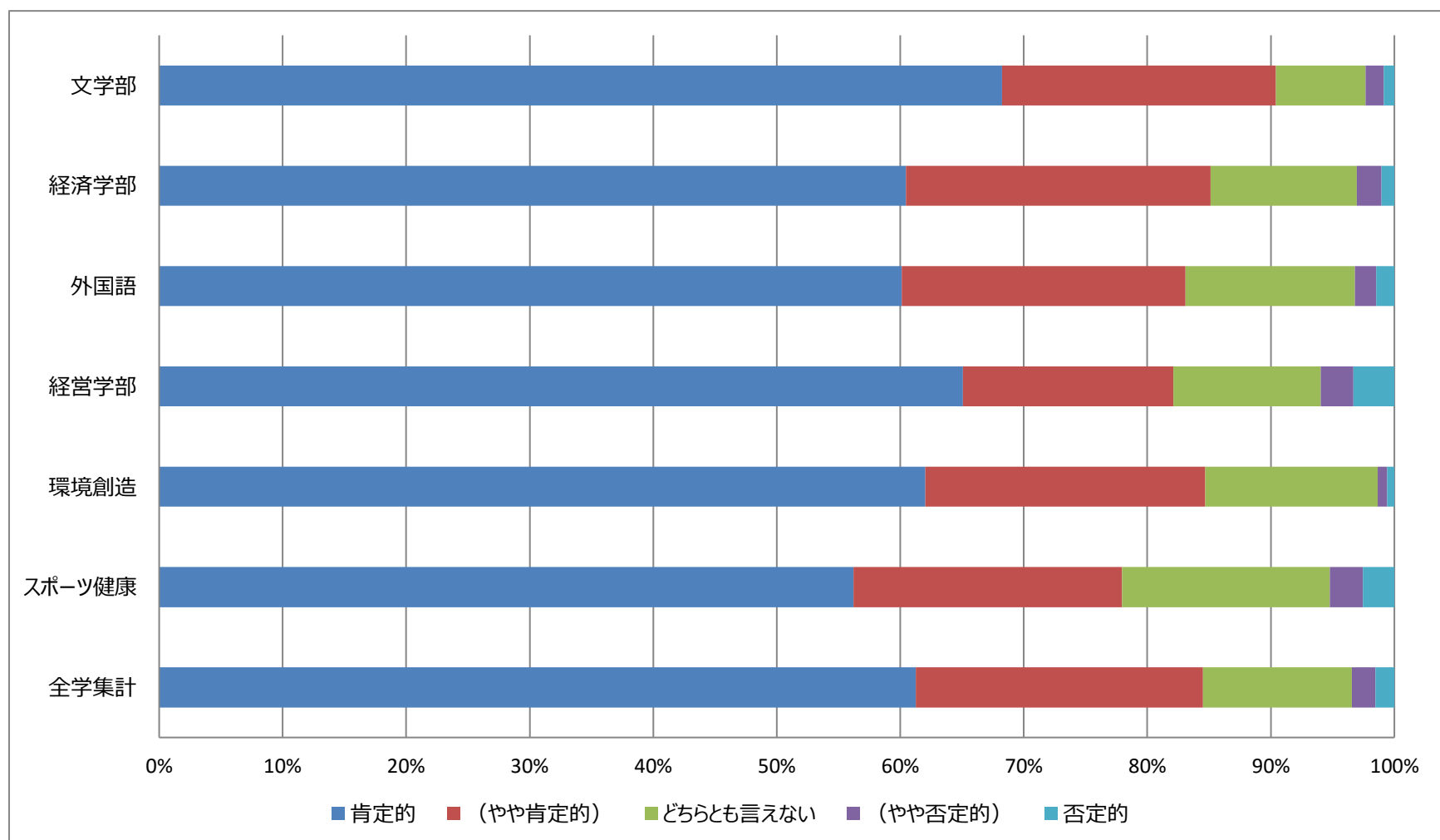
学 年 ： 全学年

I Q5 シラバスにあらかじめ記載されている物、また授業中に持参するように指示された教材を、忘れずに持参することができましたか。 (人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,677 (68.2%)	545 (22.2%)	179 (7.3%)	36 (1.5%)	21 (0.9%)	4.6
	経済学部	752 (60.5%)	307 (24.7%)	147 (11.8%)	25 (2.0%)	13 (1.0%)	4.4
	外国語	977 (60.1%)	373 (23.0%)	223 (13.7%)	28 (1.7%)	24 (1.5%)	4.4
	法学部	1,000 (56.9%)	447 (25.4%)	245 (13.9%)	35 (2.0%)	31 (1.8%)	4.3
	国際関係	486 (60.1%)	227 (28.1%)	72 (8.9%)	14 (1.7%)	9 (1.1%)	4.4
	経営学部	393 (65.1%)	103 (17.1%)	72 (11.9%)	16 (2.6%)	20 (3.3%)	4.4
	環境創造	320 (62.0%)	117 (22.7%)	72 (14.0%)	4 (0.8%)	3 (0.6%)	4.4
	スポーツ健康	923 (56.2%)	357 (21.7%)	276 (16.8%)	44 (2.7%)	42 (2.6%)	4.3
	全学集計	6,528 (61.3%)	2,476 (23.2%)	1,286 (12.1%)	202 (1.9%)	163 (1.5%)	4.4

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

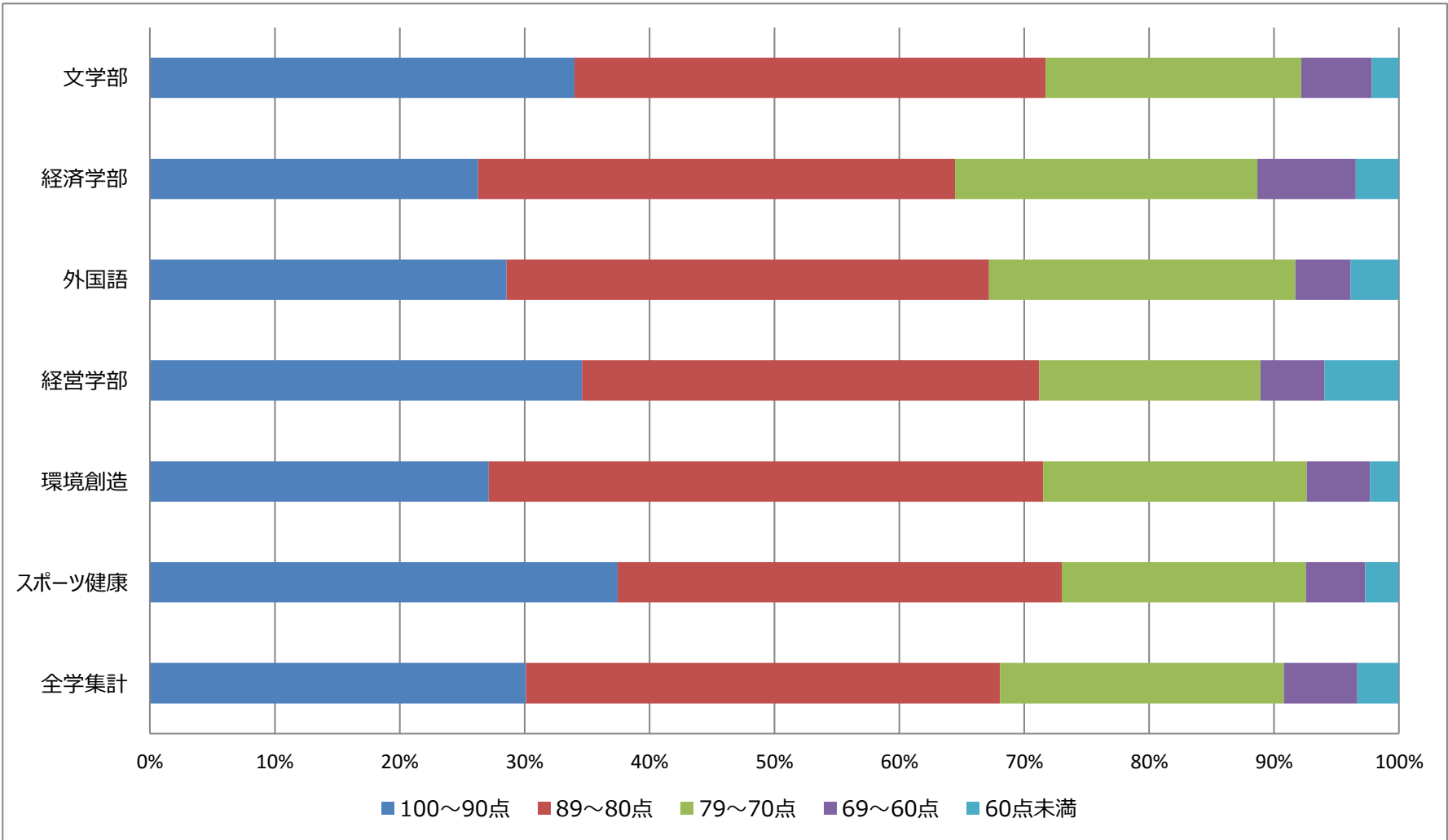
学 年 ： 全学年

I Q6 あなた自身が授業へ真剣に取り組む姿勢について、自己採点するなら何点ですか。(人)

実施年度	区分	100～90点	89～80点	79～70点	69～60点	60点未満	平均
2017年度	文学部	836 (34.0%)	927 (37.7%)	503 (20.5%)	138 (5.6%)	54 (2.2%)	4.0
	経済学部	327 (26.3%)	475 (38.2%)	301 (24.2%)	98 (7.9%)	43 (3.5%)	3.8
	外国語	464 (28.6%)	628 (38.6%)	398 (24.5%)	72 (4.4%)	63 (3.9%)	3.8
	法学部	374 (21.3%)	668 (38.0%)	495 (28.2%)	131 (7.5%)	90 (5.1%)	3.6
	国際関係	244 (30.2%)	311 (38.5%)	189 (23.4%)	53 (6.6%)	11 (1.4%)	3.9
	経営学部	209 (34.6%)	221 (36.6%)	107 (17.7%)	31 (5.1%)	36 (6.0%)	3.9
	環境創造	140 (27.1%)	229 (44.4%)	109 (21.1%)	26 (5.0%)	12 (2.3%)	3.9
	スポーツ健康	615 (37.5%)	584 (35.6%)	321 (19.5%)	78 (4.8%)	44 (2.7%)	4.0
	全学集計	3,209 (30.1%)	4,043 (37.9%)	2,423 (22.7%)	627 (5.9%)	353 (3.3%)	3.9

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

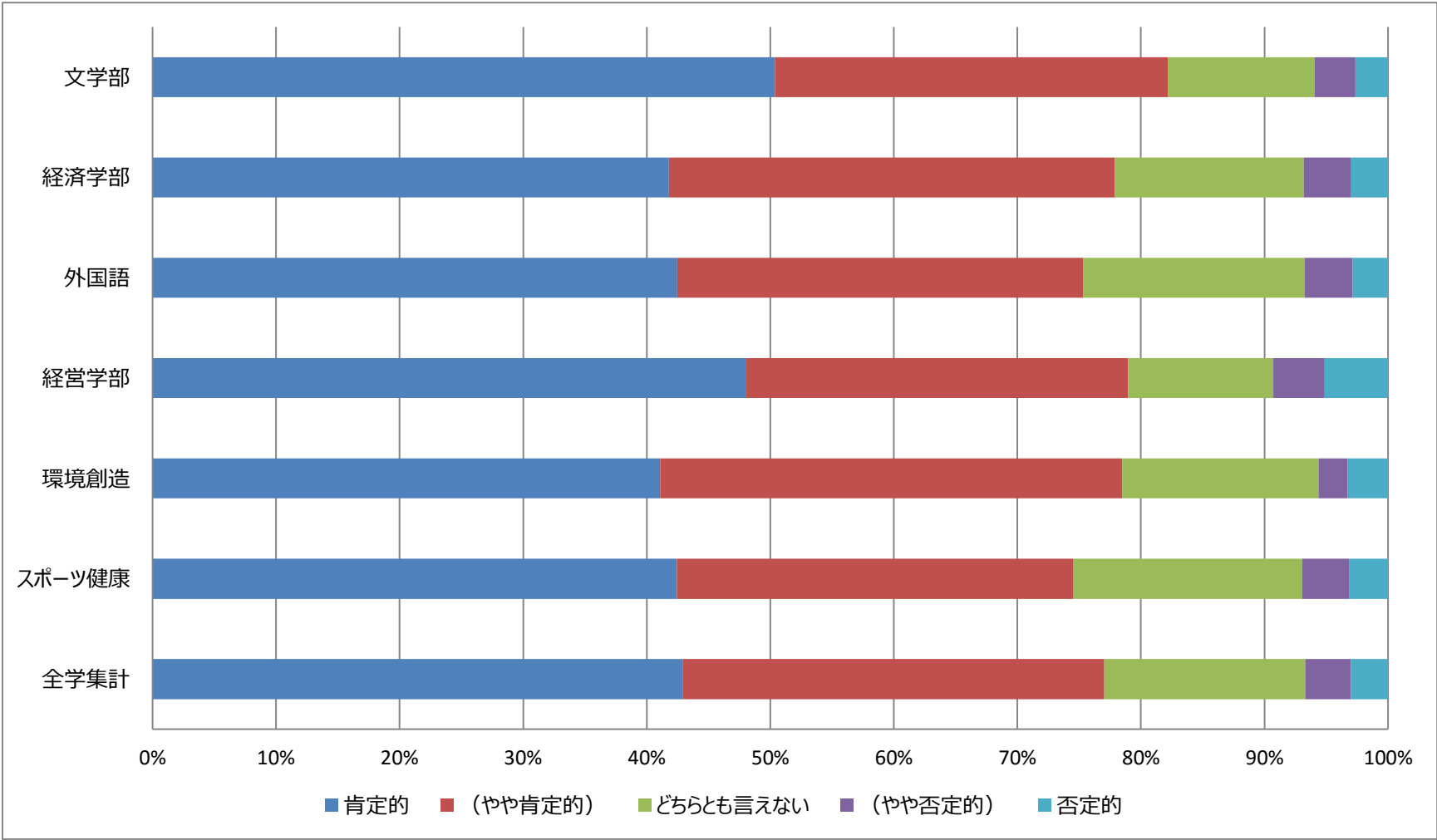
学 年 ： 全学年

I Q7 この授業の目的やねらいは明確でしたか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,238 (50.4%)	782 (31.8%)	292 (11.9%)	81 (3.3%)	65 (2.6%)	4.2
	経済学部	520 (41.8%)	449 (36.1%)	190 (15.3%)	48 (3.9%)	37 (3.0%)	4.1
	外国語	690 (42.5%)	534 (32.9%)	291 (17.9%)	63 (3.9%)	47 (2.9%)	4.1
	法学部	558 (31.7%)	662 (37.7%)	397 (22.6%)	80 (4.6%)	61 (3.5%)	3.9
	国際関係	365 (45.2%)	305 (37.7%)	106 (13.1%)	20 (2.5%)	12 (1.5%)	4.2
	経営学部	290 (48.0%)	187 (31.0%)	71 (11.8%)	25 (4.1%)	31 (5.1%)	4.1
	環境創造	212 (41.1%)	193 (37.4%)	82 (15.9%)	12 (2.3%)	17 (3.3%)	4.1
	スポーツ健康	697 (42.4%)	527 (32.1%)	304 (18.5%)	62 (3.8%)	52 (3.2%)	4.1
	全学集計	4,570 (42.9%)	3,639 (34.2%)	1,733 (16.3%)	391 (3.7%)	322 (3.0%)	4.1

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

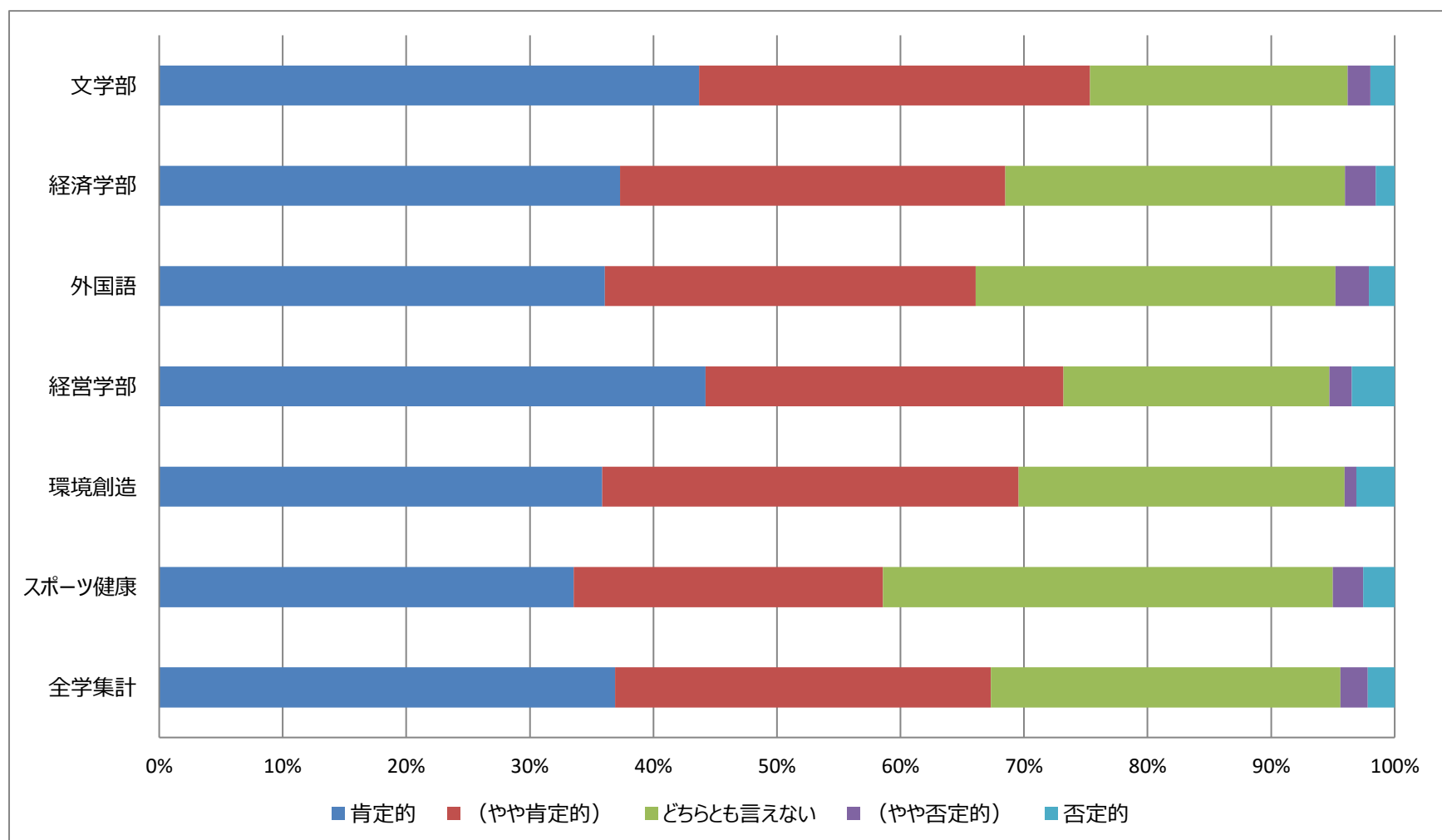
学 年 ： 全学年

I Q8 教員はシラバスを授業に反映させていましたか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,074 (43.7%)	778 (31.7%)	512 (20.8%)	46 (1.9%)	48 (2.0%)	4.1
	経済学部	464 (37.3%)	388 (31.2%)	342 (27.5%)	31 (2.5%)	19 (1.5%)	4.0
	外国語	586 (36.1%)	488 (30.0%)	473 (29.1%)	44 (2.7%)	34 (2.1%)	4.0
	法学部	460 (26.2%)	549 (31.2%)	659 (37.5%)	46 (2.6%)	44 (2.5%)	3.8
	国際関係	346 (42.8%)	275 (34.0%)	165 (20.4%)	13 (1.6%)	9 (1.1%)	4.2
	経営学部	267 (44.2%)	175 (29.0%)	130 (21.5%)	11 (1.8%)	21 (3.5%)	4.1
	環境創造	185 (35.9%)	174 (33.7%)	136 (26.4%)	5 (1.0%)	16 (3.1%)	4.0
	スポーツ健康	551 (33.6%)	411 (25.0%)	598 (36.4%)	40 (2.4%)	42 (2.6%)	3.8
	全学集計	3,933 (36.9%)	3,238 (30.4%)	3,015 (28.3%)	236 (2.2%)	233 (2.2%)	4.0

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

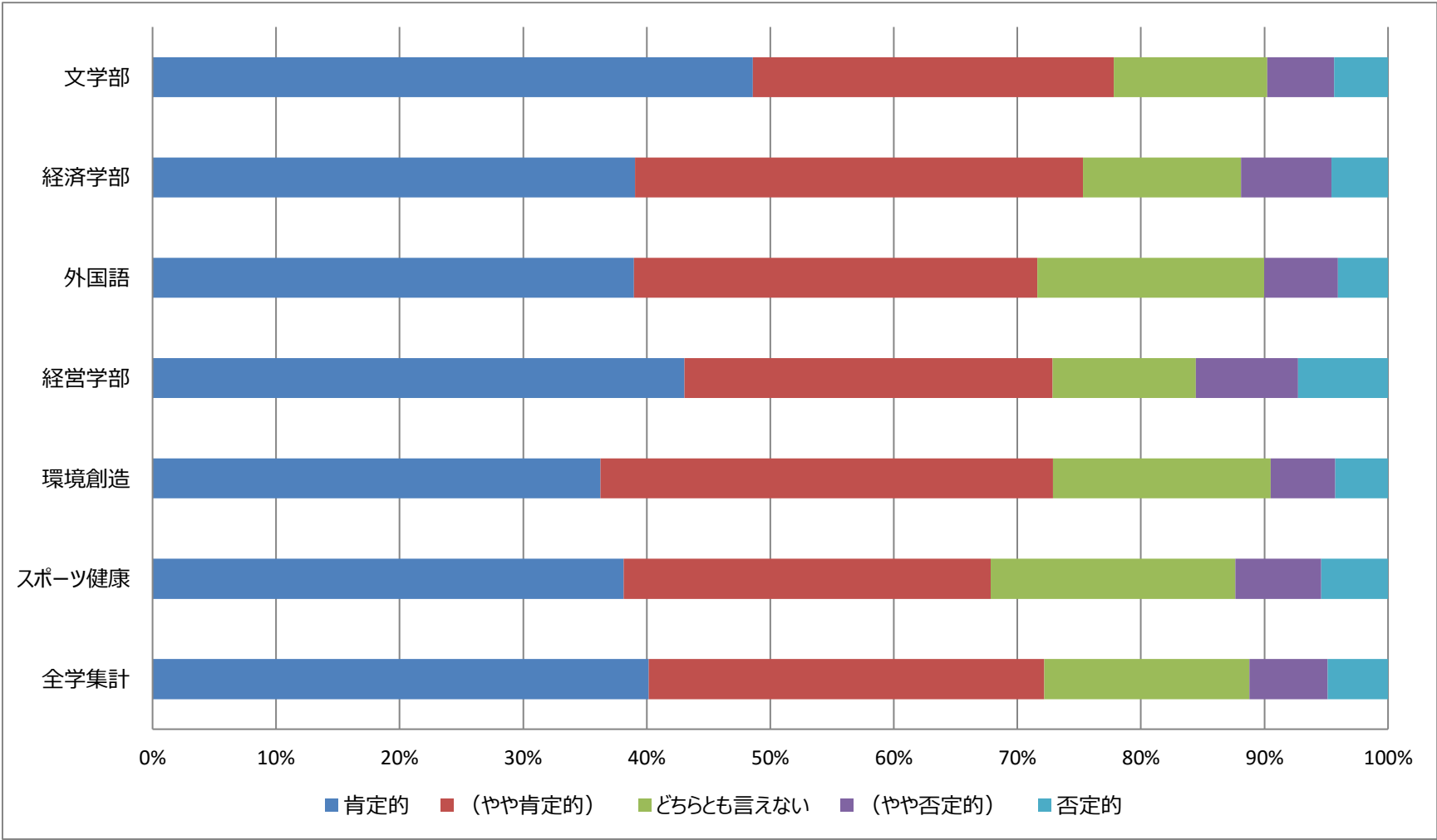
学 年 ： 全学年

I Q9 授業の内容は理解しやすかったですか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,194 (48.6%)	718 (29.2%)	306 (12.4%)	133 (5.4%)	107 (4.4%)	4.1
	経済学部	486 (39.1%)	451 (36.3%)	159 (12.8%)	91 (7.3%)	57 (4.6%)	4.0
	外国語	633 (39.0%)	531 (32.7%)	298 (18.3%)	97 (6.0%)	66 (4.1%)	4.0
	法学部	523 (29.7%)	582 (33.1%)	404 (23.0%)	135 (7.7%)	114 (6.5%)	3.7
	国際関係	369 (45.7%)	274 (33.9%)	115 (14.2%)	29 (3.6%)	21 (2.6%)	4.2
	経営学部	260 (43.0%)	180 (29.8%)	70 (11.6%)	50 (8.3%)	44 (7.3%)	3.9
	環境創造	187 (36.2%)	189 (36.6%)	91 (17.6%)	27 (5.2%)	22 (4.3%)	4.0
	スポーツ健康	626 (38.1%)	488 (29.7%)	325 (19.8%)	114 (6.9%)	89 (5.4%)	3.9
	全学集計	4,278 (40.2%)	3,413 (32.0%)	1,768 (16.6%)	676 (6.3%)	520 (4.9%)	4.0

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

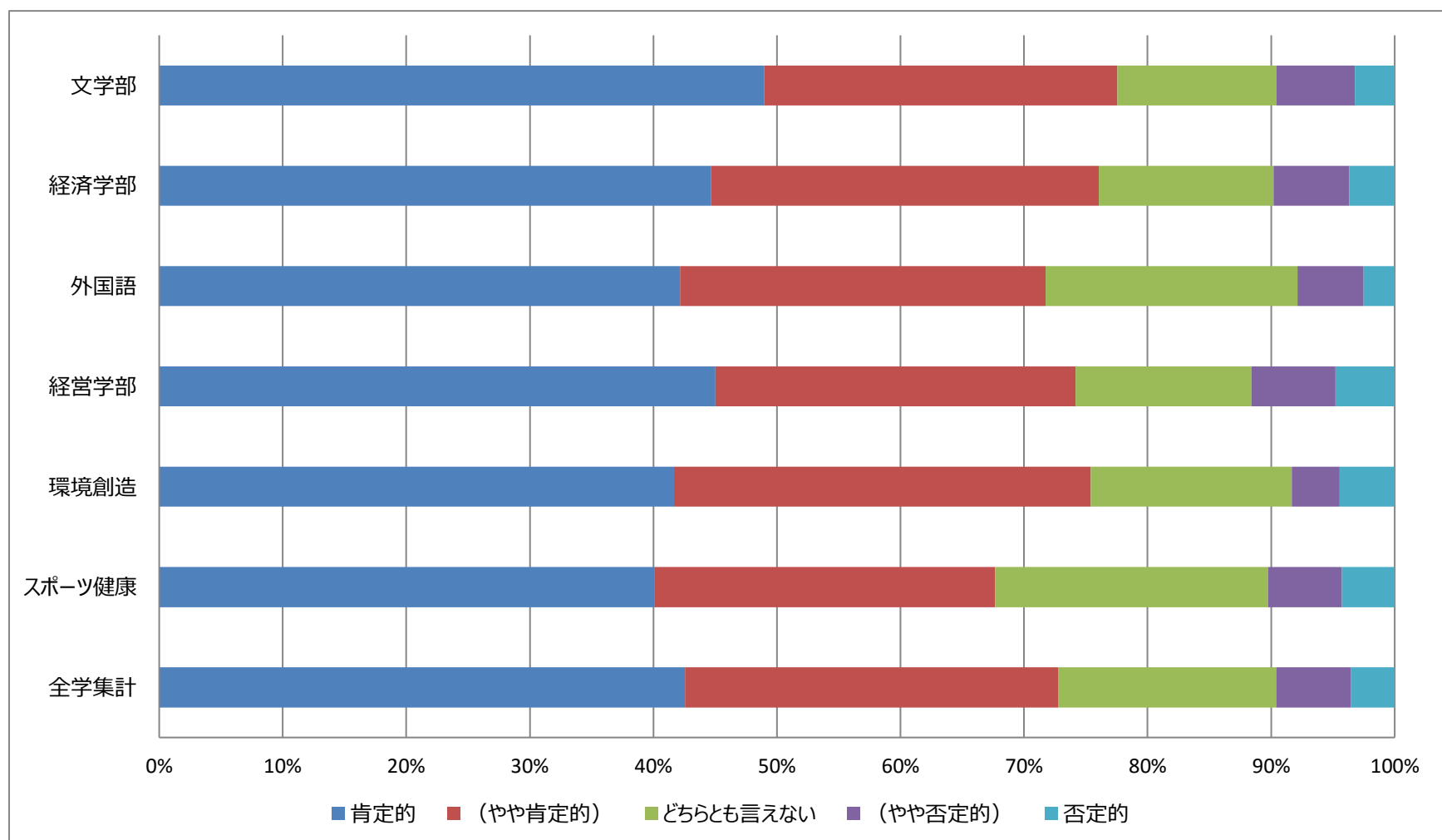
学 年 ： 全学年

Ⅱ Q10 授業進行の速度はちょうど良かったですか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,203 (48.9%)	703 (28.6%)	317 (12.9%)	156 (6.3%)	79 (3.2%)	4.1
	経済学部	556 (44.7%)	390 (31.4%)	176 (14.1%)	76 (6.1%)	46 (3.7%)	4.1
	外国語	685 (42.2%)	481 (29.6%)	331 (20.4%)	87 (5.4%)	41 (2.5%)	4.0
	法学部	568 (32.3%)	580 (33.0%)	409 (23.3%)	127 (7.2%)	74 (4.2%)	3.8
	国際関係	378 (46.8%)	263 (32.5%)	111 (13.7%)	37 (4.6%)	19 (2.4%)	4.2
	経営学部	272 (45.0%)	176 (29.1%)	86 (14.2%)	41 (6.8%)	29 (4.8%)	4.0
	環境創造	215 (41.7%)	174 (33.7%)	84 (16.3%)	20 (3.9%)	23 (4.5%)	4.0
	スポーツ健康	658 (40.1%)	453 (27.6%)	363 (22.1%)	98 (6.0%)	70 (4.3%)	3.9
	全学集計	4,535 (42.6%)	3,220 (30.2%)	1,877 (17.6%)	642 (6.0%)	381 (3.6%)	4.0

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

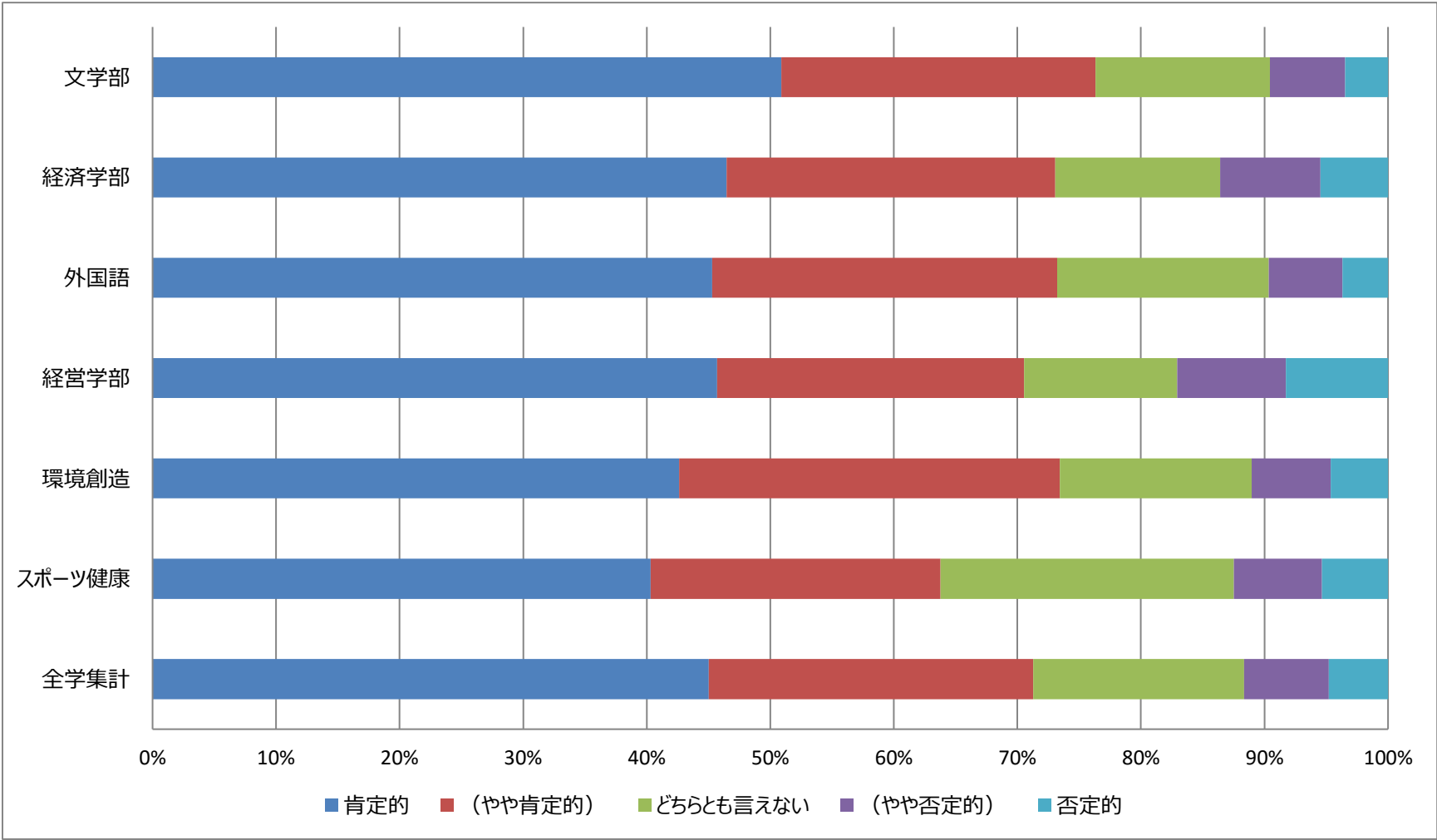
学 年 ： 全学年

Ⅱ Q11 板書の文字やスクリーンの画面は見やすかったですか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,251 (50.9%)	625 (25.4%)	347 (14.1%)	150 (6.1%)	85 (3.5%)	4.1
	経済学部	578 (46.5%)	331 (26.6%)	166 (13.3%)	101 (8.1%)	68 (5.5%)	4.0
	外国語	736 (45.3%)	454 (27.9%)	278 (17.1%)	97 (6.0%)	60 (3.7%)	4.1
	法学部	643 (36.6%)	473 (26.9%)	383 (21.8%)	146 (8.3%)	113 (6.4%)	3.8
	国際関係	432 (53.5%)	220 (27.2%)	99 (12.3%)	34 (4.2%)	23 (2.8%)	4.2
	経営学部	276 (45.7%)	150 (24.8%)	75 (12.4%)	53 (8.8%)	50 (8.3%)	3.9
	環境創造	220 (42.6%)	159 (30.8%)	80 (15.5%)	33 (6.4%)	24 (4.7%)	4.0
	スポーツ健康	662 (40.3%)	385 (23.4%)	390 (23.8%)	117 (7.1%)	88 (5.4%)	3.9
	全学集計	4,798 (45.0%)	2,797 (26.3%)	1,818 (17.1%)	731 (6.9%)	511 (4.8%)	4.0

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

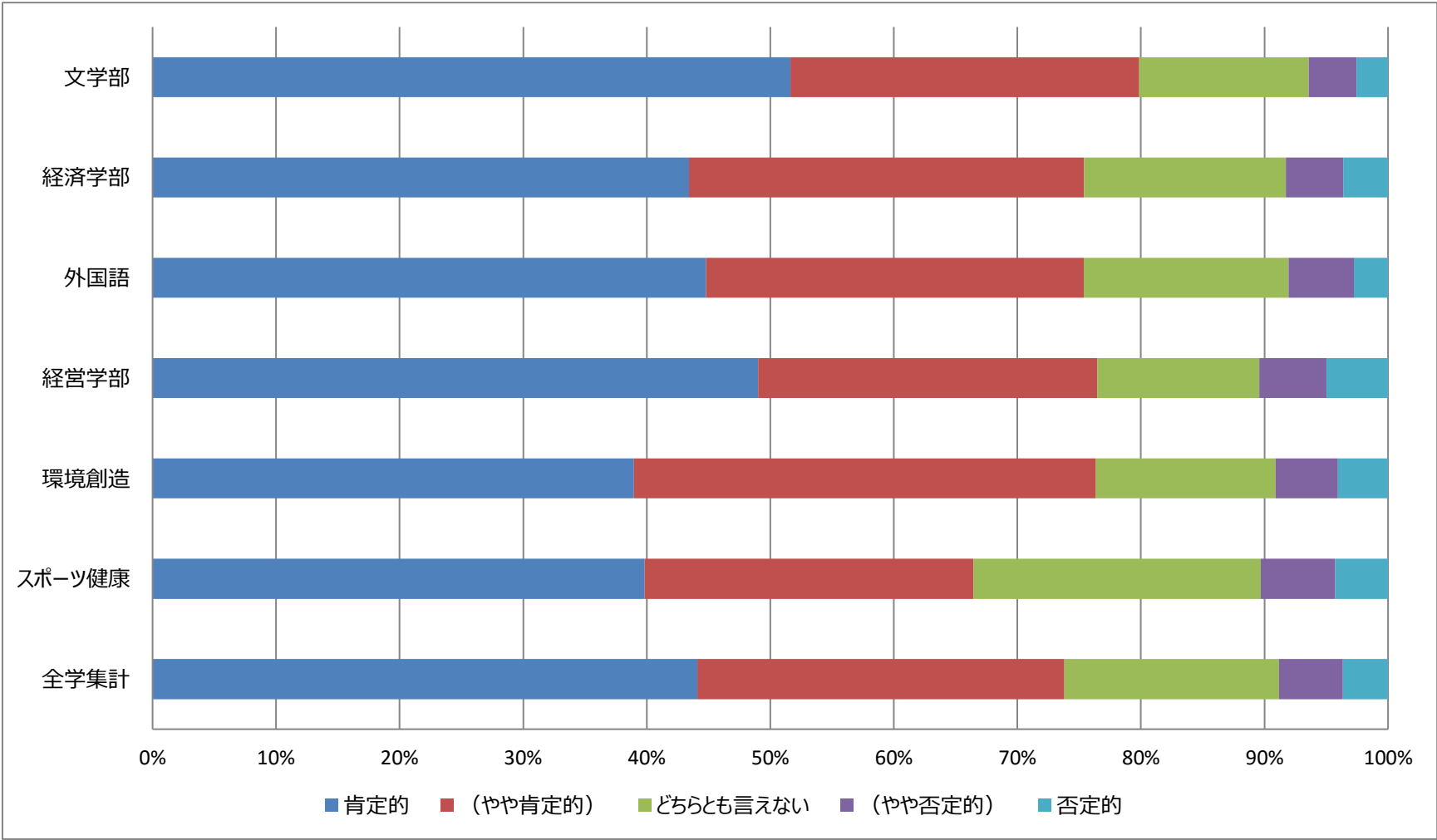
学 年 ： 全学年

Ⅱ Q12 教員の教材はわかりやすかったですか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,269 (51.6%)	694 (28.2%)	337 (13.7%)	95 (3.9%)	63 (2.6%)	4.2
	経済学部	540 (43.4%)	398 (32.0%)	203 (16.3%)	58 (4.7%)	45 (3.6%)	4.1
	外国語	728 (44.8%)	497 (30.6%)	269 (16.6%)	86 (5.3%)	45 (2.8%)	4.1
	法学部	586 (33.3%)	537 (30.5%)	414 (23.5%)	126 (7.2%)	95 (5.4%)	3.8
	国際関係	423 (52.4%)	246 (30.4%)	91 (11.3%)	27 (3.3%)	21 (2.6%)	4.3
	経営学部	296 (49.0%)	166 (27.5%)	79 (13.1%)	33 (5.5%)	30 (5.0%)	4.1
	環境創造	201 (39.0%)	193 (37.4%)	75 (14.5%)	26 (5.0%)	21 (4.1%)	4.0
	スポーツ健康	654 (39.8%)	437 (26.6%)	382 (23.3%)	99 (6.0%)	70 (4.3%)	3.9
	全学集計	4,697 (44.1%)	3,168 (29.7%)	1,850 (17.4%)	550 (5.2%)	390 (3.7%)	4.1

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

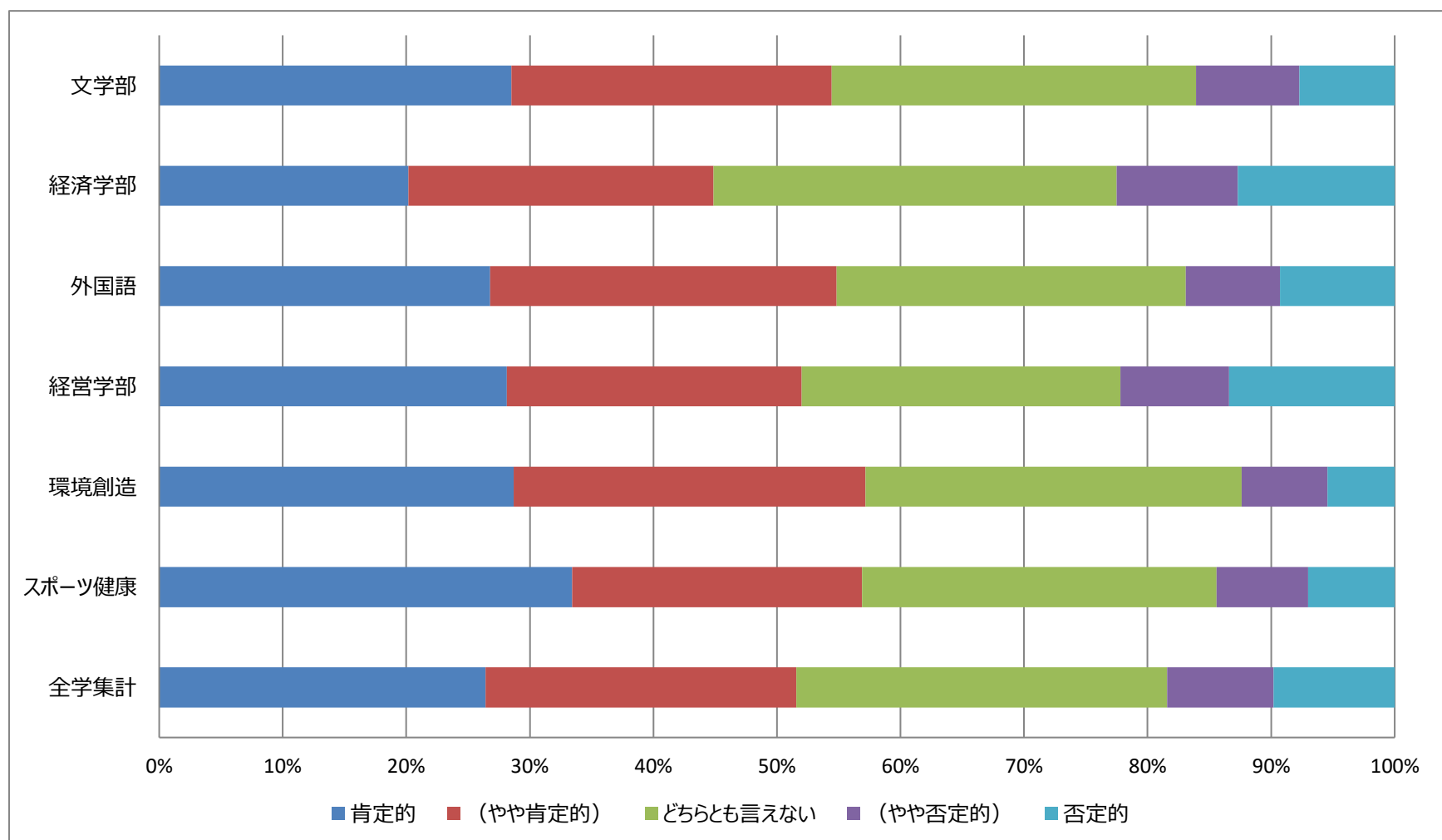
学 年 ： 全学年

Ⅱ Q13 質問、発言など、学生の積極的に参加の機会がありましたか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	701 (28.5%)	637 (25.9%)	725 (29.5%)	205 (8.3%)	190 (7.7%)	3.6
	経済学部	251 (20.2%)	307 (24.7%)	406 (32.6%)	122 (9.8%)	158 (12.7%)	3.3
	外国語	435 (26.8%)	456 (28.1%)	459 (28.2%)	124 (7.6%)	151 (9.3%)	3.6
	法学部	332 (18.9%)	388 (22.1%)	601 (34.2%)	170 (9.7%)	267 (15.2%)	3.2
	国際関係	228 (28.2%)	218 (27.0%)	223 (27.6%)	85 (10.5%)	54 (6.7%)	3.6
	経営学部	170 (28.1%)	144 (23.8%)	156 (25.8%)	53 (8.8%)	81 (13.4%)	3.4
	環境創造	148 (28.7%)	147 (28.5%)	157 (30.4%)	36 (7.0%)	28 (5.4%)	3.7
	スポーツ健康	549 (33.4%)	385 (23.4%)	471 (28.7%)	122 (7.4%)	115 (7.0%)	3.7
	全学集計	2,814 (26.4%)	2,682 (25.2%)	3,198 (30.0%)	917 (8.6%)	1044 (9.8%)	3.5

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

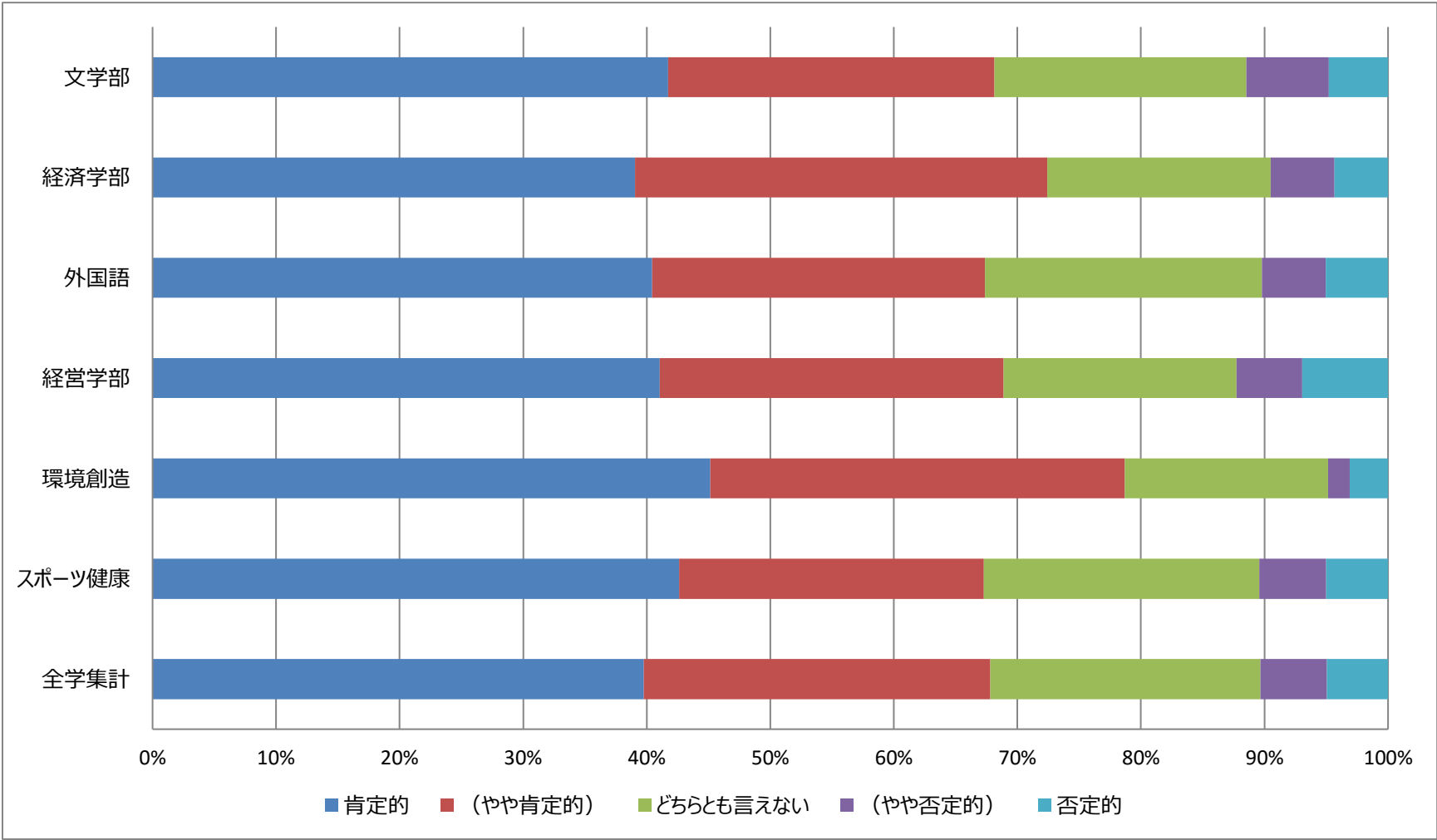
学 年 ： 全学年

Ⅱ Q14 学生の私語や悪い受講態度をなくす工夫を、教員はしていましたか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,026 (41.7%)	649 (26.4%)	501 (20.4%)	164 (6.7%)	118 (4.8%)	3.9
	経済学部	486 (39.1%)	415 (33.4%)	225 (18.1%)	64 (5.1%)	54 (4.3%)	4.0
	外国語	657 (40.4%)	438 (27.0%)	364 (22.4%)	84 (5.2%)	82 (5.0%)	3.9
	法学部	583 (33.2%)	494 (28.1%)	490 (27.9%)	97 (5.5%)	94 (5.3%)	3.8
	国際関係	303 (37.5%)	246 (30.4%)	187 (23.1%)	32 (4.0%)	40 (5.0%)	3.9
	経営学部	248 (41.1%)	168 (27.8%)	114 (18.9%)	32 (5.3%)	42 (7.0%)	3.9
	環境創造	233 (45.2%)	173 (33.5%)	85 (16.5%)	9 (1.7%)	16 (3.1%)	4.2
	スポーツ健康	700 (42.6%)	405 (24.7%)	366 (22.3%)	89 (5.4%)	82 (5.0%)	3.9
	全学集計	4,236 (39.8%)	2,988 (28.0%)	2,332 (21.9%)	571 (5.4%)	528 (5.0%)	3.9

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

学 年 ： 全学年

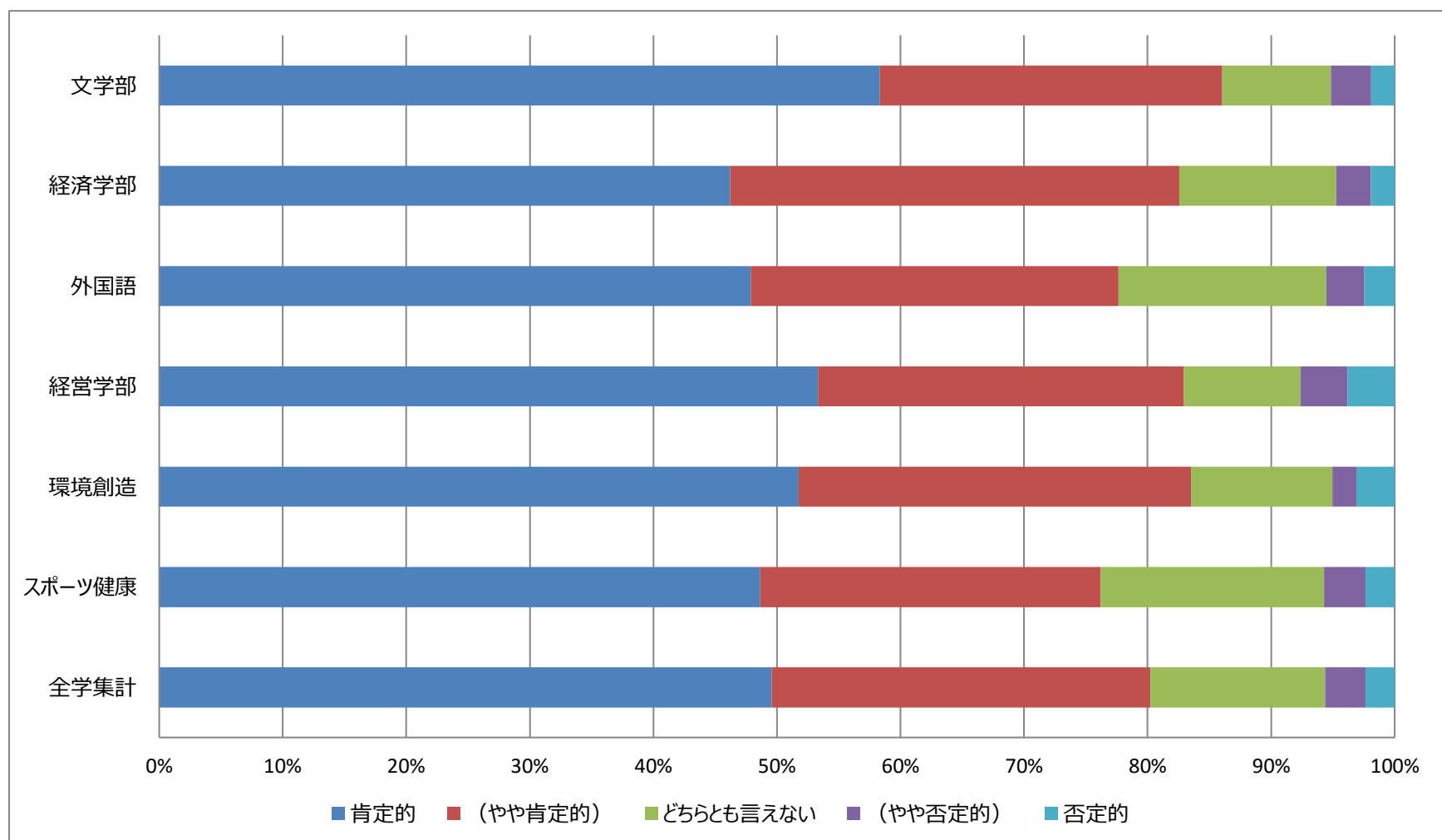
Ⅱ Q15 教員の授業に対する熱意を感じましたか。

(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,434 (58.3%)	681 (27.7%)	216 (8.8%)	80 (3.3%)	47 (1.9%)	4.4
	経済学部	575 (46.2%)	452 (36.3%)	158 (12.7%)	35 (2.8%)	24 (1.9%)	4.2
	外国語	778 (47.9%)	484 (29.8%)	273 (16.8%)	50 (3.1%)	40 (2.5%)	4.2
	法学部	655 (37.3%)	628 (35.7%)	343 (19.5%)	78 (4.4%)	54 (3.1%)	4.0
	国際関係	451 (55.8%)	229 (28.3%)	103 (12.7%)	15 (1.9%)	10 (1.2%)	4.4
	経営学部	322 (53.3%)	179 (29.6%)	57 (9.4%)	23 (3.8%)	23 (3.8%)	4.2
	環境創造	267 (51.7%)	164 (31.8%)	59 (11.4%)	10 (1.9%)	16 (3.1%)	4.3
	スポーツ健康	799 (48.7%)	452 (27.5%)	297 (18.1%)	55 (3.3%)	39 (2.4%)	4.2
	全学集計	5,281 (49.6%)	3,269 (30.7%)	1,506 (14.1%)	346 (3.2%)	253 (2.4%)	4.2

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

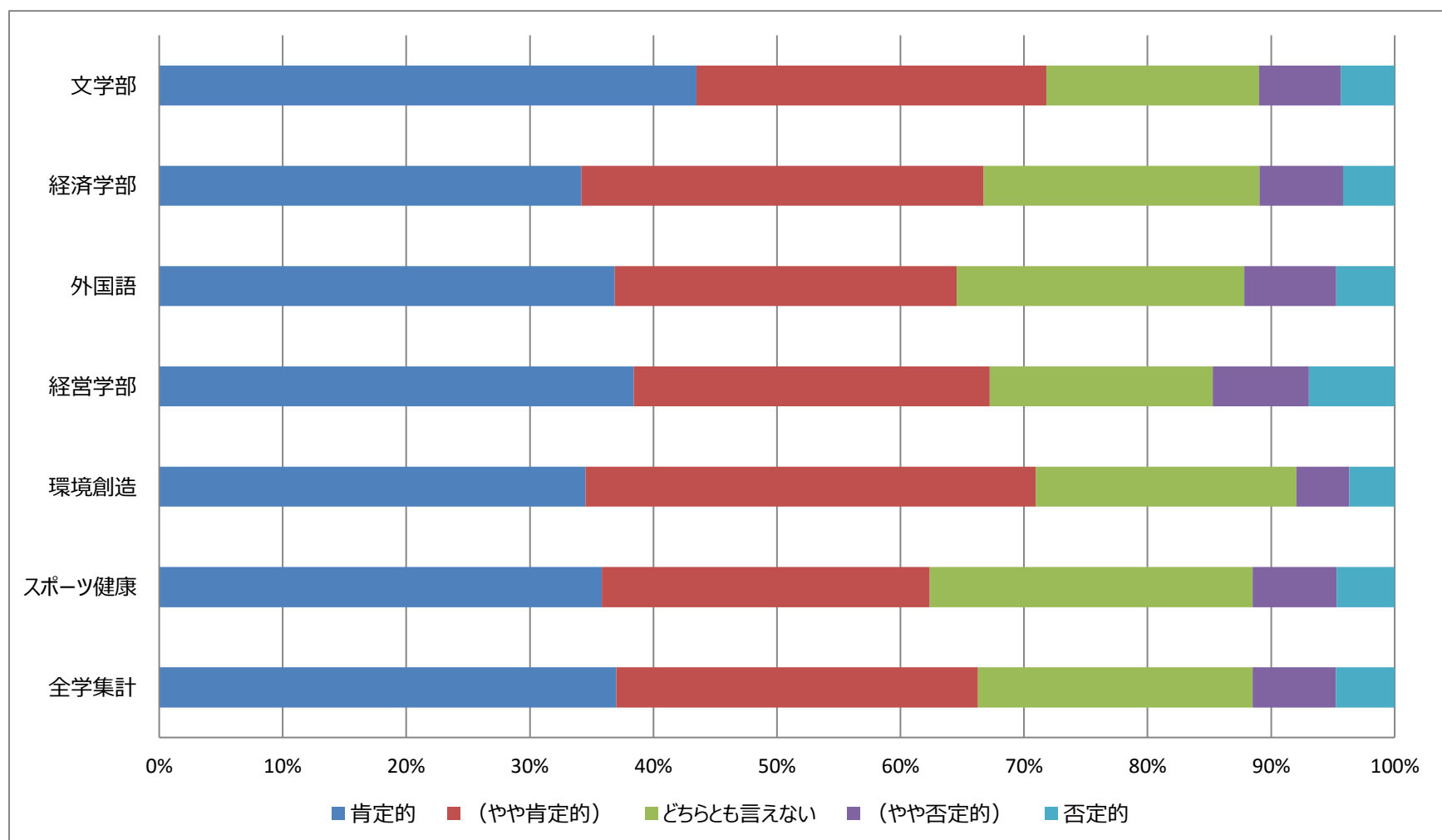
学 年 ： 全学年

Ⅱ Q16 授業を飽きさせない工夫が感じられましたか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,069 (43.5%)	696 (28.3%)	423 (17.2%)	163 (6.6%)	107 (4.4%)	4.0
	経済学部	425 (34.2%)	405 (32.6%)	278 (22.3%)	84 (6.8%)	52 (4.2%)	3.9
	外国語	599 (36.9%)	450 (27.7%)	378 (23.3%)	121 (7.4%)	77 (4.7%)	3.8
	法学部	507 (28.8%)	549 (31.2%)	467 (26.6%)	125 (7.1%)	110 (6.3%)	3.7
	国際関係	344 (42.6%)	221 (27.4%)	176 (21.8%)	42 (5.2%)	25 (3.1%)	4.0
	経営学部	232 (38.4%)	174 (28.8%)	109 (18.0%)	47 (7.8%)	42 (7.0%)	3.8
	環境創造	178 (34.5%)	188 (36.4%)	109 (21.1%)	22 (4.3%)	19 (3.7%)	3.9
	スポーツ健康	588 (35.8%)	436 (26.6%)	429 (26.1%)	112 (6.8%)	77 (4.7%)	3.8
	全学集計	3,942 (37.0%)	3,119 (29.3%)	2,369 (22.2%)	716 (6.7%)	509 (4.8%)	3.9

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

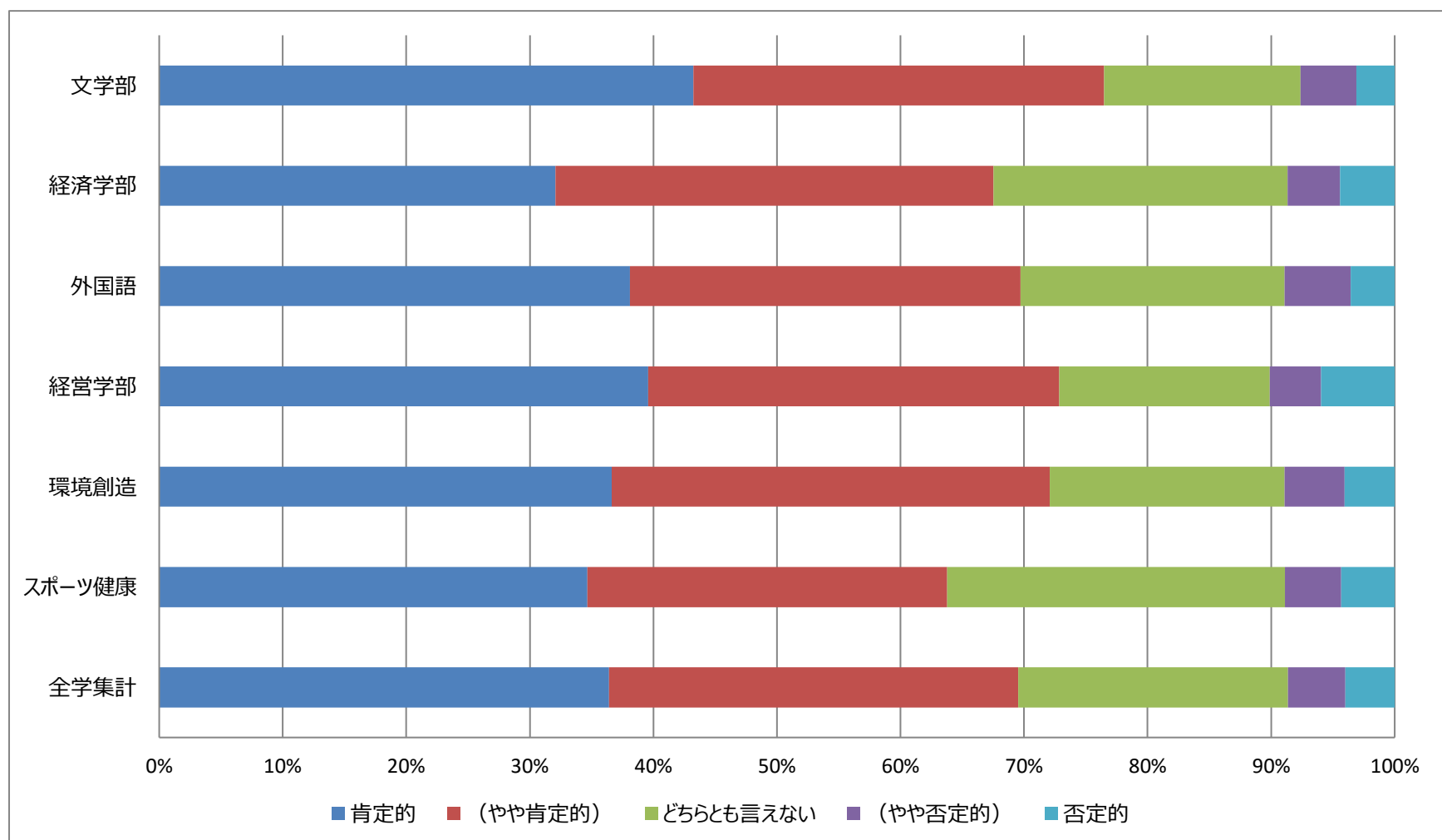
学 年 ： 全学年

Ⅱ Q17 この授業をととして、自分にとって新しい考え方や発想が身につきましたか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,063 (43.2%)	817 (33.2%)	391 (15.9%)	111 (4.5%)	76 (3.1%)	4.1
	経済学部	399 (32.1%)	441 (35.5%)	296 (23.8%)	53 (4.3%)	55 (4.4%)	3.9
	外国語	619 (38.1%)	514 (31.6%)	347 (21.4%)	87 (5.4%)	58 (3.6%)	4.0
	法学部	467 (26.6%)	611 (34.8%)	497 (28.3%)	88 (5.0%)	95 (5.4%)	3.7
	国際関係	335 (41.5%)	282 (34.9%)	147 (18.2%)	30 (3.7%)	14 (1.7%)	4.1
	経営学部	239 (39.6%)	201 (33.3%)	103 (17.1%)	25 (4.1%)	36 (6.0%)	4.0
	環境創造	189 (36.6%)	183 (35.5%)	98 (19.0%)	25 (4.8%)	21 (4.1%)	4.0
	スポーツ健康	569 (34.7%)	478 (29.1%)	449 (27.3%)	75 (4.6%)	71 (4.3%)	3.9
	全学集計	3,880 (36.4%)	3,527 (33.1%)	2,328 (21.8%)	494 (4.6%)	426 (4.0%)	3.9

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

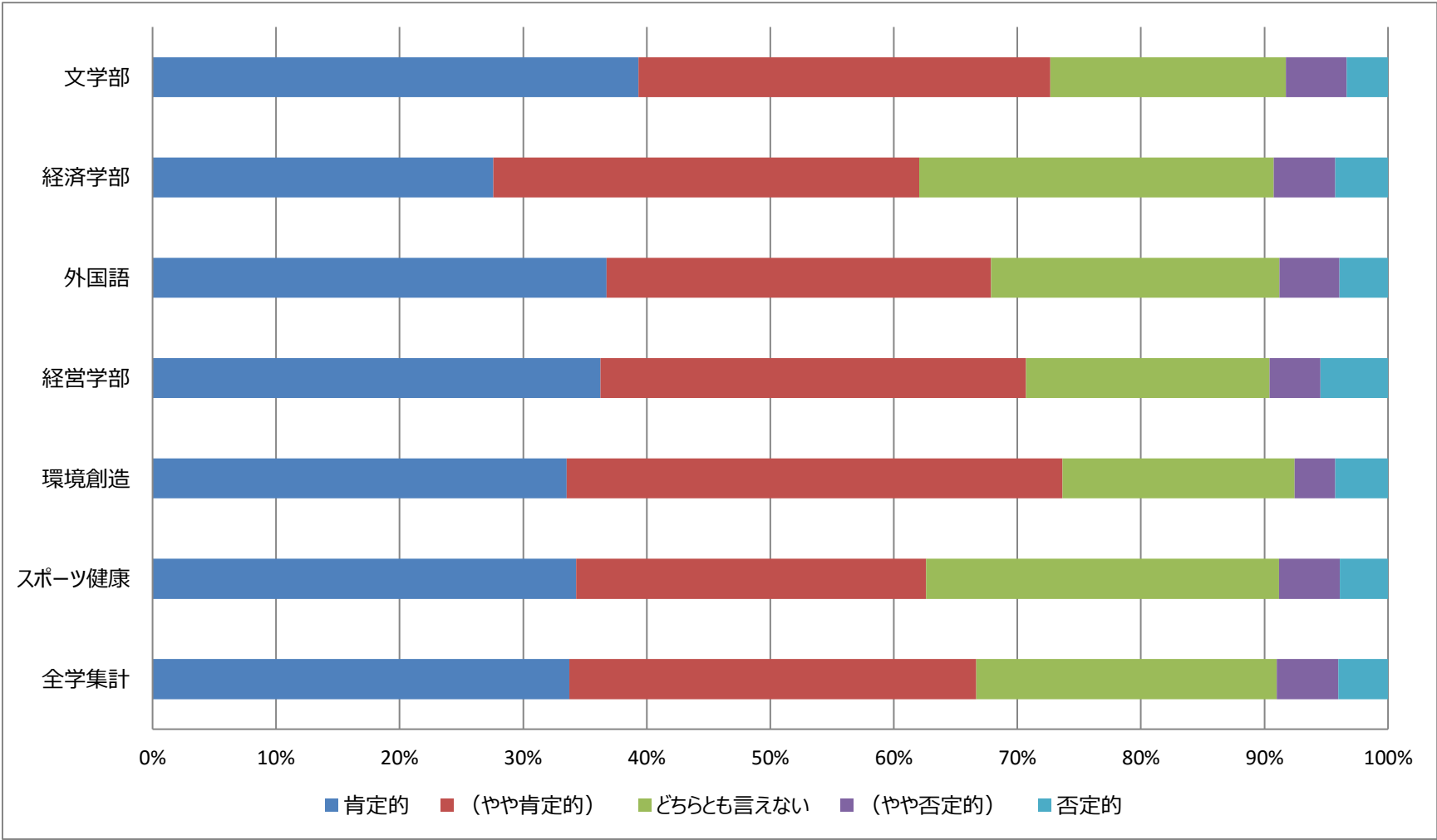
学 年 ： 全学年

Ⅱ Q18 この授業で教わったことの中で面白い、興味深いと感じたことはありましたか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	967 (39.3%)	819 (33.3%)	469 (19.1%)	121 (4.9%)	82 (3.3%)	4.0
	経済学部	343 (27.6%)	429 (34.5%)	357 (28.7%)	62 (5.0%)	53 (4.3%)	3.8
	外国語	597 (36.7%)	506 (31.1%)	379 (23.3%)	79 (4.9%)	64 (3.9%)	3.9
	法学部	421 (23.9%)	603 (34.3%)	529 (30.1%)	109 (6.2%)	96 (5.5%)	3.7
	国際関係	312 (38.6%)	273 (33.8%)	170 (21.0%)	37 (4.6%)	16 (2.0%)	4.0
	経営学部	219 (36.3%)	208 (34.4%)	119 (19.7%)	25 (4.1%)	33 (5.5%)	3.9
	環境創造	173 (33.5%)	207 (40.1%)	97 (18.8%)	17 (3.3%)	22 (4.3%)	4.0
	スポーツ健康	563 (34.3%)	465 (28.3%)	469 (28.6%)	81 (4.9%)	64 (3.9%)	3.8
	全学集計	3,595 (33.7%)	3,510 (32.9%)	2,589 (24.3%)	531 (5.0%)	430 (4.0%)	3.9

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

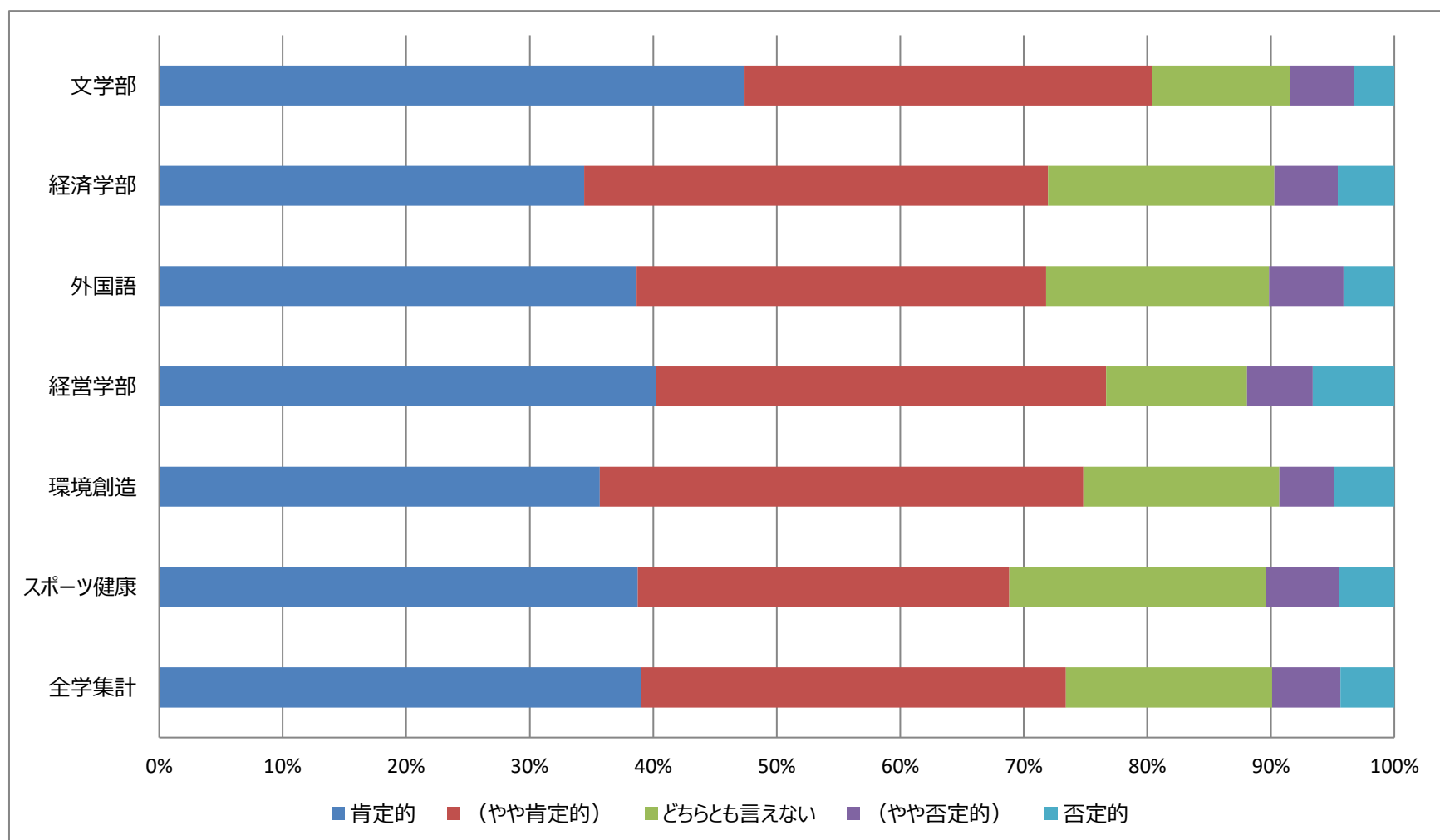
学 年 ： 全学年

Ⅱ Q19 この授業をととして、自分で調べ、考える姿勢が身につきましたか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,163 (47.3%)	813 (33.1%)	274 (11.1%)	127 (5.2%)	81 (3.3%)	4.2
	経済学部	428 (34.4%)	467 (37.5%)	228 (18.3%)	64 (5.1%)	57 (4.6%)	3.9
	外国語	628 (38.6%)	539 (33.2%)	293 (18.0%)	98 (6.0%)	67 (4.1%)	4.0
	法学部	523 (29.7%)	633 (36.0%)	396 (22.5%)	103 (5.9%)	103 (5.9%)	3.8
	国際関係	351 (43.4%)	298 (36.9%)	97 (12.0%)	42 (5.2%)	20 (2.5%)	4.1
	経営学部	243 (40.2%)	220 (36.4%)	69 (11.4%)	32 (5.3%)	40 (6.6%)	4.0
	環境創造	184 (35.7%)	202 (39.1%)	82 (15.9%)	23 (4.5%)	25 (4.8%)	4.0
	スポーツ健康	636 (38.7%)	494 (30.1%)	341 (20.8%)	98 (6.0%)	73 (4.4%)	3.9
	全学集計	4,156 (39.0%)	3,666 (34.4%)	1,780 (16.7%)	587 (5.5%)	466 (4.4%)	4.0

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部別【項目別集計】

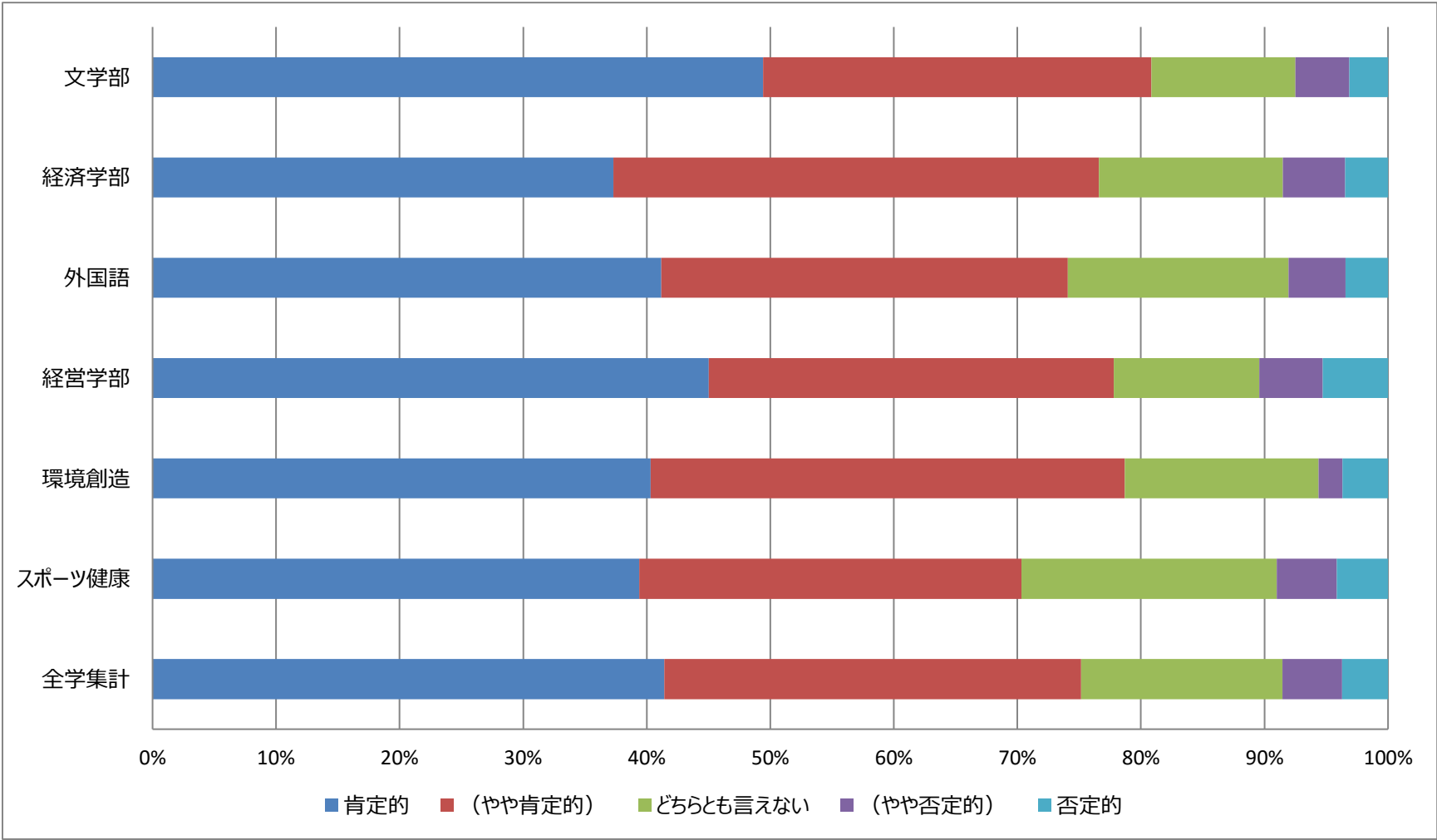
学 年 ： 全学年

Ⅲ Q20 この授業は総合的にみて、満足できましたか。(人)

実施年度	区分	肯定的	(やや肯定的)	どちらとも言えない	(やや否定的)	否定的	平均
2017年度	文学部	1,215 (49.4%)	772 (31.4%)	287 (11.7%)	107 (4.4%)	77 (3.1%)	4.2
	経済学部	464 (37.3%)	489 (39.3%)	185 (14.9%)	63 (5.1%)	43 (3.5%)	4.0
	外国語	669 (41.2%)	535 (32.9%)	290 (17.8%)	75 (4.6%)	56 (3.4%)	4.0
	法学部	563 (32.0%)	623 (35.4%)	379 (21.6%)	107 (6.1%)	86 (4.9%)	3.8
	国際関係	375 (46.4%)	273 (33.8%)	105 (13.0%)	39 (4.8%)	16 (2.0%)	4.2
	経営学部	272 (45.0%)	198 (32.8%)	71 (11.8%)	31 (5.1%)	32 (5.3%)	4.1
	環境創造	208 (40.3%)	198 (38.4%)	81 (15.7%)	10 (1.9%)	19 (3.7%)	4.1
	スポーツ健康	647 (39.4%)	508 (30.9%)	339 (20.6%)	80 (4.9%)	68 (4.1%)	4.0
	全学集計	4,413 (41.4%)	3,596 (33.7%)	1,737 (16.3%)	512 (4.8%)	397 (3.7%)	4.0

< 評価帯グラフ >

2017年度



D. 学年別集計
(学部・学科別集計)

学部学科別【学年別】

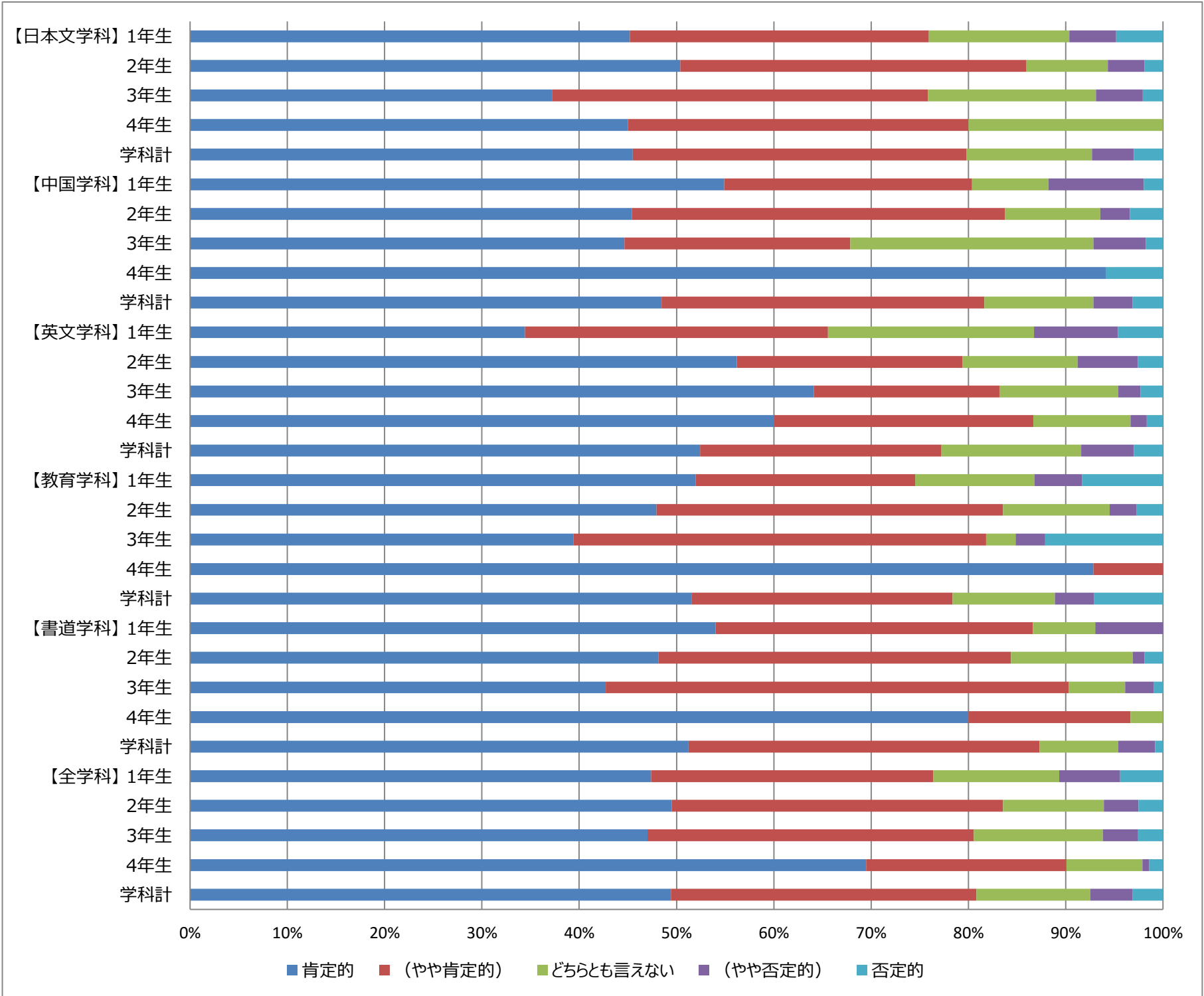
学 部 ： 文学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度	日本文学科	1年生	122 （45.2%）	83 （30.7%）	39 （14.4%）	13 （4.8%）	13 （4.8%）	4.1
		2年生	133 （50.4%）	94 （35.6%）	22 （8.3%）	10 （3.8%）	5 （1.9%）	4.3
		3年生	54 （37.2%）	56 （38.6%）	25 （17.2%）	7 （4.8%）	3 （2.1%）	4.0
		4年生	9 （45.0%）	7 （35.0%）	4 （20.0%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	4.3
		学科計	318 （45.5%）	240 （34.3%）	90 （12.9%）	30 （4.3%）	21 （3.0%）	4.2
	中国学科	1年生	28 （54.9%）	13 （25.5%）	4 （7.8%）	5 （9.8%）	1 （2.0%）	4.2
		2年生	134 （45.4%）	113 （38.3%）	29 （9.8%）	9 （3.1%）	10 （3.4%）	4.2
		3年生	25 （44.6%）	13 （23.2%）	14 （25.0%）	3 （5.4%）	1 （1.8%）	4.0
		4年生	16 （94.1%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	1 （5.9%）	4.8
		学科計	203 （48.4%）	139 （33.2%）	47 （11.2%）	17 （4.1%）	13 （3.1%）	4.2
	英文学科	1年生	52 （34.4%）	47 （31.1%）	32 （21.2%）	13 （8.6%）	7 （4.6%）	3.8
		2年生	109 （56.2%）	45 （23.2%）	23 （11.9%）	12 （6.2%）	5 （2.6%）	4.2
		3年生	84 （64.1%）	25 （19.1%）	16 （12.2%）	3 （2.3%）	3 （2.3%）	4.4
		4年生	36 （60.0%）	16 （26.7%）	6 （10.0%）	1 （1.7%）	1 （1.7%）	4.4
		学科計	281 （52.4%）	133 （24.8%）	77 （14.4%）	29 （5.4%）	16 （3.0%）	4.2
	教育学科	1年生	106 （52.0%）	46 （22.5%）	25 （12.3%）	10 （4.9%）	17 （8.3%）	4.0
		2年生	35 （47.9%）	26 （35.6%）	8 （11.0%）	2 （2.7%）	2 （2.7%）	4.2
		3年生	13 （39.4%）	14 （42.4%）	1 （3.0%）	1 （3.0%）	4 （12.1%）	3.9
		4年生	13 （92.9%）	1 （7.1%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	4.9
		学科計	167 （51.5%）	87 （26.9%）	34 （10.5%）	13 （4.0%）	23 （7.1%）	4.1
	書道学科	1年生	101 （54.0%）	61 （32.6%）	12 （6.4%）	13 （7.0%）	0 （0.0%）	4.3
		2年生	77 （48.1%）	58 （36.3%）	20 （12.5%）	2 （1.3%）	3 （1.9%）	4.3
		3年生	44 （42.7%）	49 （47.6%）	6 （5.8%）	3 （2.9%）	1 （1.0%）	4.3
		4年生	24 （80.0%）	5 （16.7%）	1 （3.3%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	4.8
		学科計	246 （51.3%）	173 （36.0%）	39 （8.1%）	18 （3.8%）	4 （0.8%）	4.3
	全学科	1年生	409 （47.4%）	250 （29.0%）	112 （13.0%）	54 （6.3%）	38 （4.4%）	4.1
		2年生	488 （49.5%）	336 （34.1%）	102 （10.3%）	35 （3.5%）	25 （2.5%）	4.2
		3年生	220 （47.0%）	157 （33.5%）	62 （13.2%）	17 （3.6%）	12 （2.6%）	4.2
		4年生	98 （69.5%）	29 （20.6%）	11 （7.8%）	1 （0.7%）	2 （1.4%）	4.6
		学科計	1,215 （49.4%）	772 （31.4%）	287 （11.7%）	107 （4.4%）	77 （3.1%）	4.2

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部学科別【学年別】

学 部 ： 経済学部

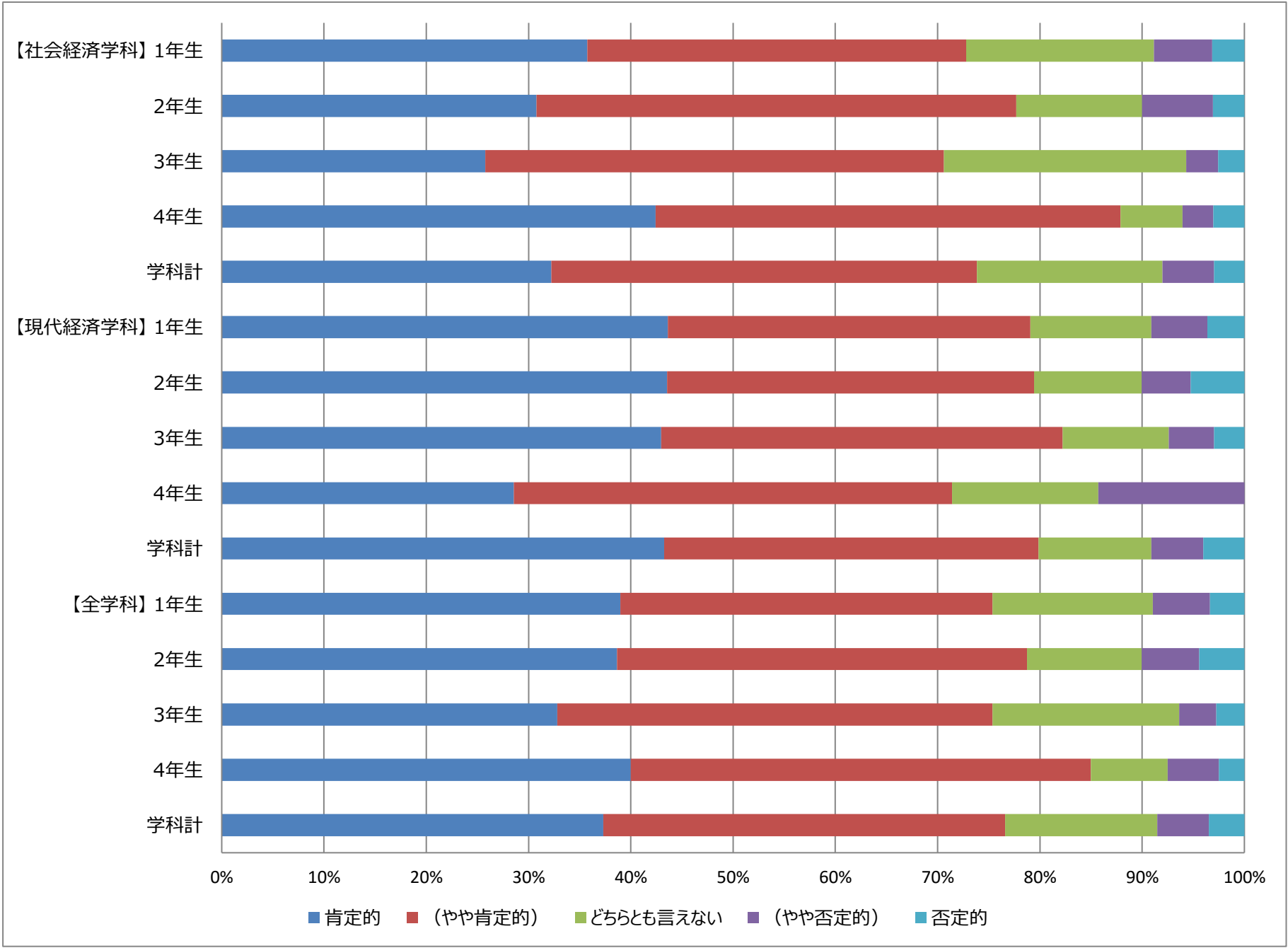
総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度	社会経済学科	1年生	113 （35.8%）	117 （37.0%）	58 （18.4%）	18 （5.7%）	10 （3.2%）	4.0
		2年生	40 （30.8%）	61 （46.9%）	16 （12.3%）	9 （6.9%）	4 （3.1%）	4.0
		3年生	50 （25.8%）	87 （44.8%）	46 （23.7%）	6 （3.1%）	5 （2.6%）	3.9
		4年生	14 （42.4%）	15 （45.5%）	2 （6.1%）	1 （3.0%）	1 （3.0%）	4.2
		学科計	217 （32.2%）	280 （41.6%）	122 （18.1%）	34 （5.1%）	20 （3.0%）	4.0
	現代経済学科	1年生	96 （43.6%）	78 （35.5%）	26 （11.8%）	12 （5.5%）	8 （3.6%）	4.1
		2年生	91 （43.5%）	75 （35.9%）	22 （10.5%）	10 （4.8%）	11 （5.3%）	4.1
		3年生	58 （43.0%）	53 （39.3%）	14 （10.4%）	6 （4.4%）	4 （3.0%）	4.1
		4年生	2 （28.6%）	3 （42.9%）	1 （14.3%）	1 （14.3%）	0 （0.0%）	3.9
		学科計	247 （43.3%）	209 （36.6%）	63 （11.0%）	29 （5.1%）	23 （4.0%）	4.1
	全学科	1年生	209 （39.0%）	195 （36.4%）	84 （15.7%）	30 （5.6%）	18 （3.4%）	4.0
		2年生	131 （38.6%）	136 （40.1%）	38 （11.2%）	19 （5.6%）	15 （4.4%）	4.0
		3年生	108 （32.8%）	140 （42.6%）	60 （18.2%）	12 （3.6%）	9 （2.7%）	4.0
		4年生	16 （40.0%）	18 （45.0%）	3 （7.5%）	2 （5.0%）	1 （2.5%）	4.2
		学科計	464 （37.3%）	489 （39.3%）	185 （14.9%）	63 （5.1%）	43 （3.5%）	4.0

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部学科別【学年別】

学 部 ： 外語学部

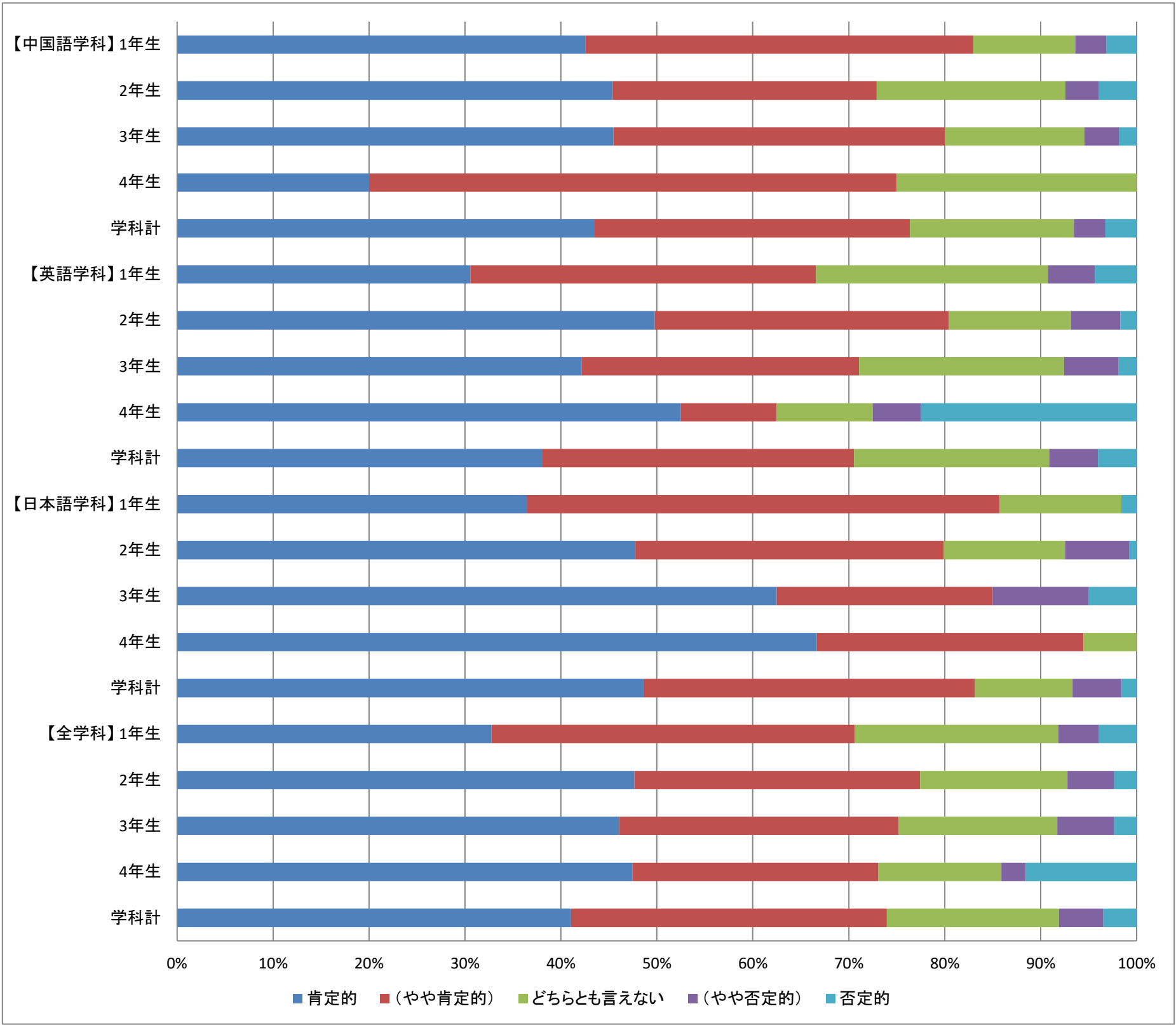
総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度	中国語学科	1年生	40（42.6%）	38（40.4%）	10（10.6%）	3（3.2%）	3（3.2%）	4.2
		2年生	104（45.4%）	63（27.5%）	45（19.7%）	8（3.5%）	9（3.9%）	4.1
		3年生	25（45.5%）	19（34.5%）	8（14.5%）	2（3.6%）	1（1.8%）	4.2
		4年生	4（20.0%）	11（55.0%）	5（25.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	4.0
		学科計	173（43.5%）	131（32.9%）	68（17.1%）	13（3.3%）	13（3.3%）	4.1
	英語学科	1年生	162（30.6%）	191（36.0%）	128（24.2%）	26（4.9%）	23（4.3%）	3.8
		2年生	117（49.8%）	72（30.6%）	30（12.8%）	12（5.1%）	4（1.7%）	4.2
		3年生	67（42.1%）	46（28.9%）	34（21.4%）	9（5.7%）	3（1.9%）	4.0
		4年生	21（52.5%）	4（10.0%）	4（10.0%）	2（5.0%）	9（22.5%）	3.7
		学科計	367（38.1%）	313（32.5%）	196（20.3%）	49（5.1%）	39（4.0%）	4.0
	日本語学科	1年生	23（36.5%）	31（49.2%）	8（12.7%）	0（0.0%）	1（1.6%）	4.2
		2年生	64（47.8%）	43（32.1%）	17（12.7%）	9（6.7%）	1（0.7%）	4.2
		3年生	25（62.5%）	9（22.5%）	0（0.0%）	4（10.0%）	2（5.0%）	4.3
		4年生	12（66.7%）	5（27.8%）	1（5.6%）	0（0.0%）	0（0.0%）	4.6
		学科計	124（48.6%）	88（34.5%）	26（10.2%）	13（5.1%）	4（1.6%）	4.2
	全学科	1年生	225（32.8%）	260（37.8%）	146（21.3%）	29（4.2%）	27（3.9%）	3.9
		2年生	285（47.7%）	178（29.8%）	92（15.4%）	29（4.8%）	14（2.3%）	4.2
		3年生	117（46.1%）	74（29.1%）	42（16.5%）	15（5.9%）	6（2.4%）	4.1
		4年生	37（47.4%）	20（25.6%）	10（12.8%）	2（2.6%）	9（11.5%）	3.9
		学科計	664（41.1%）	532（32.9%）	290（17.9%）	75（4.6%）	56（3.5%）	4.0

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部学科別【学年別】

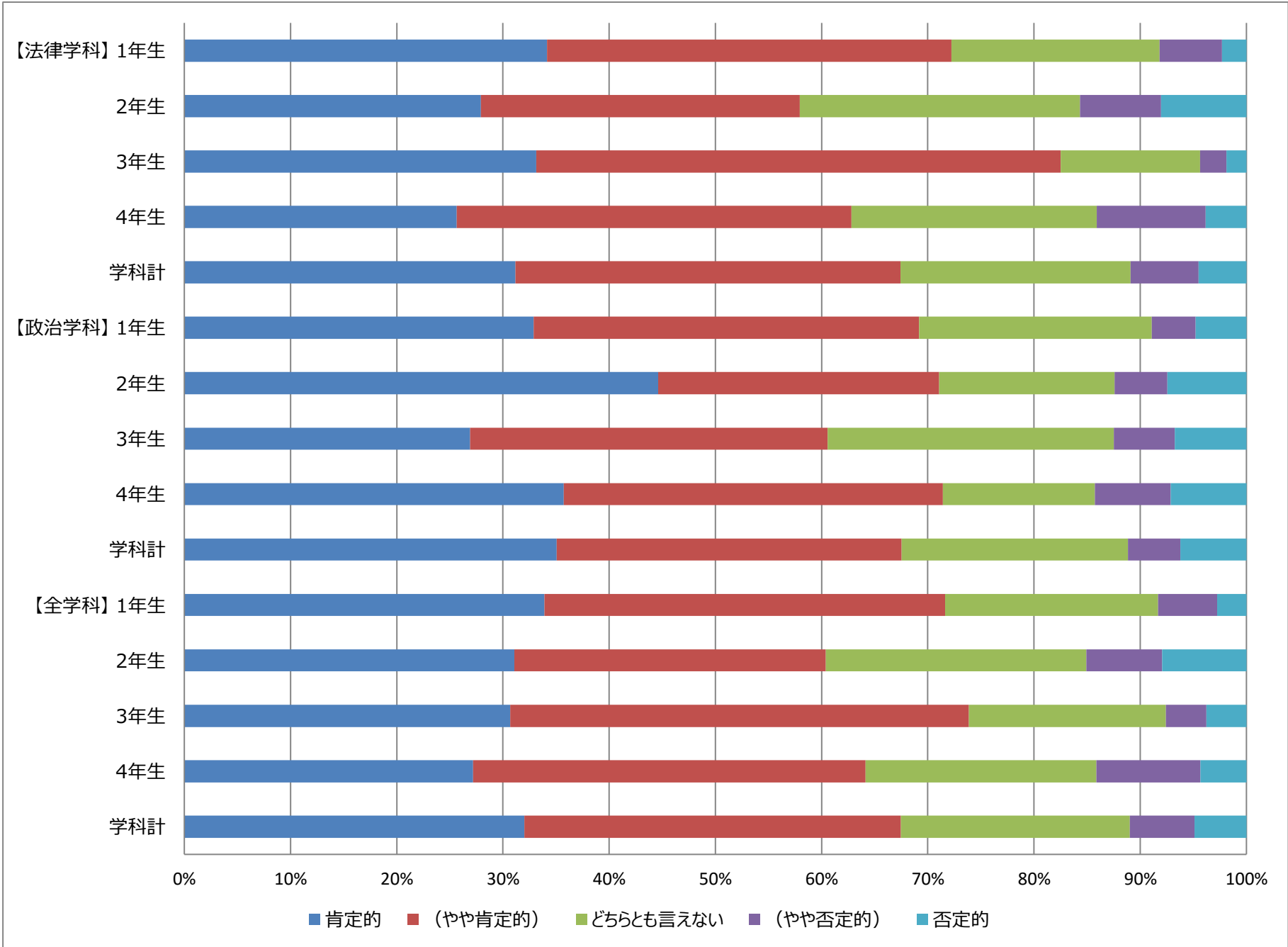
学 部 ： 法学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度	法律学科	1年生	209 (34.2%)	233 (38.1%)	120 (19.6%)	36 (5.9%)	14 (2.3%)	4.0
		2年生	146 (27.9%)	157 (30.0%)	138 (26.4%)	40 (7.6%)	42 (8.0%)	3.6
		3年生	53 (33.1%)	79 (49.4%)	21 (13.1%)	4 (2.5%)	3 (1.9%)	4.1
		4年生	20 (25.6%)	29 (37.2%)	18 (23.1%)	8 (10.3%)	3 (3.8%)	3.7
		学科計	428 (31.2%)	498 (36.3%)	297 (21.6%)	88 (6.4%)	62 (4.5%)	3.8
	政治学科	1年生	48 (32.9%)	53 (36.3%)	32 (21.9%)	6 (4.1%)	7 (4.8%)	3.9
		2年生	54 (44.6%)	32 (26.4%)	20 (16.5%)	6 (5.0%)	9 (7.4%)	4.0
		3年生	28 (26.9%)	35 (33.7%)	28 (26.9%)	6 (5.8%)	7 (6.7%)	3.7
		4年生	5 (35.7%)	5 (35.7%)	2 (14.3%)	1 (7.1%)	1 (7.1%)	3.9
		学科計	135 (35.1%)	125 (32.5%)	82 (21.3%)	19 (4.9%)	24 (6.2%)	3.9
	全学科	1年生	257 (33.9%)	286 (37.7%)	152 (20.1%)	42 (5.5%)	21 (2.8%)	3.9
		2年生	200 (31.1%)	189 (29.3%)	158 (24.5%)	46 (7.1%)	51 (7.9%)	3.7
		3年生	81 (30.7%)	114 (43.2%)	49 (18.6%)	10 (3.8%)	10 (3.8%)	3.9
		4年生	25 (27.2%)	34 (37.0%)	20 (21.7%)	9 (9.8%)	4 (4.3%)	3.7
		学科計	563 (32.0%)	623 (35.4%)	379 (21.6%)	107 (6.1%)	86 (4.9%)	3.8

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部学科別【学年別】

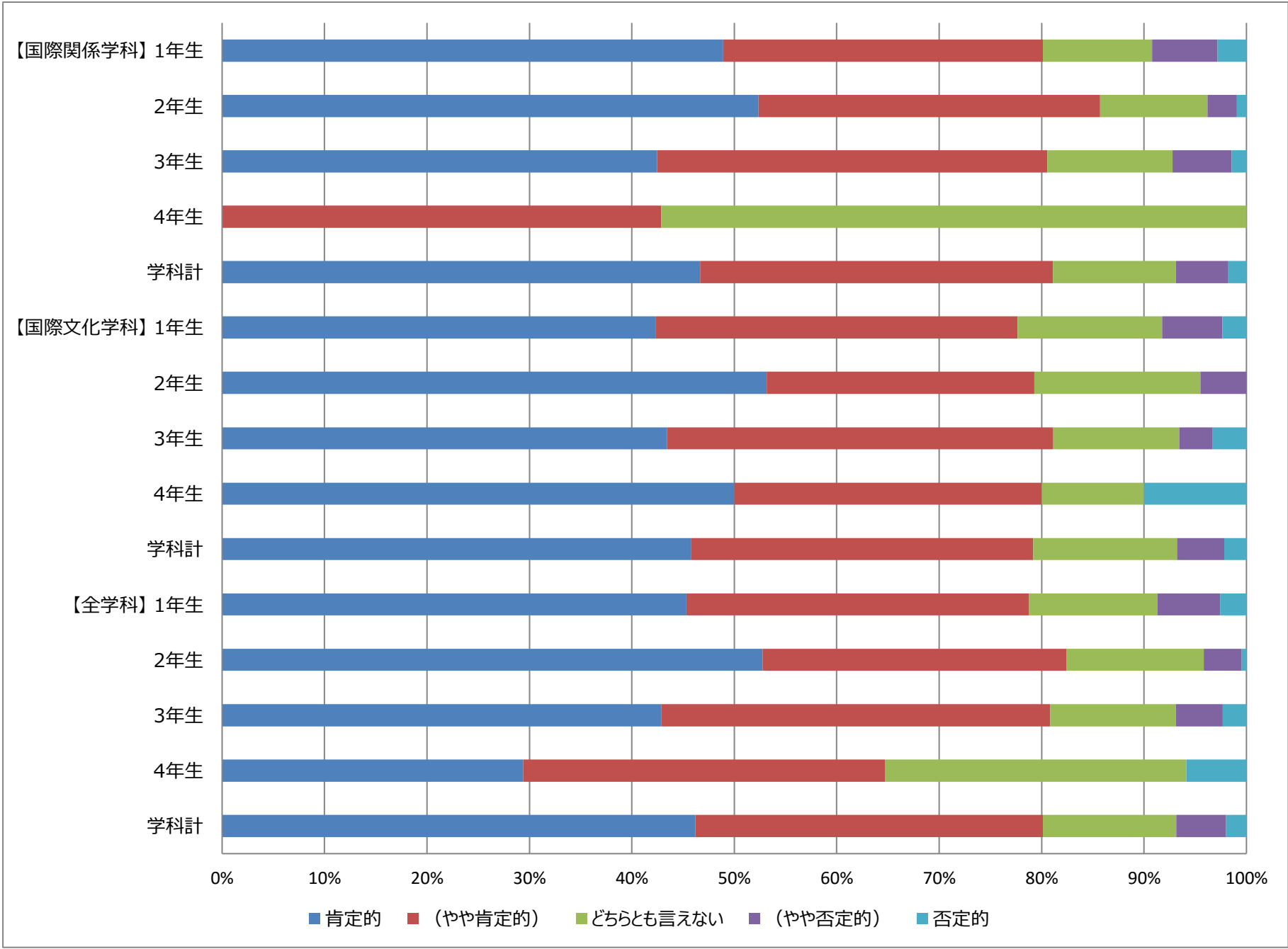
学 部 ： 国際関係学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度	国際関係学科	1年生	69 (48.9%)	44 (31.2%)	15 (10.6%)	9 (6.4%)	4 (2.8%)	4.2
		2年生	55 (52.4%)	35 (33.3%)	11 (10.5%)	3 (2.9%)	1 (1.0%)	4.3
		3年生	59 (42.4%)	53 (38.1%)	17 (12.2%)	8 (5.8%)	2 (1.4%)	4.1
		4年生	0 (0.0%)	3 (42.9%)	4 (57.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	3.4
		学科計	183 (46.7%)	135 (34.4%)	47 (12.0%)	20 (5.1%)	7 (1.8%)	4.2
	国際文化学科	1年生	72 (42.4%)	60 (35.3%)	24 (14.1%)	10 (5.9%)	4 (2.4%)	4.1
		2年生	59 (53.2%)	29 (26.1%)	18 (16.2%)	5 (4.5%)	0 (0.0%)	4.3
		3年生	53 (43.4%)	46 (37.7%)	15 (12.3%)	4 (3.3%)	4 (3.3%)	4.1
		4年生	5 (50.0%)	3 (30.0%)	1 (10.0%)	0 (0.0%)	1 (10.0%)	4.1
		学科計	189 (45.8%)	138 (33.4%)	58 (14.0%)	19 (4.6%)	9 (2.2%)	4.2
	全学科	1年生	141 (45.3%)	104 (33.4%)	39 (12.5%)	19 (6.1%)	8 (2.6%)	4.1
		2年生	114 (52.8%)	64 (29.6%)	29 (13.4%)	8 (3.7%)	1 (0.5%)	4.3
		3年生	112 (42.9%)	99 (37.9%)	32 (12.3%)	12 (4.6%)	6 (2.3%)	4.1
		4年生	5 (29.4%)	6 (35.3%)	5 (29.4%)	0 (0.0%)	1 (5.9%)	3.8
		学科計	372 (46.2%)	273 (33.9%)	105 (13.0%)	39 (4.8%)	16 (2.0%)	4.2

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部学科別【学年別】

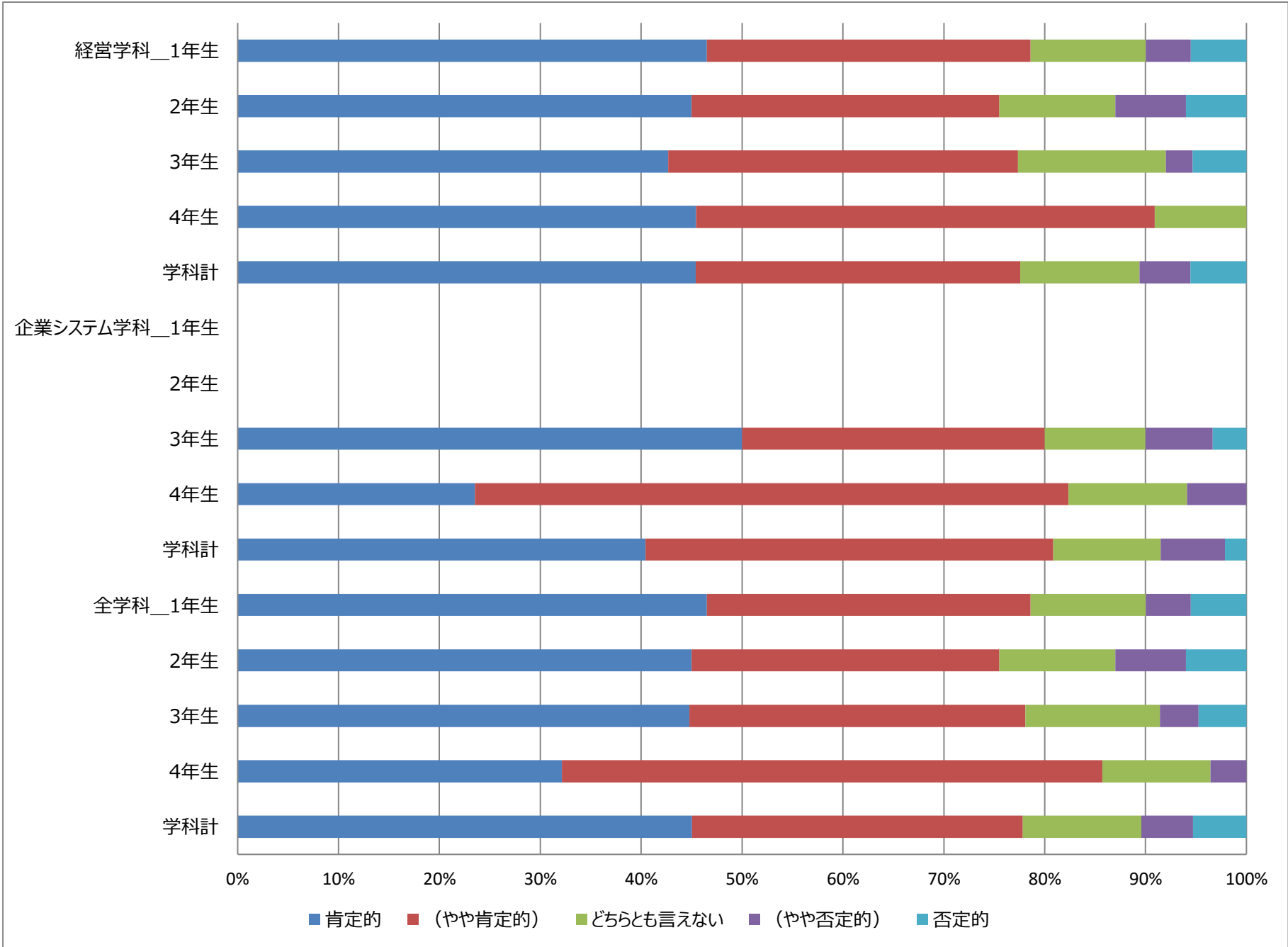
学 部 ： 経営学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度	経営学科	1年生	126 (46.5%)	87 (32.1%)	31 (11.4%)	12 (4.4%)	15 (5.5%)	4.1
		2年生	90 (45.0%)	61 (30.5%)	23 (11.5%)	14 (7.0%)	12 (6.0%)	4.0
		3年生	32 (42.7%)	26 (34.7%)	11 (14.7%)	2 (2.7%)	4 (5.3%)	4.1
		4年生	5 (45.5%)	5 (45.5%)	1 (9.1%)	0 (0.0%)	0 (0.0%)	4.4
		学科計	253 (45.4%)	179 (32.1%)	66 (11.8%)	28 (5.0%)	31 (5.6%)	4.1
	企業システム学科	1年生	0	0	0	0	0	
		2年生	0	0	0	0	0	
		3年生	15 (50.0%)	9 (30.0%)	3 (10.0%)	2 (6.7%)	1 (3.3%)	4.2
		4年生	4 (23.5%)	10 (58.8%)	2 (11.8%)	1 (5.9%)	0 (0.0%)	4.0
		学科計	19 (40.4%)	19 (40.4%)	5 (10.6%)	3 (6.4%)	1 (2.1%)	4.1
	全学科	1年生	126 (46.5%)	87 (32.1%)	31 (11.4%)	12 (4.4%)	15 (5.5%)	4.1
		2年生	90 (45.0%)	61 (30.5%)	23 (11.5%)	14 (7.0%)	12 (6.0%)	4.0
		3年生	47 (44.8%)	35 (33.3%)	14 (13.3%)	4 (3.8%)	5 (4.8%)	4.1
		4年生	9 (32.1%)	15 (53.6%)	3 (10.7%)	1 (3.6%)	0 (0.0%)	4.1
		学科計	272 (45.0%)	198 (32.8%)	71 (11.8%)	31 (5.1%)	32 (5.3%)	4.1

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部学科別【学年別】

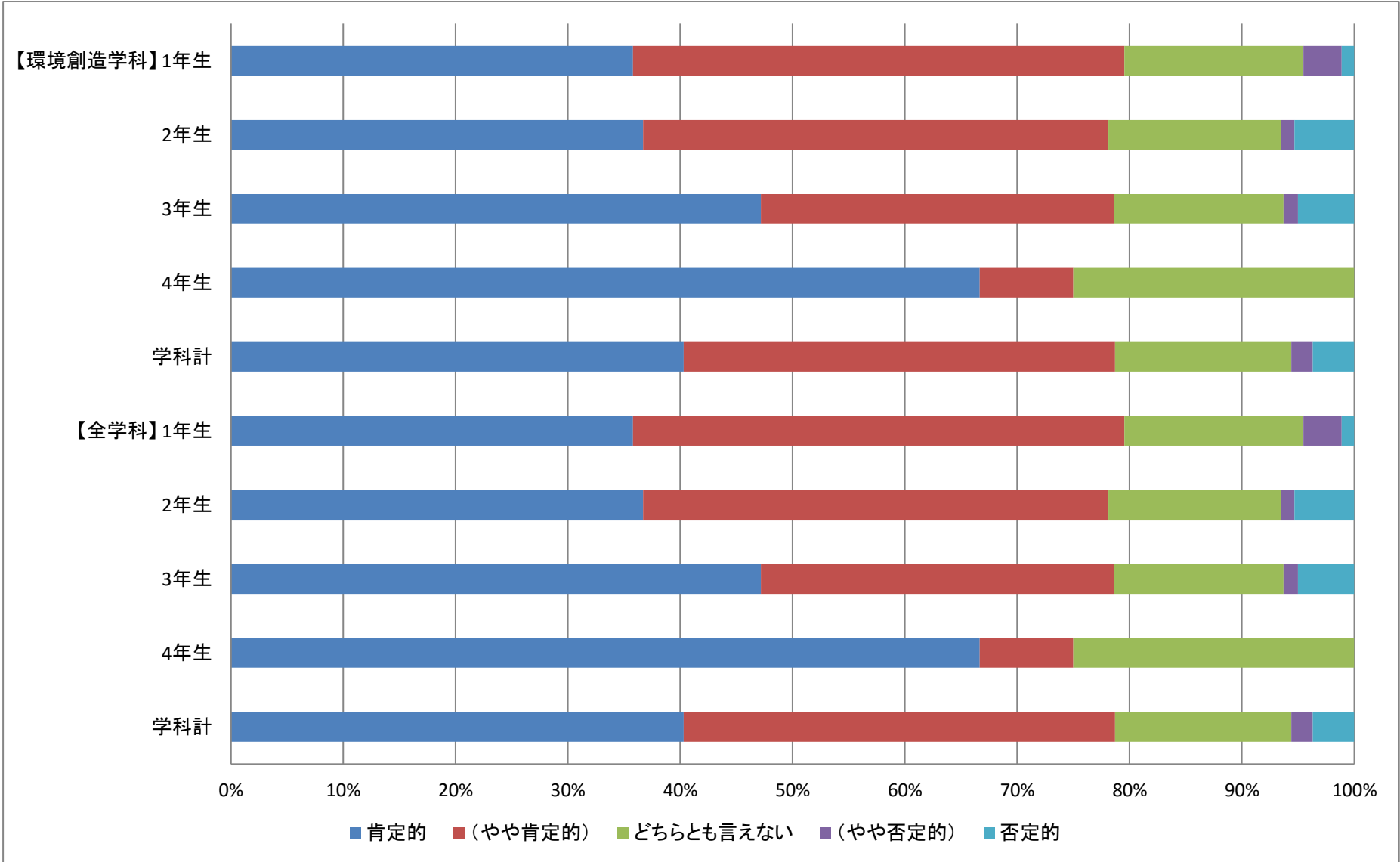
学 部 ： 環境創造学部

総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）
[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度	環境創造学科	1年生	63（35.8%）	77（43.8%）	28（15.9%）	6（3.4%）	2（1.1%）	4.1
		2年生	62（36.7%）	70（41.4%）	26（15.4%）	2（1.2%）	9（5.3%）	4.0
		3年生	75（47.2%）	50（31.4%）	24（15.1%）	2（1.3%）	8（5.0%）	4.1
		4年生	8（66.7%）	1（8.3%）	3（25.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	4.4
		学科計	208（40.3%）	198（38.4%）	81（15.7%）	10（1.9%）	19（3.7%）	4.1
	全学科	1年生	63（35.8%）	77（43.8%）	28（15.9%）	6（3.4%）	2（1.1%）	4.1
		2年生	62（36.7%）	70（41.4%）	26（15.4%）	2（1.2%）	9（5.3%）	4.0
		3年生	75（47.2%）	50（31.4%）	24（15.1%）	2（1.3%）	8（5.0%）	4.1
		4年生	8（66.7%）	1（8.3%）	3（25.0%）	0（0.0%）	0（0.0%）	4.4
		学科計	208（40.3%）	198（38.4%）	81（15.7%）	10（1.9%）	19（3.7%）	4.1

< 評価帯グラフ >

2017年度



学部学科別【学年別】

学 部 ： スポーツ・健康科学部

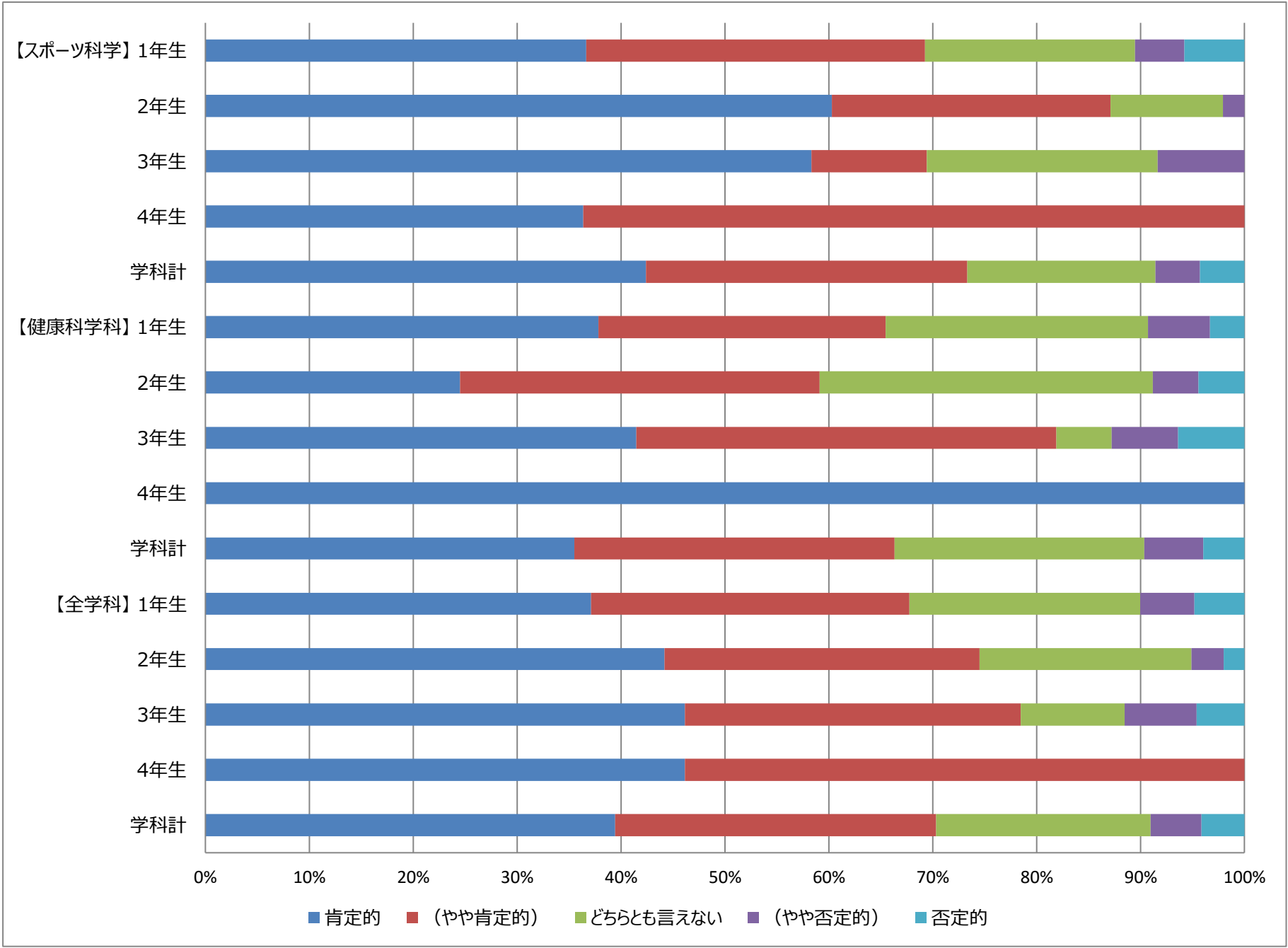
総合評価（ⅢQ20「満足度」の値）

[Q20：満足度]

実施年度	学生の所属		肯定的	（やや肯定的）	どちらとも言えない	（やや否定的）	否定的	平均
2017年度	スポーツ科学	1年生	254 （36.7%）	226 （32.6%）	140 （20.2%）	33 （4.8%）	40 （5.8%）	3.9
		2年生	117 （60.3%）	52 （26.8%）	21 （10.8%）	4 （2.1%）	0 （0.0%）	4.5
		3年生	21 （58.3%）	4 （11.1%）	8 （22.2%）	3 （8.3%）	0 （0.0%）	4.2
		4年生	4 （36.4%）	7 （63.6%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	4.4
		学科計	396 （42.4%）	289 （30.9%）	169 （18.1%）	40 （4.3%）	40 （4.3%）	4.0
	健康科学科	1年生	171 （37.8%）	125 （27.7%）	114 （25.2%）	27 （6.0%）	15 （3.3%）	3.9
		2年生	39 （24.5%）	55 （34.6%）	51 （32.1%）	7 （4.4%）	7 （4.4%）	3.7
		3年生	39 （41.5%）	38 （40.4%）	5 （5.3%）	6 （6.4%）	6 （6.4%）	4.0
		4年生	2 ####	0 （0.0%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	5.0
		学科計	251 （35.5%）	218 （30.8%）	170 （24.0%）	40 （5.7%）	28 （4.0%）	3.9
	全学科	1年生	425 （37.1%）	351 （30.7%）	254 （22.2%）	60 （5.2%）	55 （4.8%）	3.9
		2年生	156 （44.2%）	107 （30.3%）	72 （20.4%）	11 （3.1%）	7 （2.0%）	4.1
		3年生	60 （46.2%）	42 （32.3%）	13 （10.0%）	9 （6.9%）	6 （4.6%）	4.1
		4年生	6 （46.2%）	7 （53.8%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	0 （0.0%）	4.5
		学科計	647 （39.4%）	507 （30.9%）	339 （20.7%）	80 （4.9%）	68 （4.1%）	4.0

< 評価帯グラフ >

2017年度



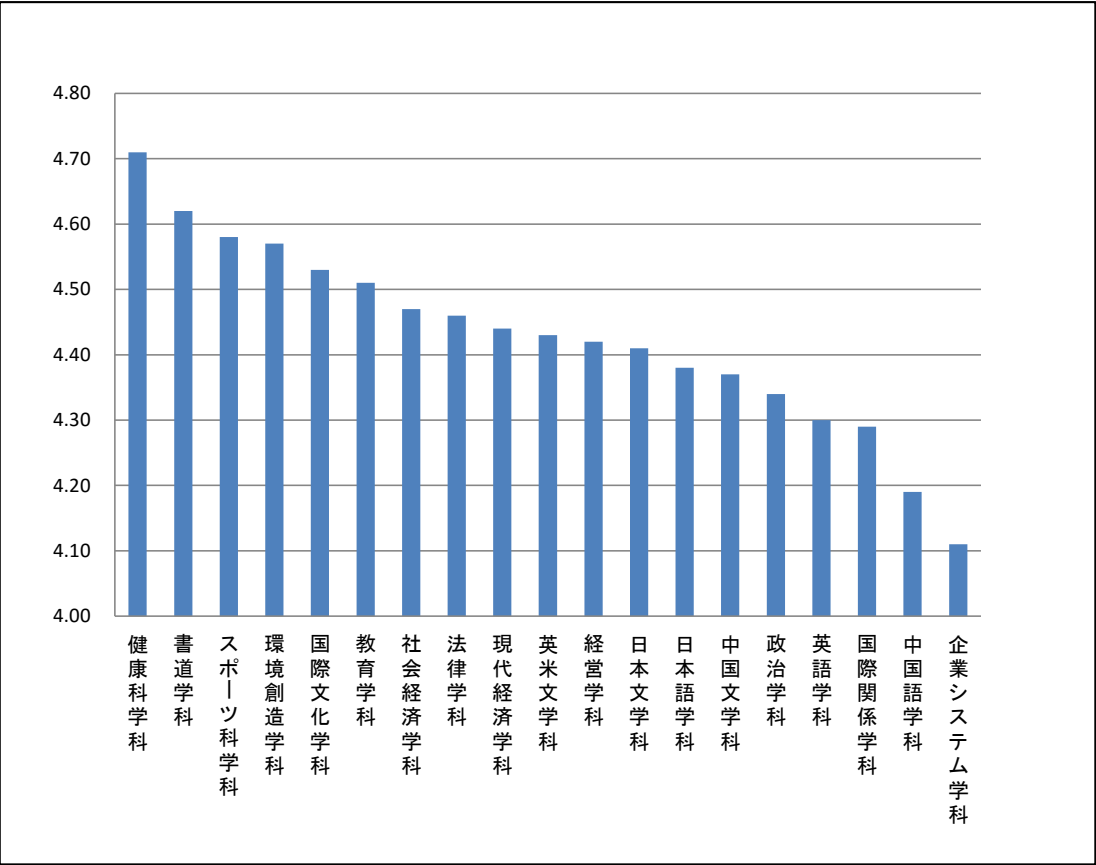
E. 学科別集計

学科の平均値

	出席率	予習・復習・練習	授業への集中	シラバスの熟読	教材等の持参頻度	授業姿勢への自己評価	授業目的の明確さ	シラバスの反映	理解しやすさ	適切な授業進行速度	板書などの見やすさ	教材の使い方	学生参加の機会	受講態度への対応	教員の熟意	飽きさせない工夫	新しい自己発想	授業への関心度合	自分で考える姿勢	満足度
	Q1	Q2	Q3	Q4	Q5	Q6	Q7	Q8	Q9	Q10	Q11	Q12	Q13	Q14	Q15	Q16	Q17	Q18	Q19	Q20
日本文学科	4.41	3.32	4.09	4.02	4.53	3.88	4.21	4.11	4.04	4.07	4.09	4.11	3.27	3.75	4.35	3.91	4.03	3.87	4.15	4.15
中国文学科	4.37	4.18	4.41	4.10	4.55	4.00	4.35	4.37	4.24	4.18	4.39	4.35	3.94	4.16	4.43	4.22	4.24	4.24	4.18	4.22
英米文学科	4.43	3.55	4.13	3.76	4.54	3.90	4.21	4.11	4.11	4.11	4.12	4.22	3.55	4.04	4.37	4.05	4.12	4.05	4.17	4.18
教育学科	4.51	3.48	4.16	3.71	4.56	3.98	4.21	4.07	4.04	4.01	4.05	4.11	3.77	3.89	4.39	3.94	4.10	3.98	4.10	4.12
書道学科	4.62	3.75	4.25	3.69	4.54	4.04	4.34	4.08	4.23	4.29	4.20	4.36	3.73	3.90	4.39	4.04	4.14	4.08	4.27	4.33
社会経済学科	4.47	3.24	3.87	3.73	4.38	3.74	4.03	3.93	3.93	4.03	4.00	4.04	3.28	3.95	4.18	3.79	3.77	3.70	3.84	3.95
現代経済学科	4.44	3.50	3.97	3.94	4.45	3.78	4.18	4.08	4.04	4.12	4.01	4.11	3.32	4.01	4.27	3.94	3.97	3.83	4.02	4.10
中国語学科	4.19	3.55	4.01	3.90	4.37	3.83	4.09	4.03	4.02	3.99	4.10	4.09	3.58	3.89	4.17	3.85	3.98	3.98	3.95	4.10
英語学科	4.30	3.59	4.01	3.64	4.38	3.81	4.03	3.90	3.90	4.03	3.98	4.04	3.52	3.95	4.14	3.80	3.89	3.88	3.89	3.95
日本語学科	4.38	3.70	4.17	3.89	4.41	3.96	4.27	4.04	4.12	4.12	4.24	4.29	3.65	3.89	4.33	3.98	4.16	3.98	4.24	4.25
法律学科	4.46	3.36	3.88	3.46	4.35	3.62	3.89	3.75	3.71	3.81	3.80	3.77	3.22	3.79	3.99	3.71	3.71	3.65	3.78	3.83
政治学科	4.34	3.34	3.84	3.69	4.31	3.64	3.90	3.80	3.75	3.86	3.75	3.86	3.11	3.75	4.02	3.63	3.75	3.66	3.78	3.85
国際関係学科	4.29	3.42	4.06	3.93	4.39	3.85	4.23	4.16	4.20	4.22	4.34	4.30	3.61	3.97	4.38	4.04	4.10	3.99	4.12	4.20
国際文化学科	4.53	3.54	4.10	3.98	4.49	3.94	4.22	4.16	4.13	4.12	4.15	4.24	3.58	3.86	4.33	3.99	4.11	4.06	4.15	4.16
経営学科	4.42	3.39	4.01	3.76	4.38	3.88	4.13	4.07	3.91	4.02	3.91	4.10	3.44	3.91	4.24	3.83	3.97	3.92	3.99	4.07
企業システム学科	4.11	3.57	4.00	4.04	4.43	3.98	4.11	4.28	4.15	4.13	3.89	4.13	3.49	3.91	4.38	3.89	3.87	3.89	3.96	4.11
環境創造学科	4.57	3.64	4.09	3.83	4.45	3.89	4.11	3.98	3.95	4.04	4.00	4.02	3.68	4.16	4.27	3.94	3.96	3.95	3.96	4.10
スポーツ科学科	4.58	3.58	4.18	3.48	4.24	4.05	4.10	3.84	4.00	4.00	3.91	3.99	3.73	4.11	4.22	3.92	3.93	3.86	4.00	4.03
健康科学科	4.71	3.51	4.09	3.63	4.30	3.94	4.02	3.85	3.73	3.84	3.80	3.82	3.64	3.73	4.09	3.68	3.75	3.81	3.83	3.88

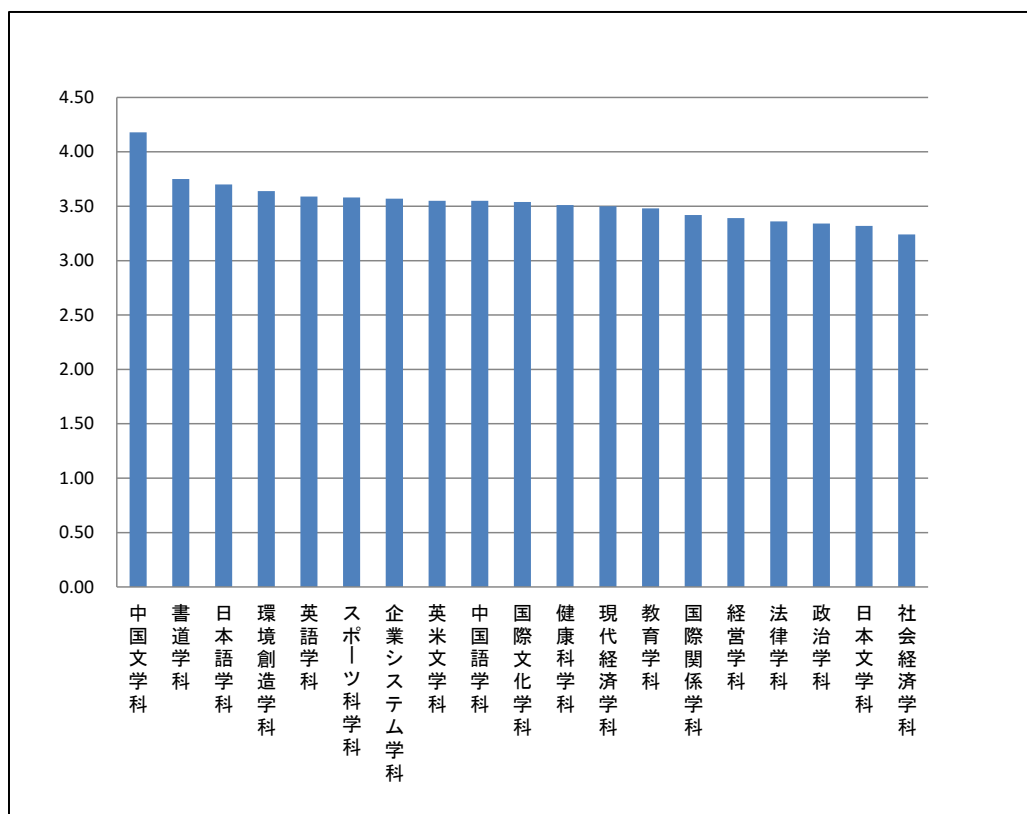
出席率

健康科学科	4.71
書道学科	4.62
スポーツ科学科	4.58
環境創造学科	4.57
国際文化学科	4.53
教育学科	4.51
社会経済学科	4.47
法律学科	4.46
現代経済学科	4.44
英米文学科	4.43
経営学科	4.42
日本文学科	4.41
日本語学科	4.38
中国文学科	4.37
政治学科	4.34
英語学科	4.30
国際関係学科	4.29
中国語学科	4.19
企業システム学科	4.11



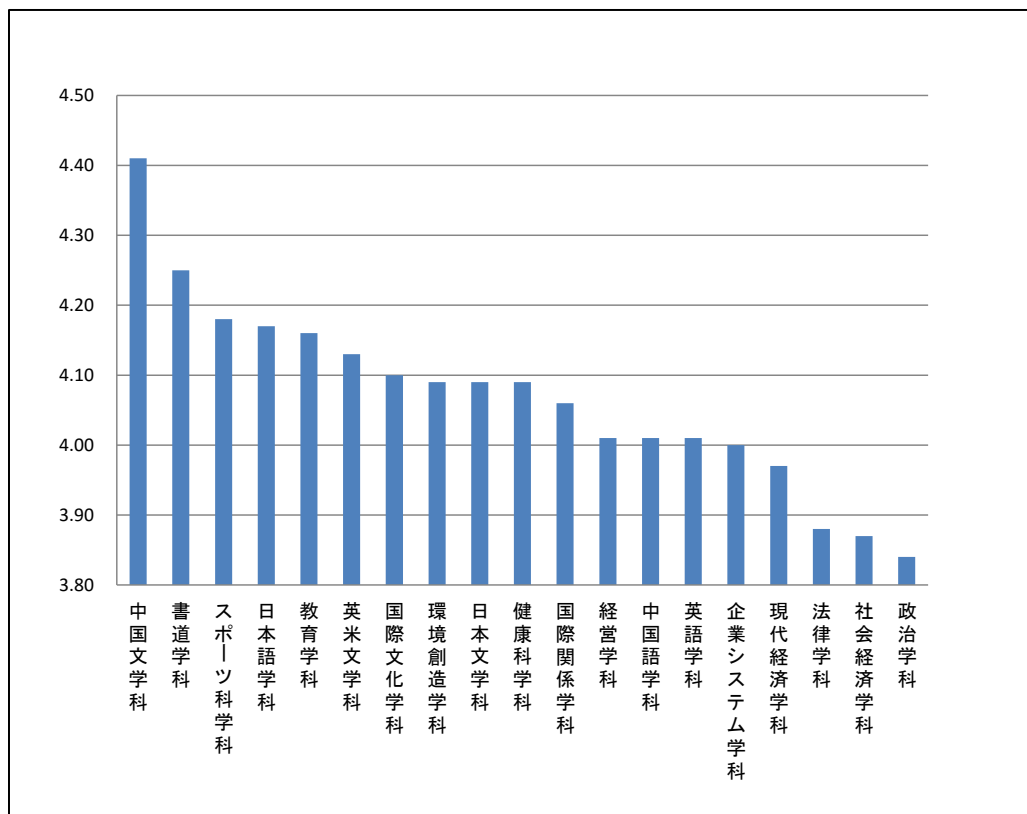
予習・復習・練習

中国文学科	4.18
書道学科	3.75
日本語学科	3.70
環境創造学科	3.64
英語学科	3.59
スポーツ科学科	3.58
企業システム学科	3.57
英米文学科	3.55
中国語学科	3.55
国際文化学科	3.54
健康科学科	3.51
現代経済学科	3.50
教育学科	3.48
国際関係学科	3.42
経営学科	3.39
法律学科	3.36
政治学科	3.34
日本文学科	3.32
社会経済学科	3.24



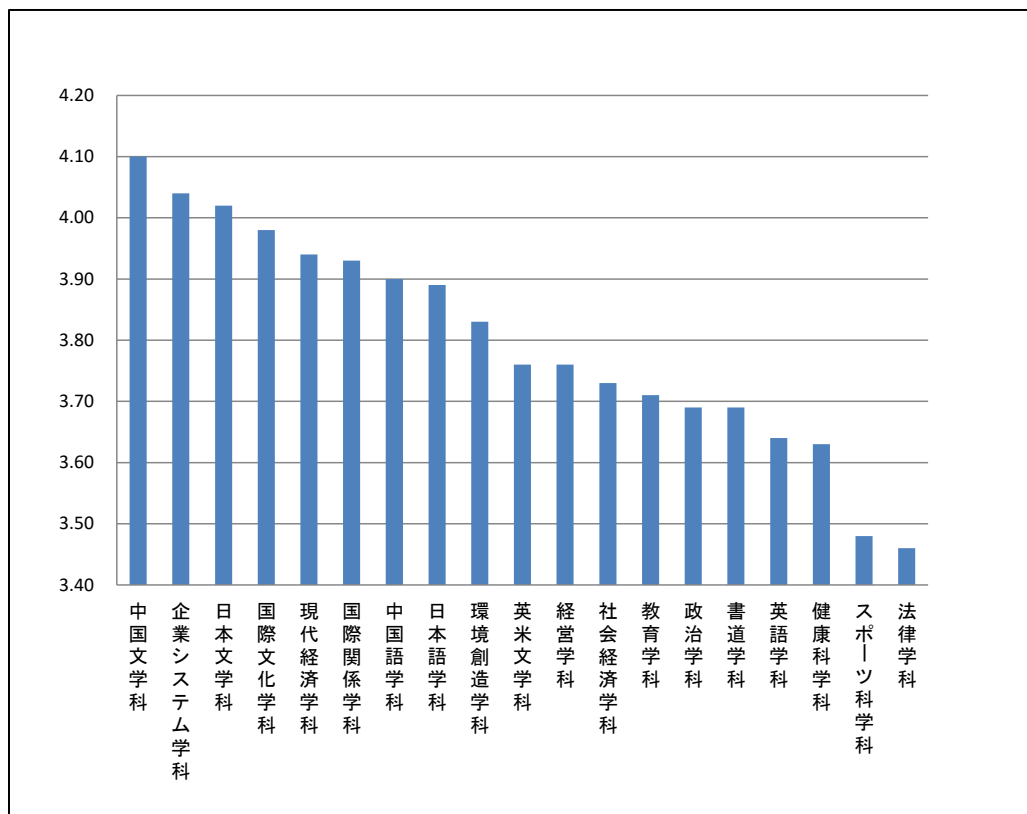
授業への集中

中国文学科	4.41
書道学科	4.25
スポーツ科学科	4.18
日本語学科	4.17
教育学科	4.16
英米文学科	4.13
国際文化学科	4.10
環境創造学科	4.09
日本文学科	4.09
健康科学科	4.09
国際関係学科	4.06
経営学科	4.01
中国語学科	4.01
英語学科	4.01
企業システム学科	4.00
現代経済学科	3.97
法律学科	3.88
社会経済学科	3.87
政治学科	3.84



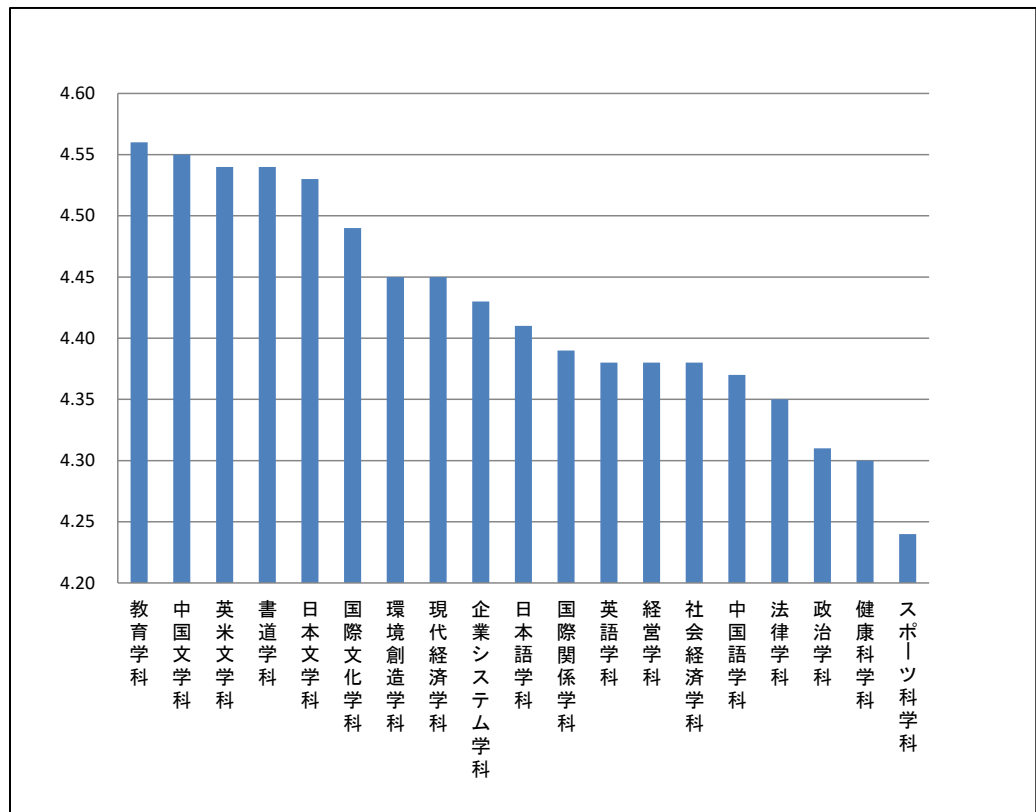
シラバスの熟読

中国文学科	4.10
企業システム学科	4.04
日本文学科	4.02
国際文化学科	3.98
現代経済学科	3.94
国際関係学科	3.93
中国語学科	3.90
日本語学科	3.89
環境創造学科	3.83
英米文学科	3.76
経営学科	3.76
社会経済学科	3.73
教育学科	3.71
政治学科	3.69
書道学科	3.69
英語学科	3.64
健康科学科	3.63
スポーツ科学科	3.48
法律学科	3.46



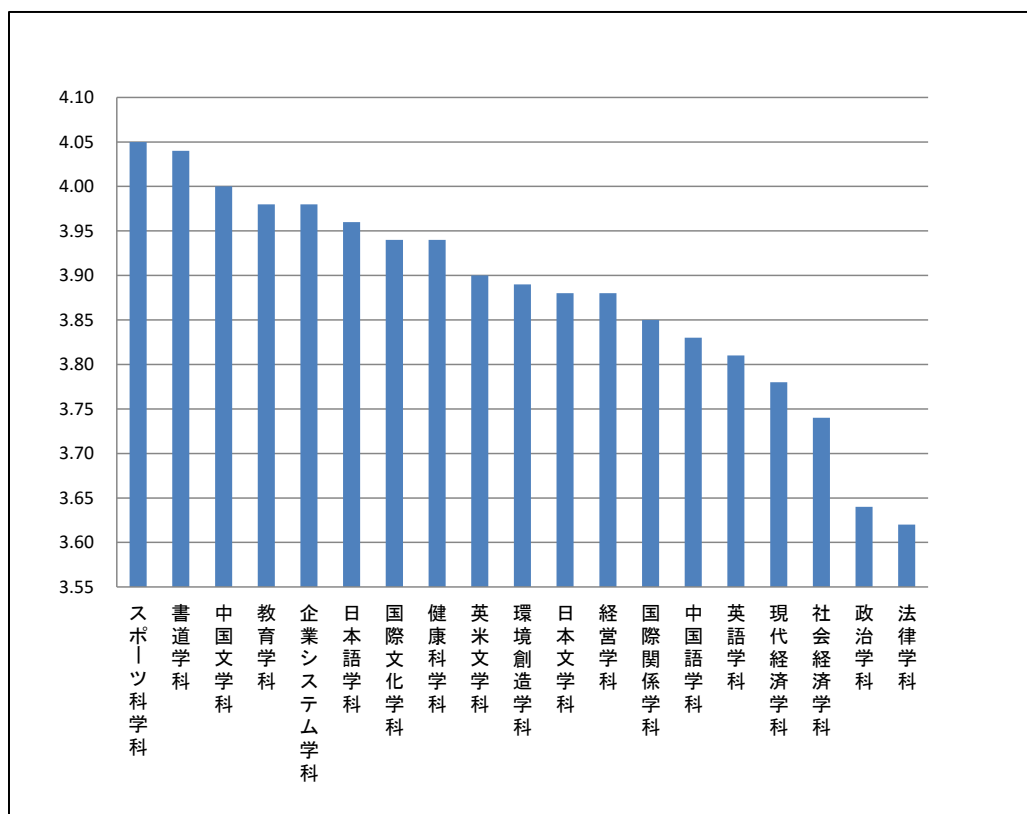
教材等の持参頻度

教育学科	4.56
中国文学科	4.55
英米文学科	4.54
書道学科	4.54
日本文学科	4.53
国際文化学科	4.49
環境創造学科	4.45
現代経済学科	4.45
企業システム学科	4.43
日本語学科	4.41
国際関係学科	4.39
英語学科	4.38
経営学科	4.38
社会経済学科	4.38
中国語学科	4.37
法律学科	4.35
政治学科	4.31
健康科学科	4.30
スポーツ科学科	4.24



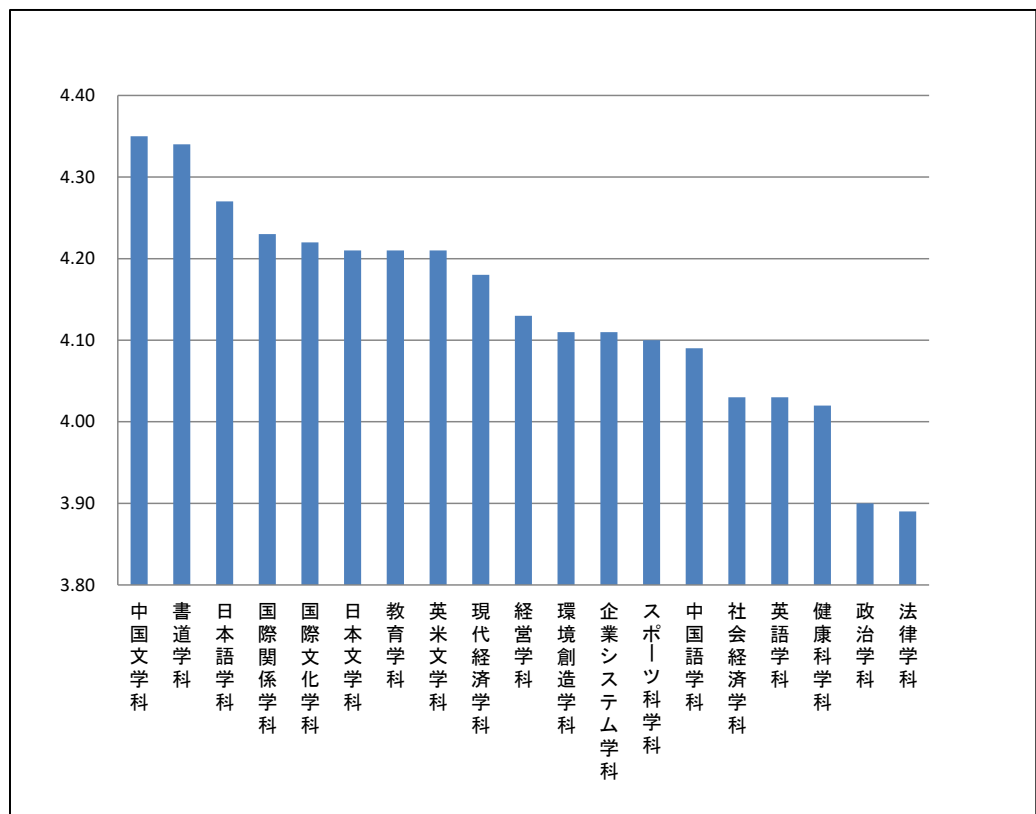
授業姿勢への自己評価

スポーツ科学科	4.05
書道学科	4.04
中国文学科	4.00
教育学科	3.98
企業システム学科	3.98
日本語学科	3.96
国際文化学科	3.94
健康科学科	3.94
英米文学科	3.90
環境創造学科	3.89
日本文学科	3.88
経営学科	3.88
国際関係学科	3.85
中国語学科	3.83
英語学科	3.81
現代経済学科	3.78
社会経済学科	3.74
政治学科	3.64
法律学科	3.62



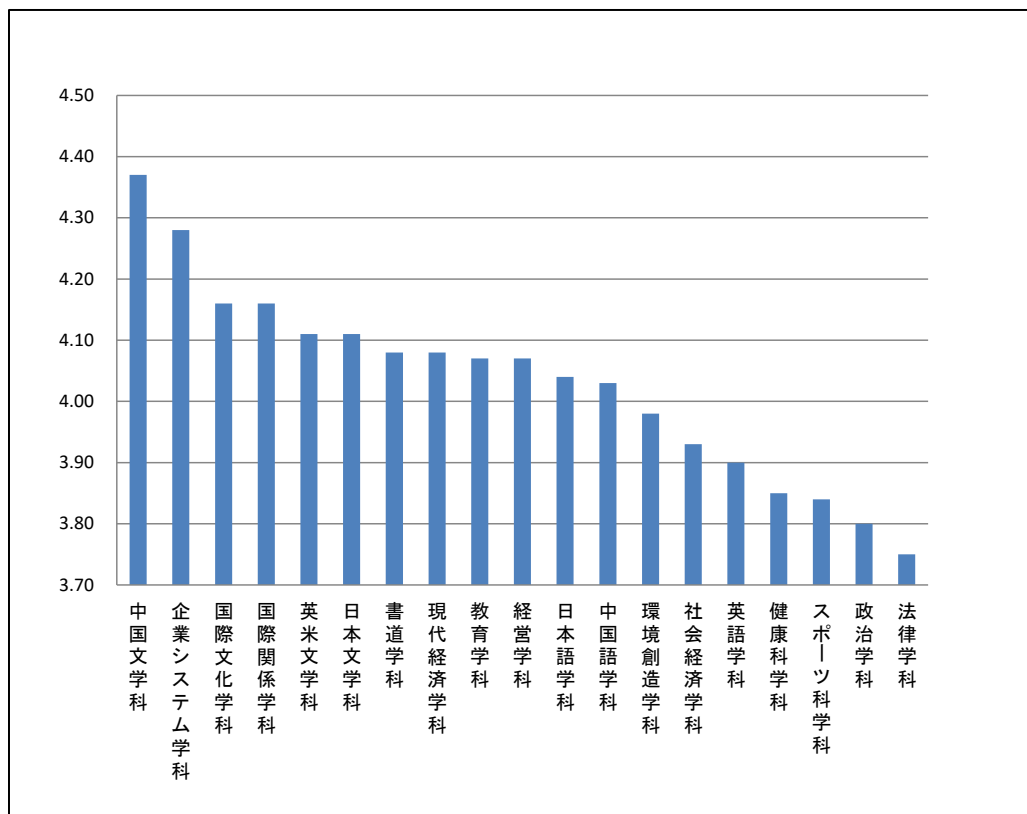
授業目的の明確さ

中国文学科	4.35
書道学科	4.34
日本語学科	4.27
国際関係学科	4.23
国際文化学科	4.22
日本文学科	4.21
教育学科	4.21
英米文学科	4.21
現代経済学科	4.18
経営学科	4.13
環境創造学科	4.11
企業システム学科	4.11
スポーツ科学科	4.10
中国語学科	4.09
社会経済学科	4.03
英語学科	4.03
健康科学科	4.02
政治学科	3.90
法律学科	3.89



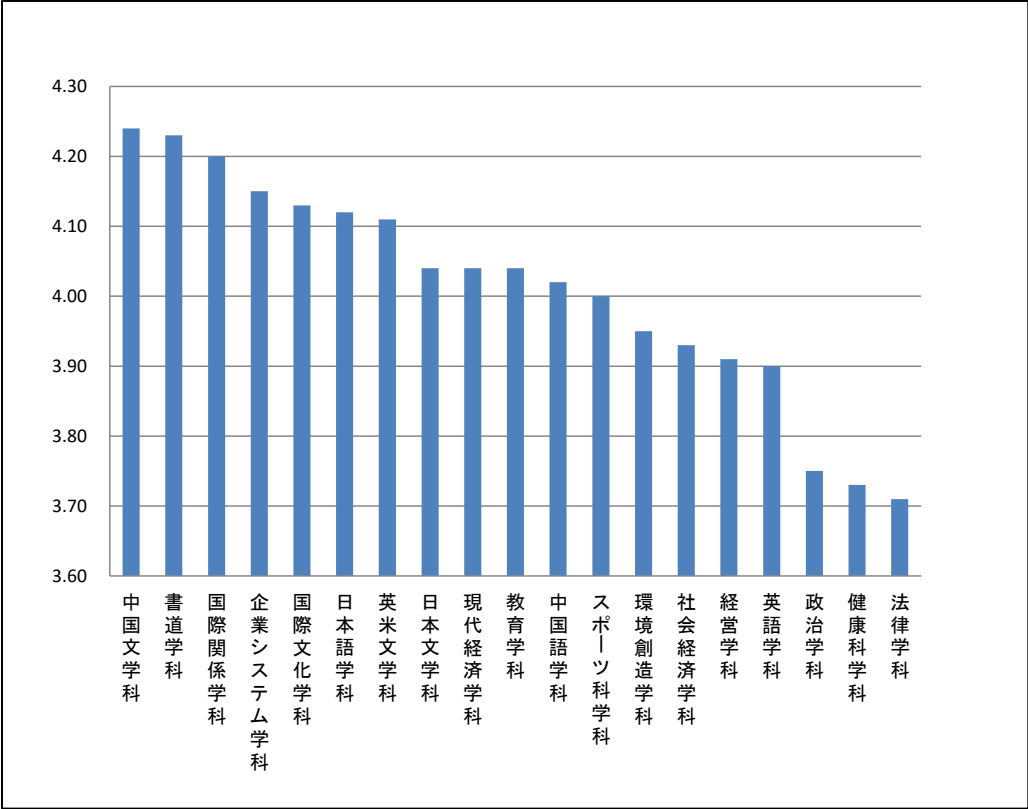
シラバスの反映

中国文学科	4.37
企業システム学科	4.28
国際文化学科	4.16
国際関係学科	4.16
英米文学科	4.11
日本文学科	4.11
書道学科	4.08
現代経済学科	4.08
教育学科	4.07
経営学科	4.07
日本語学科	4.04
中国語学科	4.03
環境創造学科	3.98
社会経済学科	3.93
英語学科	3.90
健康科学科	3.85
スポーツ科学科	3.84
政治学科	3.80
法律学科	3.75



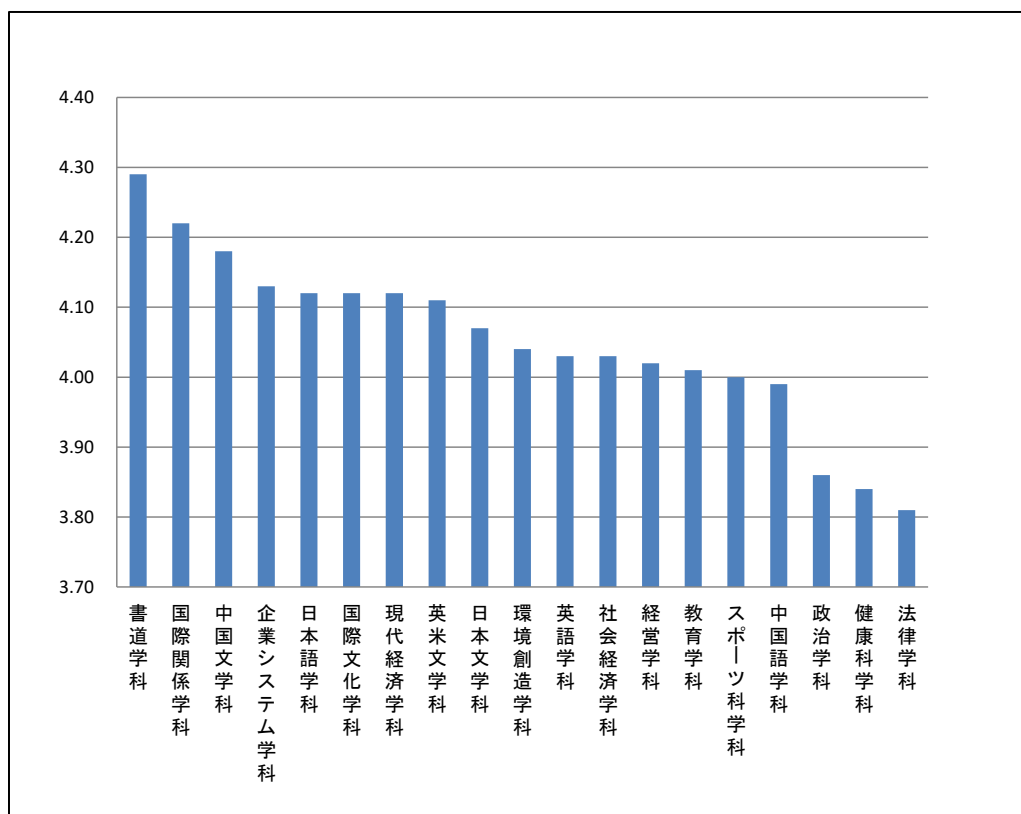
理解しやすさ

中国文学科	4.24
書道学科	4.23
国際関係学科	4.20
企業システム学科	4.15
国際文化学科	4.13
日本語学科	4.12
英米文学科	4.11
日本文学科	4.04
現代経済学科	4.04
教育学科	4.04
中国語学科	4.02
スポーツ科学科	4.00
環境創造学科	3.95
社会経済学科	3.93
経営学科	3.91
英語学科	3.90
政治学科	3.75
健康科学科	3.73
法律学科	3.71



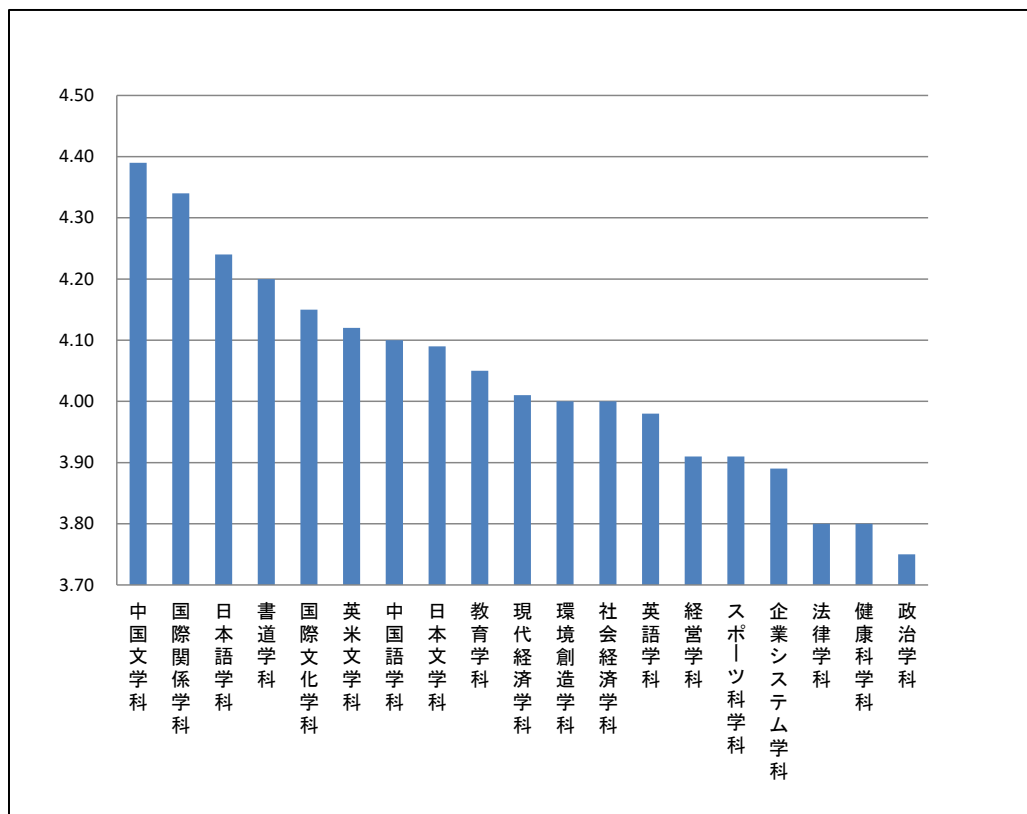
適切な授業進行速度

書道学科	4.29
国際関係学科	4.22
中国文学科	4.18
企業システム学科	4.13
日本語学科	4.12
国際文化学科	4.12
現代経済学科	4.12
英米文学科	4.11
日本文学科	4.07
環境創造学科	4.04
英語学科	4.03
社会経済学科	4.03
経営学科	4.02
教育学科	4.01
スポーツ科学科	4.00
中国語学科	3.99
政治学科	3.86
健康科学科	3.84
法律学科	3.81



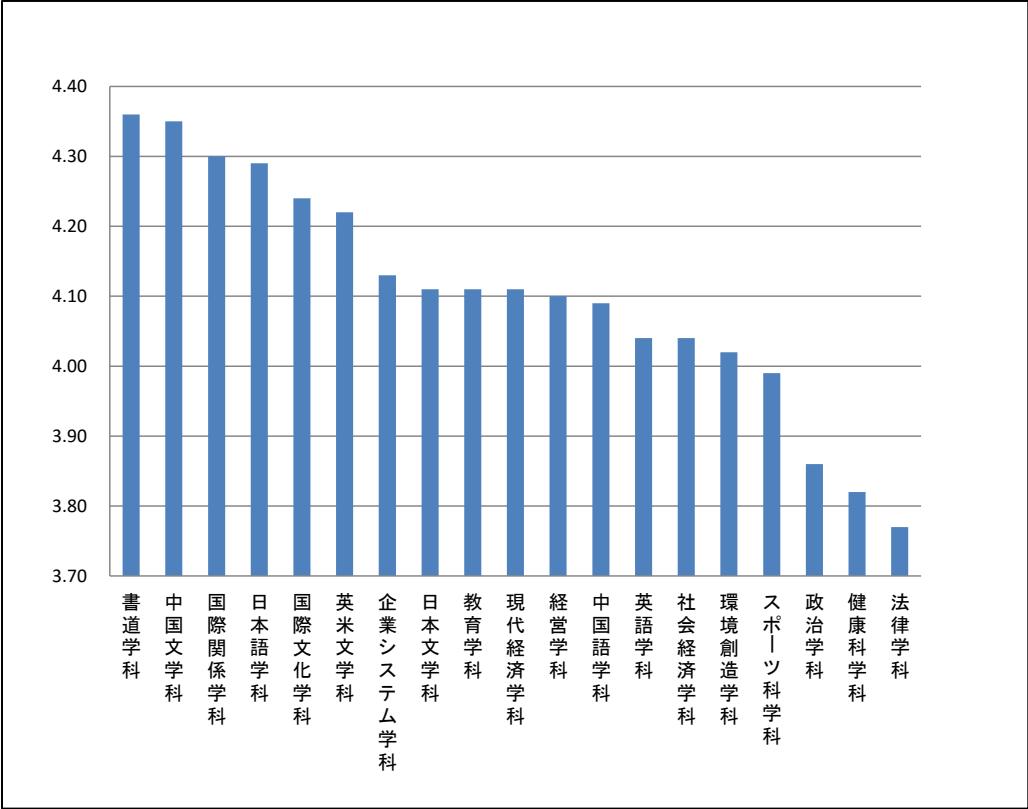
板書などの見やすさ

中国文学科	4.39
国際関係学科	4.34
日本語学科	4.24
書道学科	4.20
国際文化学科	4.15
英米文学科	4.12
中国語学科	4.10
日本文学科	4.09
教育学科	4.05
現代経済学科	4.01
環境創造学科	4.00
社会経済学科	4.00
英語学科	3.98
経営学科	3.91
スポーツ科学科	3.91
企業システム学科	3.89
法律学科	3.80
健康科学科	3.80
政治学科	3.75



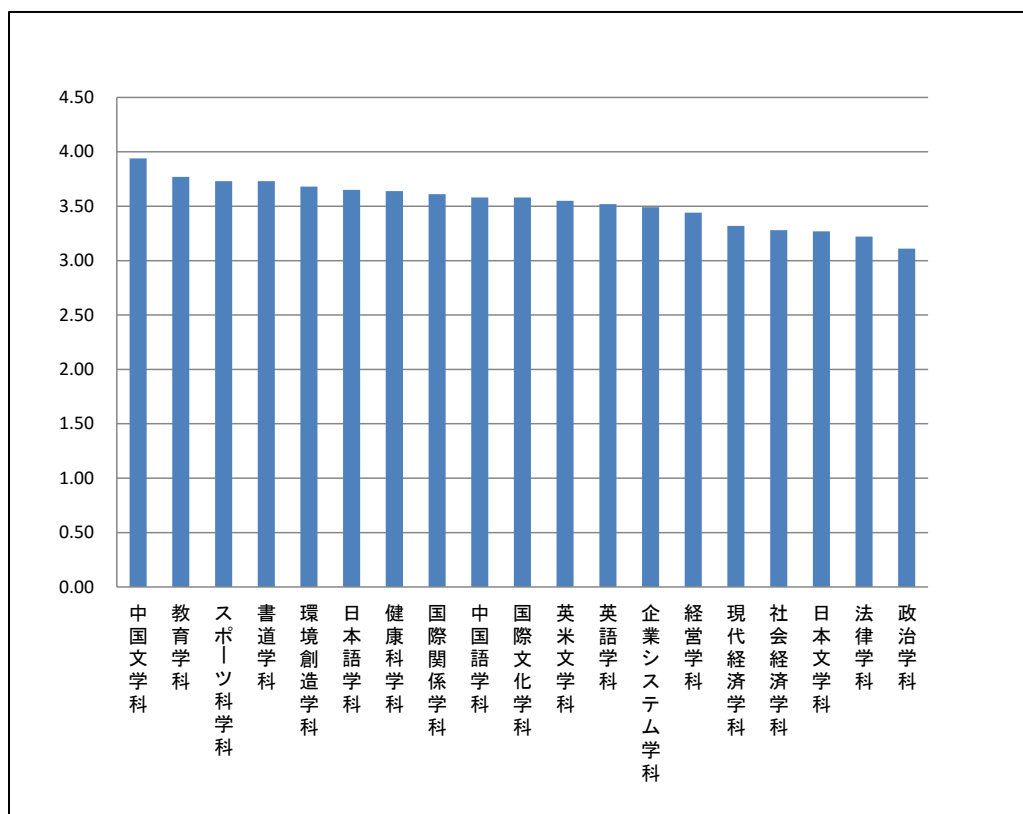
教材の使い方

書道学科	4.36
中国文学科	4.35
国際関係学科	4.30
日本語学科	4.29
国際文化学科	4.24
英米文学科	4.22
企業システム学科	4.13
日本文学科	4.11
教育学科	4.11
現代経済学科	4.11
経営学科	4.10
中国語学科	4.09
英語学科	4.04
社会経済学科	4.04
環境創造学科	4.02
スポーツ科学科	3.99
政治学科	3.86
健康科学科	3.82
法律学科	3.77



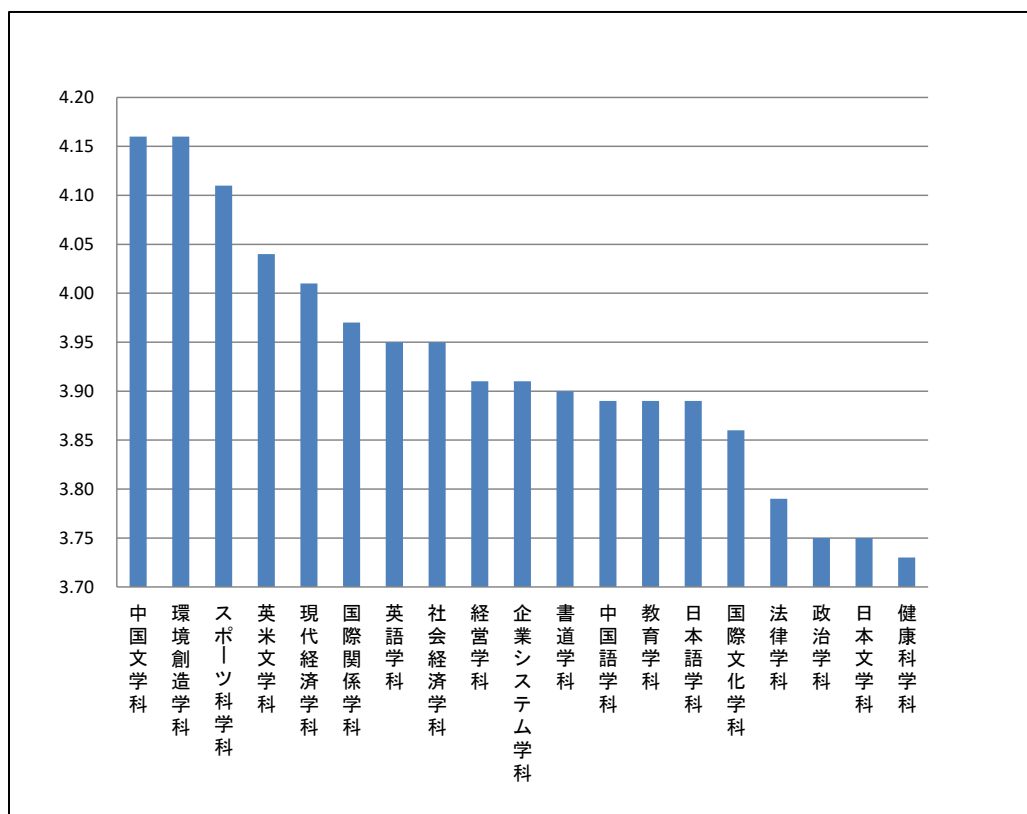
学生参加の機会

中国文学科	3.94
教育学科	3.77
スポーツ科学科	3.73
書道学科	3.73
環境創造学科	3.68
日本語学科	3.65
健康科学科	3.64
国際関係学科	3.61
中国語学科	3.58
国際文化学科	3.58
英米文学科	3.55
英語学科	3.52
企業システム学科	3.49
経営学科	3.44
現代経済学科	3.32
社会経済学科	3.28
日本文学科	3.27
法律学科	3.22
政治学科	3.11



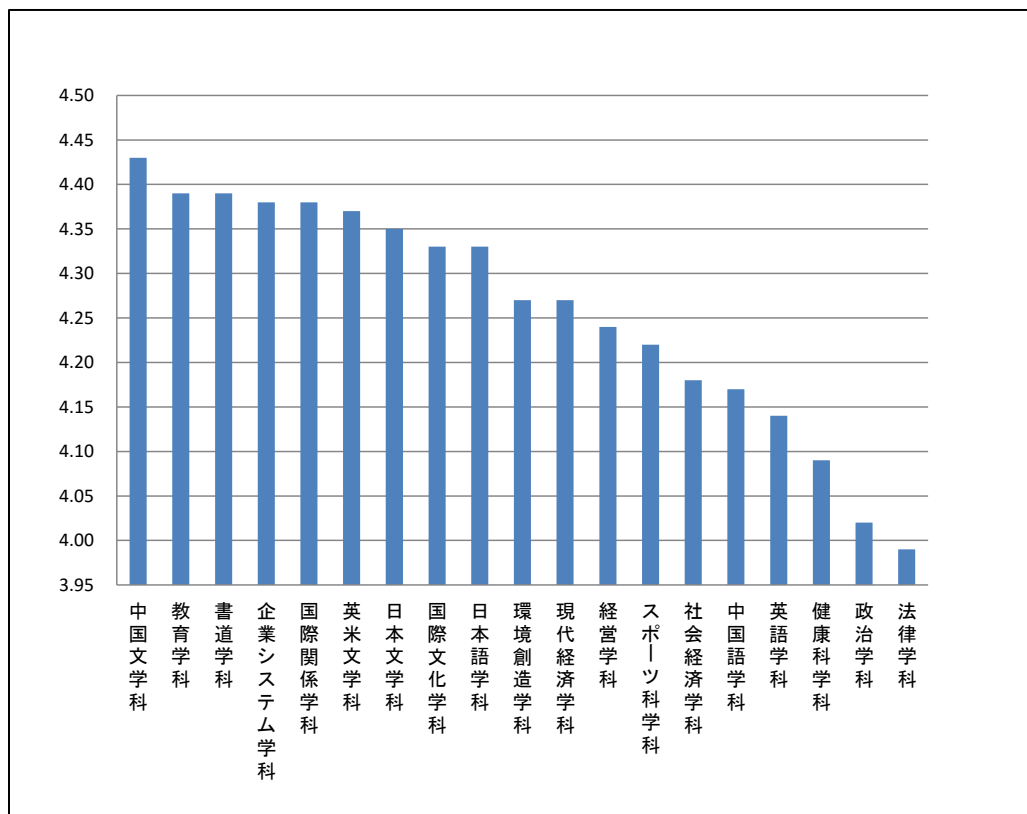
受講態度への対応

中国文学科	4.16
環境創造学科	4.16
スポーツ科学科	4.11
英米文学科	4.04
現代経済学科	4.01
国際関係学科	3.97
英語学科	3.95
社会経済学科	3.95
経営学科	3.91
企業システム学科	3.91
書道学科	3.90
中国語学科	3.89
教育学科	3.89
日本語学科	3.89
国際文化学科	3.86
法律学科	3.79
政治学科	3.75
日本文学科	3.75
健康科学科	3.73



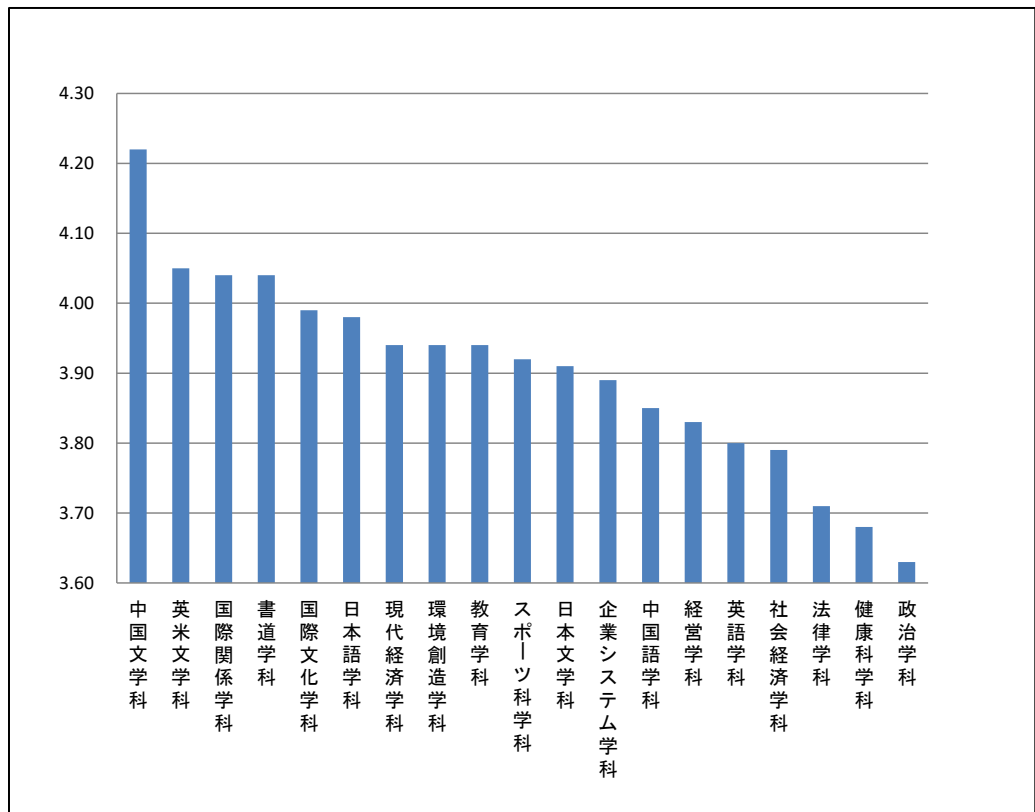
教員の熱意

中国文学科	4.43
教育学科	4.39
書道学科	4.39
企業システム学科	4.38
国際関係学科	4.38
英米文学科	4.37
日本文学科	4.35
国際文化学科	4.33
日本語学科	4.33
環境創造学科	4.27
現代経済学科	4.27
経営学科	4.24
スポーツ科学科	4.22
社会経済学科	4.18
中国語学科	4.17
英語学科	4.14
健康科学科	4.09
政治学科	4.02
法律学科	3.99



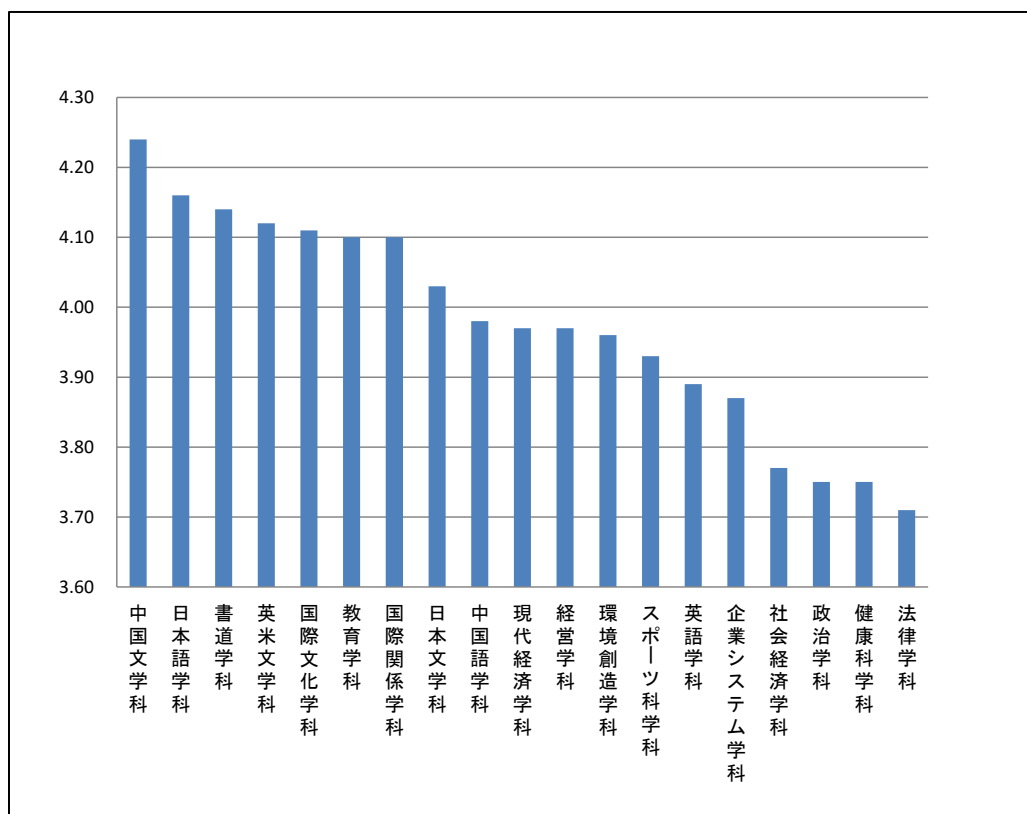
飽きさせない工夫

中国文学科	4.22
英米文学科	4.05
国際関係学科	4.04
書道学科	4.04
国際文化学科	3.99
日本語学科	3.98
現代経済学科	3.94
環境創造学科	3.94
教育学科	3.94
スポーツ科学科	3.92
日本文学科	3.91
企業システム学科	3.89
中国語学科	3.85
経営学科	3.83
英語学科	3.80
社会経済学科	3.79
法律学科	3.71
健康科学科	3.68
政治学科	3.63



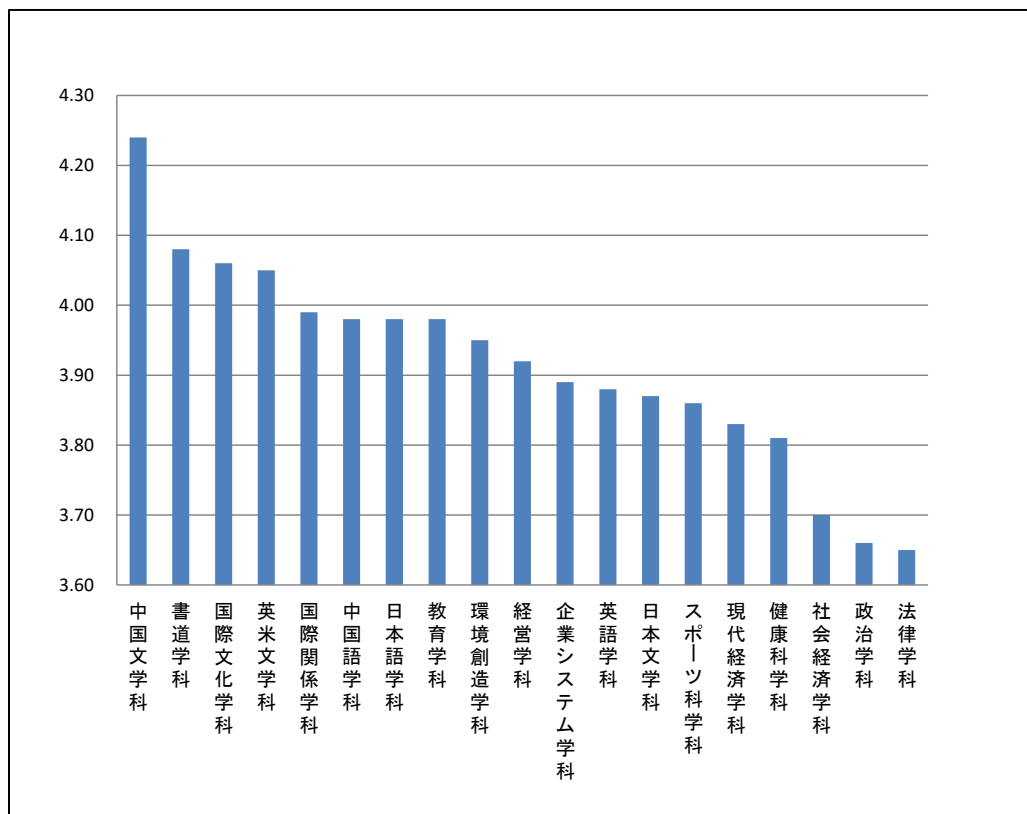
新しい自己発想

中国文学科	4.24
日本語学科	4.16
書道学科	4.14
英米文学科	4.12
国際文化学科	4.11
教育学科	4.10
国際関係学科	4.10
日本文学科	4.03
中国語学科	3.98
現代経済学科	3.97
経営学科	3.97
環境創造学科	3.96
スポーツ科学科	3.93
英語学科	3.89
企業システム学科	3.87
社会経済学科	3.77
政治学科	3.75
健康科学科	3.75
法律学科	3.71



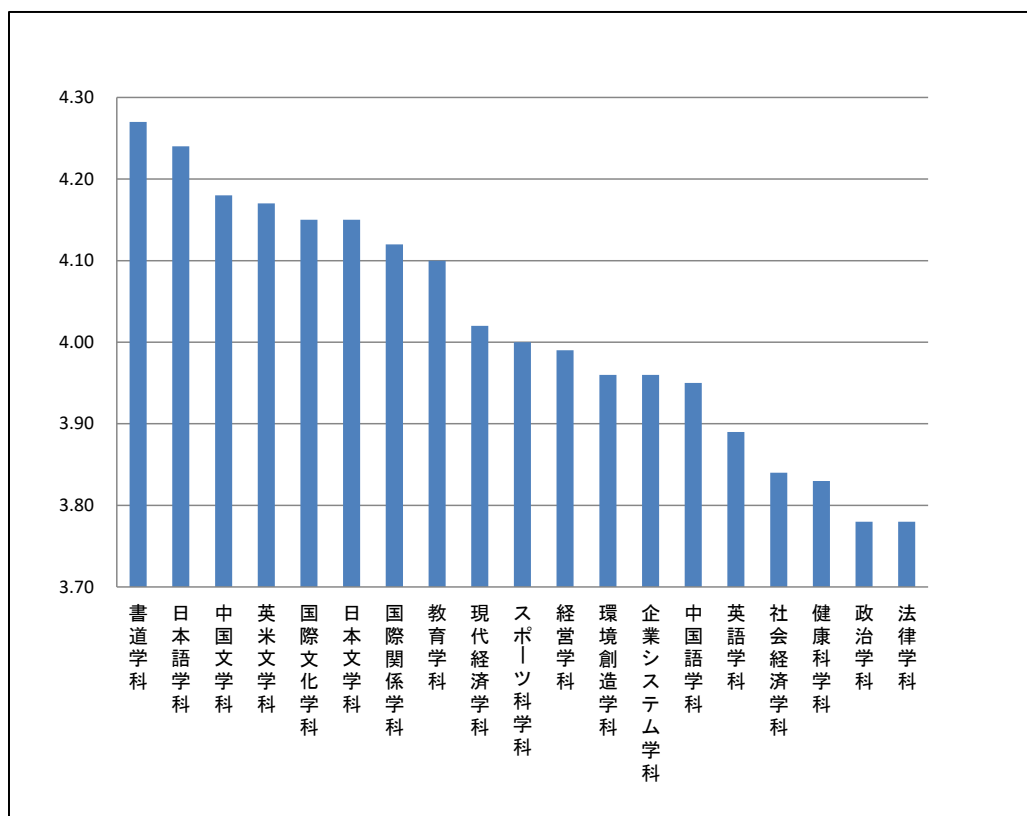
授業への関心度合

中国文学科	4.24
書道学科	4.08
国際文化学科	4.06
英米文学科	4.05
国際関係学科	3.99
中国語学科	3.98
日本語学科	3.98
教育学科	3.98
環境創造学科	3.95
経営学科	3.92
企業システム学科	3.89
英語学科	3.88
日本文学科	3.87
スポーツ科学科	3.86
現代経済学科	3.83
健康科学科	3.81
社会経済学科	3.70
政治学科	3.66
法律学科	3.65



自分で考える姿勢

書道学科	4.27
日本語学科	4.24
中国文学科	4.18
英米文学科	4.17
国際文化学科	4.15
日本文学科	4.15
国際関係学科	4.12
教育学科	4.10
現代経済学科	4.02
スポーツ科学科	4.00
経営学科	3.99
環境創造学科	3.96
企業システム学科	3.96
中国語学科	3.95
英語学科	3.89
社会経済学科	3.84
健康科学科	3.83
政治学科	3.78
法律学科	3.78



満足度

書道学科	4.33
日本語学科	4.25
中国文学科	4.22
国際関係学科	4.20
英米文学科	4.18
国際文化学科	4.16
日本文学科	4.15
教育学科	4.12
企業システム学科	4.11
環境創造学科	4.10
中国語学科	4.10
現代経済学科	4.10
経営学科	4.07
スポーツ科学科	4.03
社会経済学科	3.95
英語学科	3.95
健康科学科	3.88
政治学科	3.85
法律学科	3.83

